

始



特 223
577



使命の
或
激

有
嶋
健
助





裝幀 小林古徑

目次

お菓子を中心に……………一

お菓子業者の苦樂……………七
要求と要求の衝突—單純化と複雑化—他山の石—惱みのまゝの喜び

清潔 第一……………一四
街頭の花園—清潔と日本精神—清潔第一と神風—清潔と日本海々戰—清潔第一
と自己完成

使命の感激……………二〇
綺麗な商賣—無量の顧客—職業の矜—商品の工夫—賣店の經營—苦勞の考察—
人生の登山—文化的商賣—ありがたい商賣—奉仕は修養—サービス學—賢明な
指導—牛となるとも蛇となるな

我社の既往將來……………三三

明治製菓の前線……………四〇

菓子乳製品の將來……………四五

菓子交友録……………五五

菓子と栄養價值……………六〇

協力一致の回顧……………六六

乳製品の話……………七一

房州の謝恩會……………七九

農村と我社……………八四

 岩泉町の膏雨—東北振興の一石—山陽煉乳

北海道との御縁(その一)……………九三

記念の昭和十年……………一〇〇

乳製品の消費促進……………一〇三

牛乳富國論……………一〇八

農村の延長 家庭の延長……………一二四

北海道との御縁(その二)……………一二九

文化生活と菓子……………一三五

 文化と菓子—美感—體裁—單純—衛生—栄養

國民體位の問題……………一三三

今年の回顧……………一三九

 牧場—乳製品—菓子—罐詰

美の追求……………一四四

大明治の第一線……………一四八

録 倉 行……………一五一

輸出の増進……………一五五

至誠奉仕……………一六一

食品の輸出……………一六五

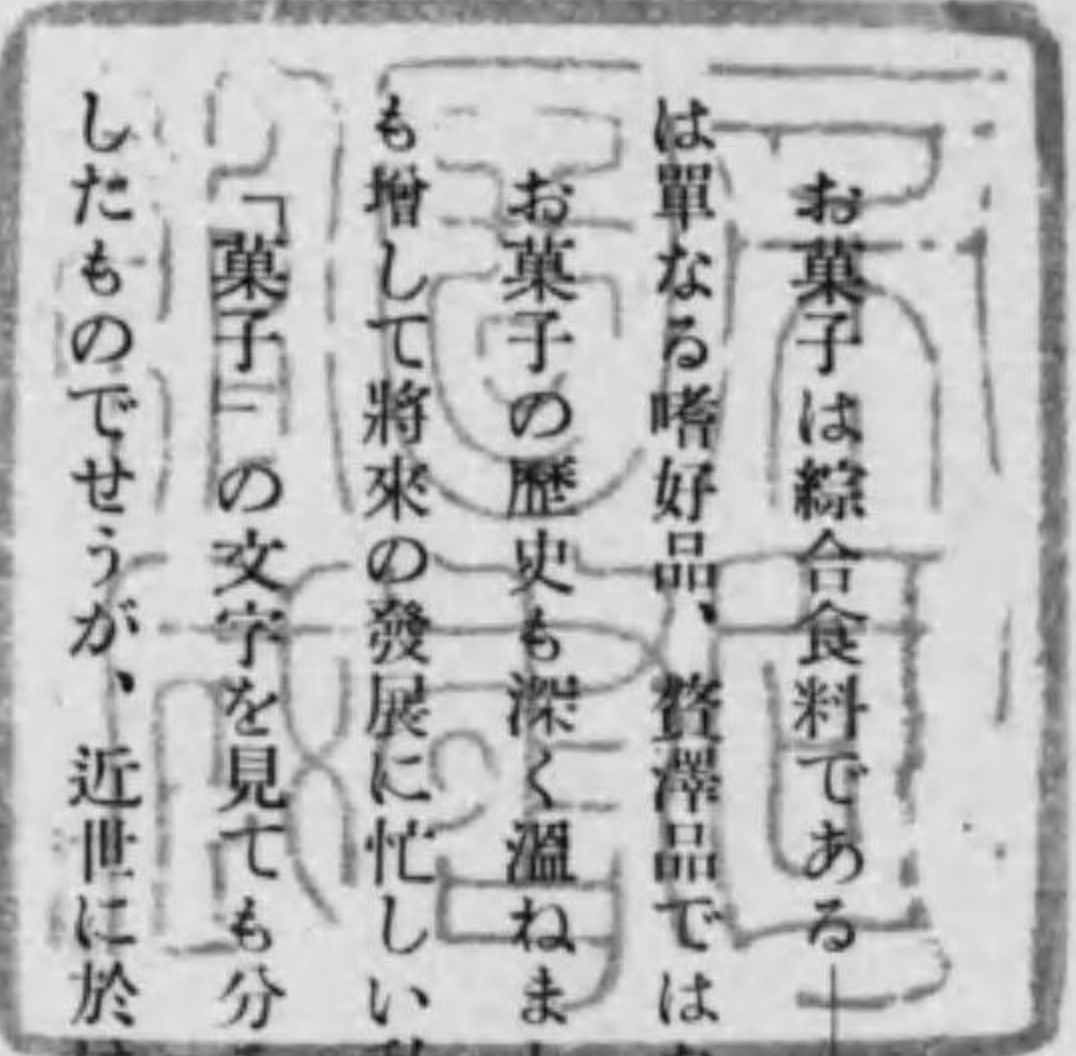
明治製菓賣店の使命……………一七一

神津牧場行……………一七六

大正の満洲事業……………一八七



お菓子を中心に



お菓子は総合食料である——と私どもはさう考へてをります。昔のお菓子と違ひ、今日のお菓子は單なる嗜好品、贅澤品ではなく、榮養上の必需品にまで發展してゐるからであります。

お菓子の歴史も深く温ねましたなら、なか／＼面白いことと存じますが、過去のことを考へるにも増して將來の發展に忙しい私どもとしてはこの餘裕のないのを遺憾に存じます。

「菓子」の文字を見ても分るやうに、お菓子は「果物」から出發して漸次今日のやうに進歩發展したものでせうが、近世に於ける著明な變化は鶏卵とかミルクのやうな榮養素の多く取り入れられるやうになつたことでありませう。

その他從來餘り顧みられなかつた香料とか、色とか、形とか、更に進んでは觸感といふた方面にまで非常な變化をしてをります。

これは洋菓子に就いてのお話でございますが、将来に於ては、この洋菓子、和菓子といふやうな區別もなくなつてしまふのではありますまいか。

外國から歸つた方々のお話によりますと、日本のお菓子は諸外國のそれに負けないといふことでございます。日本人は既に和菓子を作ることに於て尊い訓練を経て今日に及びました。そこへ洋風のお菓子が入つてまゐりましたのでこの方も忽ち和菓子の程度にまで引上げられたのでございませう。

今でこそ、洋菓子、和菓子と區別してをりますが、今後は洋風のものに東洋的趣向を加へたものが多くなつて来るでせう。日本人は手でする技術の旨さに於ては世界既に定評のあるところでございます。

お菓子が贅澤品ではなく、必要品にまで發展して来たことについては前にもちよつと述べましたが、未だ日本では贅澤品視してをられる向もすくなくないやうにおもはれます。西洋では食事のコースの中には大抵お菓子が入つてをります。主食物の後には屹度お菓子が遣入つてをります。日本でもやがて一般にさうなるのではありますまいか。

殊にお子様方に對しては、お菓子は絶対に必要でございます。子供からお菓子を取り去ることは不可能で、お子様がお菓子を要求するのはお菓子がお子様のエネルギーを急速に回復することを無意識的に感得してゐるからでございます。

私どもの經驗によりますと、最も少量でしかも疲労を回復することの出来るものは、矢張りお菓子だとおもひます。軍隊の行軍とか南北極の探險、長途の飛行とか、運動競技の後とかには大人でさへお菓子を必要とすることは周知の事實で、無論これはお菓子に含まれてゐる砂糖、ミルク、或はチヨコレート等の栄養素が、エネルギーの回復に、最も速かに役立つからでございます。殊にチヨコレートには多分のカロリーを含んでをります。

尤も世間にはこんな事を御心配になる方もございます——御婦人など「お菓子を食べると太る」といふ。成程今日のお菓子は滋養豊富でございますから、——少量でも充分に體力を維持しますから多量に攝る必要はありませんが——多量に食べれば太るかも知れません。しかしこれもあまり多量に食べるところから起ることでありまして、適量を戴く分には一向差支はございません。

お菓子を食べると歯が悪くなるといふ説も誇張に失したお話で、歯にも生命があるのでありますから、適當の榮養分を採らなければ歯は死滅してしまふより外はありません。お菓子にはビタミンも礦物質も含水炭素も脂肪も蛋白質もあるのでありますから、完全なものを探ればよい譯でございます。子供が歯を悪くするのはお菓子を食べるためではなく、その選擇を誤るか歯の養生が悪いためでございます。

またお菓子は消化が悪いとも申しますが、これも質と量との問題で、どんな食物でも良品を適量に攝らなければ悪いに極つてをります。

如上の意味から言つても將來お菓子はもつと豊富なる榮養分を愉悅の裡に供給するものが現はれなければならぬと思ふのでございます。

お酒を飲むとか、食事を共にするとか言ふことは、誰でも、また何處でも出来るといふものではありませんが、これに反してお菓子は中々普遍的なところがござります。母親が子供にお菓子を與へますときにはお菓子のもつスキートの外に親心のスキートが加はるのでございます。母親が若し甘いものをその子に與へる機會をもたなかつたなら、其の子供はかくまでに母親を慕はぬであらう

といったアメリカの児童心理學者の言葉も首肯し得るではござりませんか。お菓子は吉事にも凶事にも、まつたく普遍的に、あらゆる場合にびつたり當てはまるのでございます。

お菓子をつくる事業は、世の中を甘くする——甘く見るのではござりません——世の中の辛さ、劇しさ、慌しさを緩和する事業でもあると私共は考へてをります。

明治製菓賣店なども、かなり贅澤なもの、様に見えますが、これは決して經營者の私的なものではなく、大方の快適な御休息のために御利用を乞ひたいためでございます。假令一杯のコーヒーでも清麗な部屋でよいサービスの下に差上げることができたらどんなに喜びと生氣とを受けて戴けるか——いつもこれを念頭に快いサービスの出来るやう私共は心懸けてをります。

明治製菓には現在三十の賣店があり、そこには五百餘名の男女店員がをりますが、私共はお菓子をつくると共に人間をつくることに努力してをります。先づ清潔を第一に、顧客のサービスは親切に、動作はやさしく、機轉を利かせて——等、等、等、能く訓練を重ねて絶えず時代の進歩に順應して新味を加へることに心掛けると共に、日本特有の品位とか、淑かさとかは飽くまで助長し、顧客の趣味に適合するやう訓練するのでございます。明治製菓の賣店にゐるた女ならお嫁の口も早い——

—といはれるやうにしたい。お菓子をつくと共に人をつくる——これは私共の久しい念願でございます。(昭和六年六月)

お菓子業者の苦樂

要求と要求の衝突

私共製菓業者の理想の一つは「良品を廉價に。」それでありませぬ。良い、美味しいお菓子を、廉くてドツサリお客様のまへに提供する、碎けていへば、そこに私共製菓業者の根本理想の一つが置かれるのです。

ところがこの根本理想を、いよいよ事實の上に現はす爲めには、結局大量生産で行かねばなりません。そしてそれには規格の統一といふことが自然に要求せられ、製品の仕込み、包装、容器の形状、色合等々の一定が要求せられ、隨て製造工程が合理的になり、運搬、計算等も便利となり、そして、これ等に依つて製造原價が低減せられる結果、自然賣値が廉くなることになるわけです。

では、私たちは、果してその方針だけでお菓子の製造に熱心従事しさえすればよいかといふに決してさやうに簡單には参らぬのです。そのわけは、品質が良くて、美味しくて、量が豊富で、値が安いといふことは、誰でもが望むところではあるけれども、さてそれだけが、それでは、需要心理の一切かといふに、強がちさうとは極らないのです。更にお菓子の大小に、形状に、色彩に……包装に、レツテルに、容れ物に、各種無限の相異つた嗜好要求が、次から次とそこへ生れて来るわけなので、これは前に述べた商品單純化の理想に對し、全然その反對の位置傾向を辿るところの、所謂趣味の複雑化するものです。

それら二つの傾向は、誰が考へても、明らかに相矛盾するところの流れであり、調和しにくいものであつて、私共製菓業者の一つの困難が全くそこにあるわけです。

例を擧げて申しますと、たゞ單に、商品の單純化といふことに重きをおきまして、値を低くすることのみ考へ、同じ形のお菓子ばかりを作りますとお客様は、

「いつも同じではないか」

と、お氣に召さないのです。たとへ種類が違つてゐても、その形に新味がなければ、

「なんだ、去年と同じだね」

と、皮肉を承ります。また同じチョコレートならチョコレートを、いろ／＼な形に列べて箱に入れておきますと、

「みんな同じお菓子ではつまらない、もう少しバラエティがなければ……」

と、お叱言をいたゞくのであります。

人各々の好みは、まことに、一樣ではございません。それゆゑ、私ども生産者の方で、採算の上から製品の單純化を行ひ、お客様に向つて、

「そんなことをおつしやるものではありません。この方がお客様のお徳用なのです。」と、いひ張る譯には行かないのです。

單純化と複雑化

之を物理學的に申せば、單純化は求心的であり、複雑化は遠心的であります。前者が、中樞に向つての直線的な綜合統一を意味するものとすれば、後者は中樞より外部へ向つて、多面的に分

化發展を意味するものといふことが出来ませう。

別な言葉でいへば、単純化は直線であり、複雑化は曲線であります。單に目的地に達する近道といふ點のみから見れば、直線は曲線に勝ること萬々ではありますが、曲線には美が伴ひ、餘裕があり、又面白味もあるのです。矢張り曲直の配合宜しきを得て、始めて人間の意識を満足せしむるものといへませう。言葉は古いが、眞善美への努力、それが私共の人生に與へられた希望ではありますまいか。

科學の世界では、天文學のやうに數へるに窮するやうな極大から、細菌學のやうに小數點以下何萬何千萬分の一と申すやうな極小物質の實在する譯ですが、人間生活も同様に、千差萬別、多益々複雑化するのです。人間生活が複雑なれば、商品も隨つて複雑とならざるを得ないので。私共の製菓事業も、一方には単純化に努力しながら、他方には複雑化に順應せねばならぬ所にも多大の苦惱が存するのです。

他山の石

之は權威ある建築家から聞いた話であります。建築主の注文が無理であつて、現今の建築技術ではとても出来ない相談であつても、それを一概に出来ないと云つて斷つてしまつたのでは、建築主も満足しないし、建築家にも何等の進歩發達がない。そこで、それが出来ても出来ないでも、率直な希望を承はり、何とか工夫して、其の要求點へ到達するといふことが、建築家の任務であるといふのであります。丁度私共が菓子業者のいはんと欲する所を喝破してをるのです。

昨年私共の會社の技師が、獨逸の製菓事業を視察しての報告に依ると、菓子の内容が全く同一である場合にも、其の包装とか、取合せ方等に就ては、非常に苦心をしてゐるといふことがあります。つまり味覺を通しての菓子の外に、視覺を通しての菓子として、所謂意匠に慘憺として努力しつゝ、あることがわかります。獨逸のやうな、リーズナブルな國に於てすら、さうであるから、お菓子は時代の嗜好に適應して、絶えず新味を出すことが必要となります。

惱みのまゝの喜び

併し又、靜かに考へてみるに、元來からして人生そのものが、すべて矛盾にみちてゐるので

す。みちてゐるといふよりも、矛盾そのものが、自然人生の大調和の半面でもあれば、同時に一切創造の神秘的道程だとも、いひ得るものではありませんまいか。

文化の方向にしてもその通りで、その半面を爲すものは、複雑より單純へ——であると同時に、他の半面を爲すものは、それと正反對の、單純より複雑へ——の歩みなのです。業に製菓にたづさはる私共は、又この大自然界の鐵則のまに／＼順應し、心にこの相矛盾せる兩翼をつかんで、中正穩健なる文化的創造的大任を果してゆくところに、又私共の、人の知らない大きな喜びもあるわけなのです。いふまでもなく、これは生産的創造の喜びなのであります。

文化生活の二面たる、單純化及び複雑化への努力活動から、千態萬様の社會現象が反映されてゆくのではありませんが、私共製菓事業の上に、これ等二様の運動が實際的に營まれる關係を考へると、前者は主として「良品廉價」への經濟的努力として現はれ、後者は主として、多様多端なる「人間の趣味性満足」への努力として、動いてゆくほかないのです。この相矛盾した二つの流れを、彼此互に相調和せしめて、人間本來の要求に、なるべく、少しでも、接近した製品を作り出

す事は非常な困難を伴ひ、多大な鍛錬を要する仕事にはちがひありませんが、そこに又、それ相應な、勇氣と喜びが、苦心發明等の努力に酬いて、不斷に泉の如く湧いて來るのです。さうして私共は、お菓子を造ると共に、自己をも造るのだと信じて、愉悅の裡に、働いてをる次第であります。(昭和七年一月)

清潔 第一

街頭の花園

清潔第一！これは、私どもの御菓子経営上の一大スローガンでございます。綺麗な物の譬として、花の様だと曰ひ、又は御菓子の様だと申します。御菓子は綺麗な物には相違ありませんが、右の譬は、多くは美の意味での綺麗さであつて、清潔の意味での綺麗さは、寧ろ是等の言葉の中にはいくらか含まれてゐない様でございます。御菓子は食物であるが故に、その綺麗さたるや、眼に映する美の外に衛生保健の關係からも、將た人生の感じの上からも、清潔第一であらねばならぬことは勿論でございます。

御菓子の店は、美の意味での綺麗さに於ては、慌しき街頭に、さながら百花爛漫たる花園を提供したやうなものでございませう。その濃淡、色とりどりの、美裝した御菓子の姿は、千紫萬紅の花の粧にも似て、御客様の眼を喜ばしめ、御菓子の調合された、様々の香料さへも、その香氣

が、店内に漂ふて、何となく馥郁たる快感を與へるのでございます。尙その上に、この街頭の花園には、すべてにスキートな御菓子の美味や、口に入れて融ける様な乳製品の滋味をも味ふて所謂フレッシュすることが出来るのですが、私どもは更に之に加ふるに、清潔の意味での綺麗さを徹底せしめたく努力してゐるところなのでございます。

清潔と日本精神

あの祝詞といふものを聞いてゐると、ハラヒタマへ だの、キヨメタマへ だのいふ語が、よく出てくることにお氣がつかれるでせう。あれはみんな、悪氣と不潔とを厭ふ心、端正と清潔とを願ふ心の現はれなのでございますが、かうした心の傾向は、我が祖先の特色であり、同時にまた日本國民の特色だともいへるやうでございます。實際我々の祖先ぐらゐる不潔を忌みきらひ、清淨を慕ひもとめた國民は、世界中何處の國にも、その類がなかつたといへませう。天壤無窮にして連綿たる金甌無缺の國體は、實に神州清潔の民に與へられたる、自然の展開、自然の成長、それ以外ではないのでございます。眞にせよ、善にせよ、美にせよ、つまりいつてみると、みんないづれも清潔の觀念に包括される筈なのでございます。元來清潔第一を、古より宗として來た我

我國民が、世界無比の道徳的國民であるといふことも、當然と思ふのでございます。

次で佛教はその渡來後、我が國の精神文化に非常な貢獻をなし、國民の信奉を受けたといふのも、つまるところは佛教本來の大精神たる淨土の精神が、偶然といふか、必然といふか、我が國古來の傳統的理想、いひかへれば、清潔第一の神ながらの大精神と、ピッタリ一致したからではありますまいか。

清潔第一と神風

清潔第一の國民的大精神は、平和な形ばかりではございません。この大精神が、激烈な象徴として發揮されたのが、弘安四年の元寇に對してもつた、我々國民の忠勇無双の態度なのでございます。あの時三軍に號令したのは、時の執權相模太郎時宗でございますが、彼をしてあんなに毅然と、日本魂の上に取り上らしたものはといへば、佛光國師だったのでございます。

皇國未曾有の外患ですから、流石の時宗も心に悩みがあるのは當然でございます。そこで彼は、日ごろ隨喜の佛光國師に胸を開いて教を求められたわけなのでございます。

「莫妄想」

それが國師の一喝でございました。妄想してはいかぬ。今や大日本帝國は、敵國の來襲を受けてをる。汚らわしい夷狄の族に、その神聖を汚されようとしてゐるのだ。この上は敢然起つて祓ふのだ。猛然進んで潔めるのだ。それ以外に道はない。國家の存亡をそれより以外に、思慮するなどは間違ひなのだ。とかういはれたのでございました。

時宗は感極まつて、采配をふるつて獅子吼いたしました。國師は微笑んで、

「おう、さうだ」

といつてほめられました。さうして起ち上つた國軍の意氣でございました。天神地祇の大靈が動かぬわけはございませぬ。かの筑紫灣頭の神風は、寔に神人融合の神秘的な魂の調べにほかならないのでございます。

清潔と日本海々戦

日露戦役後、私は臺灣航路の船中で、一夜或る若き海軍士官に話を聞いたことがございました。その青年士官の話の中に尊い言葉がありまして、今も猶記憶してをります。それはどんなことかといへば、かの日本海々戦に於ける帝國海軍の大勝利の原因は、つまり清潔の二字に收まる

のだといふのでございます。こゝで清潔は秩序と整頓とを意味し、将卒の身なりから武器、それから軍艦の隅から隅に至るまで塵一つ亂れず、整然たるを意味するのでございます。かうした外形の整然さは、常にその精神の充實緊張の反映でございます。さうして人間精神のかうした尊い状態以外に、日本魂の如實な姿がございませうか。

清らかさを求める心に、忠實があります。信義があります。廉恥もあります。親切も貞操も正確も無論あります。清潔第一の理想を外にして、國家生活も、個人生活も、存立繁榮兩つながら不可能でございます。

今や我が國は、滿洲に於て將た上海に於て、未曾有の一大事變に遭遇してをるのであります。

この妖雲を拂ふて、やがて赫々たる天日を仰ぐは、我が神州清潔の民の、自らなる使命であらねばならぬと思ふのでございます。

清潔第一と自己完成

近來社會に淨化運動なるものが持ち上つて來ました。綠化運動なども大によいと思ひます。政界に於ける清き一票などは勿論の事です。人事百般その榮枯消長のか、はる所は實に清潔か否かに由るやうでございます。

昔の支那の歌に

「滄浪の水清ければ、以て我が纓を洗ふべし。滄浪の水濁れば、以て我が足を濯ふべし。」

といふのがあります。同じ水でも清いと濁つたのでは、値打が違ふ。冠の紐を洗はれるか、土足を洗はれるか、どつちの水になるか？ 之は一つ心靜かに、考へてみねばならぬ問題でございます。

私どもは常に清潔第一を標榜して、明治製菓を經營してゐます。これは製菓原料に、製造工場に、従業員に、賣店に、店員に、斷然清潔を保たせ、御客様の爲めに清潔な、氣持よい、衛生的で、さうして保健的な御菓子を提供したい私どもの最初からの理想に由ることは勿論ですが、同時にまた他面にも今一つの大きな理由があるわけです。それはこの清潔第一の心がけの培養に由つて、私ども明治製菓の従業員全體が、如何に人格的に自分自身をおし高め、大きくし、個人として、國民として、自己完成の急がばまはれの大道を辿り得るかを、私どもが信じてゐるからなのです。それには今後一層大方の御指導を仰ぎたいとおもふ次第でございます。(昭和七年四月)

使命の感激

綺麗な商賣

一口に商賣と申しましても、色々種類も多く、範囲も廣う御座います。私共の商賣はお菓子の商賣でございますが、この商賣の特色の一つは、取扱ふ商品が綺麗であるといふ點でございます。かうした綺麗づくめの商賣をさしてもらへるといふことは、私共にとりまして實に愉快なことでございますが、それとて元々御客様方のお蔭、世間様のお蔭であることをおもひますとき、胸にはいつでも感謝の念ひが溢れて來るのでございます。私共が誠心誠意サービス本位で努力精進しないではゐられない氣持にされますのもかうした衆恩を沁々と感じるからでございます。

無量の顧客

私どもの商賣は前にも述べましたやうに、實に綺麗に美しい商賣でございますが、實にありが

たいことは、私どものお客様が如何にも多種多様、殆んどそれがあらゆる階級を包容し、老若男女のすべてに及び、所謂大衆のあらゆる分野をつかんでゐる點でございます。天真爛漫たる可愛らしいお子様達、元氣潑刺たる青年諸君、優麗花にもたとふべき御婦人方、人生の酸いも甘いも味ひつくしておいでのお老人方などと數へ上げると、私どもの商賣的に戴きつゝある大木の蔭は、何と鬱然たる廣大無邊なものでございませう。ここにも私どもの商賣だけがもつところの、感謝幸福がたしかにあるのでございます。

職業の矜

「職業は神聖なり」といふことは、勿論眞理でございませう。併し、さうは申しましても大悟の聖者はしばらく措き大多數の凡人から申しますと、所謂きたないものを取扱ふ職業にはあまりぞつとしないのが本當の人情なのでございませう。そこへゆきますと、私どもの取扱ふお菓子といふものは、毎度申上げるやうでございますが、お菓子そのものが花か珠玉のやうにまづ綺麗であるばかりではございません。その原料も、その包装も、その店舗も、すべてが綺麗でございます。原料としては雪のやうな砂糖、芳香むせぶやうな新鮮な牛乳、さらさらと細かな麥粉の感

觸、瑪瑙かとまがふ飾の明色、鼈甲色に焦げたカカオビーン等々——とりどりにどれとどれとして私ども人間の感觸と嗜慾に甘へぬものとはありません。それに、それらを彩なす各種各様の香料それぞれが発する馥郁たる芳香は、また皆さまの心魂を甘味の陶醉境へと彷徨させずにはやまないのでございます。こゝにもまた私どもの商賣の、いはゞ魔術師の矜にも似た歡びが湧いて來るのでございます。

商品の工夫

包装についても、私共の仕事の中でこれ位實に慘憺たる意匠を要求することも稀でございます。あまりけばけばしいのもいけず、さりとして滋味に凝つては向がわるくなり、上品にすぎてもポビュラリティを無くしますし、下品に墮ちては尙更すくはれない——といふわけで、それがなかなか難物なのでございます。それに紅紫黄緑などの色の取合せ、濃淡の配合、紙質と印刷の出來具合、圖案の選定、文字とその入れ方、レーベル、紙函、ブリキ印刷罐の寸法、形状、等々——みんなそれ等を一は嗜好に投じ、他面では同時に時好をも創り出すやう工夫しようといふのでございますから、ちよつと並大抵の仕事ではないのでございます。併し靜かに考へて見ますと、

それらの工夫が困難であり、努力が複雑でありますただ他面から申しますと、そこが私どもの商賣の特有の張合、興味のあるところでございます。またこれあるがために美的訓練をも要求され、総合的テストをも課せられるわけでございまして、これ等は結局、私ども人間としての一大試鍊に値するわけでございます。

賣店の經營

次に賣店の方面を考へて見ますに、これも經營上仲々困難な問題でございます。理想的賣店をつくるようになりますと、どうしてなまやさしい事ではございません。一口に申しますれば、大體に於て、第一に上品なこと、第二が新味でございます。さうかといつて根が商賣のことでございすから、上品といひ、新味といひ常に社會と歩調を合せるのが何より大事でございます。て、あんまり時好とか離れすぎますと決して面白くはまありません。どちらかと申しますと、特に近代人は明るい氣分を重んじますから、外壁の色なども、白とか淡彩とかを選ばなくてはなりません。これがまた環境に應じて目立つことにもあるのでございます。シヨウウインドウと賣場に於ける菓子や乳製品の排列もこれ亦經營者の苦心を要する所でございます。それが雜然と

來ては勿論お話になりませんが、といつて變にちんまりまとまりすぎて索然たるのも感心できません。つまり豊富な商品を積上げて而もそれらが系統立ち、きちんと威容を整へてこそ、お客様
の注意を惹きつける魅力が自然に備はるのではないかとおもひます。

苦勞の考察

それから、喫茶室について一言いたしますれば、そこに備付けの卓、椅子、そこで用ひられる
カップ、皿、タンブラー、スプーン等一々それらにも綿密周到な工夫研究が積まれてゆかねばな
りません。バックバーは日本間の床の間や西洋間のマントルピースに比すべきものでありまして
ここを燦然と引立たせるやうに多大の注意が拂はれてゐるやうなわけでございます。シャンデリ
ア、ブラケット、煖房、通風その他の室内設備、さてはネオンサインに至るまであらゆる裝飾
につきまして、論じれば無論限りもありませんが、それ等も一々斯道の權威者の研鑽の餘に出
たものにはちがひないのでございます。——といふやうに、まあ、ざつとお話いたしましたもか
ういふわけでございますし、私どもの商賣は案外複雑な機構のものでございますが、業務が複雑
に出來てをりますだけ、また考へやうに依りましたは、實に面倒臭く、苦勞多く厭な仕事だとも
ございます。

いへませう。事實私共の半面には人間であります限り、さうした氣持も偶には動かないとは限り
ませんが、併しそれとて何處までも半面の動きでありまして、それが全部では決してないのでご
ざいます。

人生の登山

近代人は盛に登山慾を發揮するやうでございますが、それがまた自然であるとおもふのでござ
います。この登山にいたしましたしても一面から考へますと決して氣樂な仕事とは考へられません。
それは誰方でもお登りになつて見た方ならお判りでせうが、峻坂を攀ぢつ、高山の頂を極めると
いふことは、なまやさしいことではございません。重い足、はげしい呼吸、襲ひ來る風雨——け
れども登山の快味はそれ等の苦痛と戦ひながら瀧なす汗の下を、強い意力であらゆる障碍を征服
し、初一念を貫くところにあるのでございます。かうした氣魄の所有者には最後に至つて絶頂を
極めた刹那の愉快はさることながら、千鈞の重い硬ばつた脚を引ずりつつ敢然と交す一步一步に
さへ、何ともいへぬ歡びと、勇みと、にほやかな心の矜とを、雄大秀麗な山氣の中から必ず汲む
でせうし、そしてまた、よくしたもので、さうした苦難の登攀を暫くつづけてまゐりますと、そ

こには必ず眺望絶佳の小平が待つてゐるものでございます。登山者たちの鬱勃たる雄心が、いかでか欣然快哉を叫ばずにをられませう。これは登山の話でございますが、ちやうどそれと人生の行路とは同じであつて、受難と自由と、苦勞と歡びと、汗と愉悅とは到る處に糾つてゐるのでございます。わたくしどもが自分たちのお菓子商賣の、前にも述べましたやうなや、こしい煩瑣な業務の分野を、息せき切つて辿りながら、前途に一の廣漠たる希望をもつてゐて、その上一步一步と利那利那の苦勞の裏に、一掬の人生的感激と、興味と歡びとを味ひますのは、さうした法則が存するからのごとなのでございませう。

文化的商賣

それにいたしましても、何より一等よろこばしいのは、私どものこの商賣が、人生の動向——文化の流れに並行一致してゐることでございます。事實、私どものこの商賣は、直間接に食品文化と國民保健の上に不斷の貢獻をつゞけてゐるわけでございます。そこから湧き起る「産業報國」の大信念が、いつも私どもを、希望と、矜と、明るい歡びに精進せしめるのでございます。それと私どもが自分の商賣について考へますのは、自分等の取扱つてゐる品物が悉く榮養食料か

ら仕上げた所の綜合食品であり、その相手のお客様は老幼男女を籠めた所の國民全體、人類全體であり、更にその商品の大事な用途が家庭的、社交的兩面に亘り、そしてそれが慶事にも、凶事にもひとしく利用せられ、人生そのものを平等に霑し和げてゆく點なのでございます。

ありがたい商賣

世の中の數知れぬ事業の中には、文化の動向に背馳し、世運の進展と全然相伴はぬものも決してないといはれますまい。ところが、幸にして私共の商賣は文化的食物に關してゐますので、世界文明の進歩につれて發展向上してゆくのみでございます。それに只今も述べました如く、商品そのもの、用途が各部面のあらゆる要求に投じます故、所謂俯仰天地に愧ぢずで、或種の商賣のやうに何も世間の一方面にせ、こましく躡踏をする要もなければ、人生そのものあらん限り行き詰るおそれもございません。事實このお菓子の製造に従事してをりますものは、どれほど近代科學の粹を究めましても、尙その盡くるところを窺ふことはできませんし、又これが販賣に従事するものは、單に地理人情と製品との交渉調和點を索求いたしますにさへ、どれだけの日子でも決して多すぎはいたしません。さうして又、かういふ風に工夫し、研鑽し、努力してゆく所に人

生の希望を充たし、文化の進展に寄與する所以が嚴存するのだと信じますが、それと同時に自分たち自身の人間的成就も遂げられてゆくのだとおもつてをります。

奉仕は修養

私どもの賣店に従事するものは、つねにお客様に直面してゐるのでありますから、第一の心掛は何と言つても清潔でございます。お客様に對しては勿論親切を旨とすべきであります。一方機轉も利かねばならないし、言語も明晰であることを要します。さういふわけで一口に「サービス」と申しますけれども、この奉仕の實を完全に果すといふ事は並大抵の事ではないとおもひます。並大抵のことではないから念には念を入れて大事に奉仕する——その至誠、最善を盡すところにお客様の御満足と信用とが報いられ、賣店そのもの、繁榮の基礎も立つわけでございます。ですが何もそれは、賣店の繁榮のみが結果のすべてではありません。何故かといふに、それと同時に、それを將來する従業者各位の熱誠努力は、その親切なサービスを通じて、彼等自身の人間價值、人間資格を不斷に作成し、完成せしめつゝあるからであります。

サービス學

このサービスといふことについて、ふと頭に思ひ浮んだのは、何かの本で讀んだことのある支那の教育に關する語でございます。

『洒掃應待は日常の要務だ。それを仕といつて、餘暇があつたら文を學ぶがよい。』

こんな語があつたと記憶しますが、私どもの賣店に於ける「清潔第一」が、即ちこの洒掃に當ると思ふのです。次のサービスは無論支那の古人の語でいふと應待に當るとおもひます。文を學べと申しますのは、學問のことでございますが、洒掃清潔と、奉仕サービスを第一に置いて、次に、學問をもつて來たところに實際教育、人生教育の尊さと眞剣さが沁々慕はれてなりません。これは昔の支那の事です。今の支那の教育は排他的でんでお話にならないことは申上げるまでもありません。賣店の仕事は家庭にも人生にも決して背馳するものではありません。なぜならば洒掃應待は何れの家庭でも必要だし、これ等を離れて別に人生があらう道理もありません。賣店にお出になる方々は現に何れも家庭人としての皆様であり、仕事も家庭と同様でございます。即ち賣店即家庭であり、家庭の延長の上に賣店があるとも言へませう。だからこゝでよく訓練され

た店員であれば、家庭人としての資格も、又人間としての品位に於ても立派なものにちがひないのでございます。

賢明な指導

英國のロンドン市に「ライオン」といふ大きな菓子會社がございます。國內だけでさへ大小數百の店舗を有つとても有名な大會社でございますが、その社長をしてゐる方は食品文化に貢献したかどで、なんでも「サー」の爵位をさへ授けられた（と、記憶してをりますが——）ほどの大人物でございます。そしてこの會社に勤めてゐる店員は何千といふ數に上ることとせうが、この「ライオン」で勤め了せた婦人なれば、お嫁の口が非常におほいのだと申すことです。それはつまり、すべての訓練が行届いてゐて、立派に人間が出来てゆくからでせう。この會社の指導精神といふのは、有形無形の清潔第一主義でございます。苟も店員に不貞の噂でも立つたら最後、早速その店員は解雇され常に店内全體の空氣を一新することに注意を拂つてをるとかいふ話でございます。これは一面酷すぎるやうでございますが、これが本當は事業の權威を永へに確保するのみではなくて、同時に又、大事な人の子をお預りする所の眞の事業家としての親切な態度でも

あるのでございます。

牛となるも蛇となるな

かういふ風に觀じ来りますれば、賣店の一面には毎日お客様への奉仕を學ぶ學校としての意義もあります。さうして、それは又同時に、人間生活、殊に婦人のあらゆる生活の分野に於て一番重要な學問を授ける學校だともいへるわけです。物事はすべて見方が大切だとおもひます。佛教の經文の中にも

『蛇は水を呑んで毒を作り、牛は水を呑んで乳を作る。』

そんな語があるさうでございますが、何事を爲すについても、心の置所が肝要でございます。

例へば賣店の従業者が若しもその仕事を厄介におもへば、折角のサービスも心に毒液を作るだけだが、お客様を大事な社會學校、實習學校の先生だとおもひさへすれば、お褒めのお言葉は無論のこと、きついお叱言さへも賣店は勿論自分の完成への金科玉條となるわけで、つまり水を呑んで乳を作る牛の美德に恵まれるわけでございます。私どもの店員たちは大抵かねてからそんな心掛で勤めてゐること、信じますから、どうぞ千客萬來の紳士淑女の皆様方に於かれましても、

あらゆる點に關しまして、賣店の責任者なり又は店員どもにお氣付の點だけは、どしどし御遠慮なく御指導のほど心底からお願申上げる次第でございます。(昭和七年十月)

我社の既往將來

歐洲大戰亂の際は我國の産業は孰れも好影響を享けましたが、砂糖業もその中で特色あるものでございました。製糖各社は少からぬ利益金を得て増配を爲すの外積立金をも増加いたしました。積立金の利用策として、砂糖の運搬の爲め船舶を購入する製糖會社もございました。今日船を買へば、明日は買値の何パーセントかは騰貴するといふ豪勢で、何百萬圓何千萬圓の巨利を博する船成金も出來ました時節でありました。船をチャーターに出せば莫大な料金の収入があり、船を買ふた製糖會社は砂糖本業の外、船舶での儲かりも巨額な計算となりました。明糖も亦御多分に洩れずして積立金は増加いたしました。結局船は買ひませんでした。それは、製糖業は元來が、農工業であり、船を有つて海運業までも兼營するなどは、所謂泥船に終りはせぬかと心配したからでございます。株主からは、他の製糖會社が船でしこたま儲けてをるのに明糖の重役はなにをしてをるか、積立金を増加する外別に手腕はないではないかと小言の中入れもございました。併しいくら考へて見ても我々は固定の工場の經營には何程經驗はあつても、動く工場のやう

な船の經營などは製造業者の敢へて能くする所ではあるまいといふ結論に到達いたしました。それでも株主の申入れに對しては何とか一と工夫せねばならず、尙そればかりではなく、豫て我々砂糖業者として考へ及んだ事柄もあり、實行すべきは今や此秋なりと思つたので、愈々決心したのが明治製菓の事業着手でございました。

製菓製乳とも砂糖を半分内外も原料とする事業であり、菓子も煉乳も所謂砂糖製品と稱すべきものであり、換言すれば砂糖業の延長であり、砂糖業を此處まで持つて來る事は砂糖業者の使命でもあります。粗糖を精製して精糖となし更に之を角糖となし、糖蜜を醸造して酒精となした砂糖業者は、竿頭一步を進めて菓子や煉乳にも及ぼすべきなにはあるまいかとは、明糖が宿昔糖業聯合會あたりにも主張した所でありました。此の信念がありました故に乃ち船に反して製菓製乳業に振向いた所以でございます。

菓子は、大正五年に、煉乳は同六年に着手しましたが、事志と喰ひ違ふは大方世の習ひ、歐洲大戰後の世界的不況に直面しては、經營上頗る難關に遭遇し、爾來大正十三年に至るまで八ヶ年間

十六回に互る決算期に於て配當を爲し得たのは僅かに十回だけで、其間減資さへも斷行し、同十四年より三年間は全然無配を以て経過いたしました。頭を回らして戦後の同業者の船は如何にと顧みれば、是亦一層の波瀾重疊に富み、數年の難航中大損を來たし、あたら船綱を切つて悉く手放すの止むを得ざるに至つたのであります。さるにても明糖の菓子號と煉乳號は難航乍らも前途に海路の日和を待ちつゝ、乗組員協力一致して彼岸に向つて推進したので、流石に大山の如き荒浪をも乗切つて漸く今日に至つたのでございます。

大正十四年大久保製菓工場火災後は一大決心を以て今の川崎製菓工場建設に腰を据ゑ、同十五年以來昨年に至るまで新設に加ふるに増設を以てし、機械設備等一切の内容を充實いたしました。大久保時代のキャラメル、ドロップ、ビスケット、掛物、乾燥物等の製造規模を擴大し、且つ改善し、新にチョコレート、ココア、シラップ、羊羹、珈琲、其他キャンデー類の製造設備を完成いたしました。昭和二年兩國製乳工場を新設し、最初はアイスクリーム、洋生菓子製造が主たるものでありましたが、爾來二回の増設を重ねて今では日産五十石を大東京に供給する明治牛乳の外、バター、チーズ、清涼飲料等の製造設備を完成致しました。昭和三年旭川製乳工場、同

四年清水製乳工場を新設し、同年傍系の明治製乳會社を創立して、岩手縣下に岩泉製乳工場を設け昨年下半年に於ては、札幌、八雲、木古内の三工場を有する大日本乳製品會社を傍系に加へました。更に傍系として富士ミルクプラント、平和ミルクプラントを加へ、別に帝國ミルクプラントを併合し、今や明治製菓及傍系の工場数は東京川崎五、房州三、北海道五、合計十三となりました。外に横濱ミルクプラントは目下新設中でございます。尙傍系の明治商店が經營する店舗は明治製菓賣店三十、同販賣所四十四に達してをります。

是等の工場及店舗の大多數は最近數年間に新設又は擴張したもので、時恰も不況時代に直面し最低の工事費を以て竣成を告げ、又外國機械は金輸禁止前又は爲替の未だ低迷甚しからざる際に輸入したもので、店舗の位置等目拔きの場所を得られたのは不況のせいでもございましたらう。今日となつては能くも思切つて擴張を執行した事と喜んでをる次第でございます。

明治製菓の昨年の年産額は九百二十五萬圓であります。之を五年前の五百八十萬圓に比べますれば六割の増産でございます。今年は恐らく一千萬圓に手が届くかと思ひます。拂込資本金三百



明治製菓ビルディング

八十萬圓に對する三廻轉近くに相當いたします。配當は昭和三年より五分配當を繼續いたしました。前期よりは一分を増配いたしました。固定資産の償却は思切つて斷行し、借入金はございません。社品の海外輸出高も昨年は四十二萬圓に達し、人も機械も御蔭様で追々と油が乗つて來るやうであります。これ全く御客様の御同情の賜と一同感銘に堪へません。この御恩顧に對し、扱て今後の梶をば如何に私共は取るべきでありませうか。

私共の事業は砂糖の延長として菓子と乳製品に及んだのでございますが、米國邊では菓子業から其の原料の關係で砂糖業に及んだハーシー製菓會社の如きがあります。菓子業にしてもチョコレートやビスケットなどは各々單獨の大會社で営まれてをります。ナショナルビスケット會社の如き其の資本金八千七百萬弗と聞いてをります。我々の菓子業はまだ菓子の雜貨店のやうな感がございます。需要の増進に連れて何れの日か、工場だけでもその分離の必要が生ずるでございませう。乳製品ではポルデンやネッスル會社の如き孰れも幾億の資本金を擁する世界的の事業會社で、砂糖會社の資本金よりは無論巨大であります。而して市乳とかチーズとか煉乳、クリーム、バター、粉乳、ミルクフード等夫々單獨に經營してをる會社が歐米にはざらにあるのでございませう。

す。クラフトチーズの如き年三千万弗も賣上げてをることでもあります。當社は今では各種の乳製品を御菓子と共に兼營してをるのでございますが、漸次海外までも販路の擴張に伴つて、將來或は菓子から獨立する時代もありませう。乳製品中でも品種によつては別々に工場だけでも獨立せしむる勢にもならうかと思はれます。

乳製品の事業が我國の國情に於ては米國同様そんなに飛躍的に發展するものとは素より私共も考へてはをりません。併し日本の新たな食糧としては今後大々的に増進の餘地あることは申すまでもありません。否、増進の餘地ある食糧は、乳製品を措いて外には見渡す限り之ないのであると謂ふても差支ございますまい。況んや完全食物として他に比類のない事は、歐米の榮養學者は勿論日本に於ける權威者も一致した所であり、この新たな食糧の使用量が増進すればする程國民の健康を増進すると同時に、乳牛は乳、肉の外肥料をも供給する關係で大いに農村の振興ともなるに於てをやであります。

砂糖の人口當り年消費量は、日本は米國の五分の一でございますが、牛乳は百三十五分の一で

あることを思ひますれば、此の事業の前途は尙々遼遠と申すべきではございますまいか。氣力を増進する砂糖と健康を増進する牛乳とを主たる原料とする御菓子も、今後まだまだ伸展すべきものであることは疑のない所であります。

斯様な抱負と意氣とをもつて今年も又我々は使命の大任を盡すべく年頭から社内一同發奮して努力の道程を辿ることでございます。希くば大方御得意様の一層の御愛顧と御指導を賜はらんとを。(昭和八年一月)

明治製菓の前線

その名は株式会社明治商店である。彼は單に明治製菓の前線である許りではなく、明治製糖の前線でもある。否な最初から明治製糖の前線として打立てられた明治商店ではある。然る處今日では、明治製乳の前線でもあり、更に大日本乳製品やら山陽煉乳の前線でもあり、其他平和、富士等大小數多のミルクブランドの前線でもある。

二重橋前から大内山を拜して振返へれば、鍛冶橋外の向手に「明治の菓子」と掲げられた群青に白字の偉大な屋上看板が見える。群青の地色は明治製菓の所謂明治色である。この看板の掲げられた本建築六階建の空色の新しき建物は、是が明治製菓ビルヂングである。この建物の内には、明治製糖、明治製菓を初めとし、所謂大明治の十餘の會社が事務所を連ねてをる。而してこのビルヂングの經營の任に従事してをるものは明治商店である。一階の表口には明治製菓賣店があり、裏口には明治製菓販賣所がある。孰れも明治商店の經營である。

銀座の大交叉點より北へ一町許り右側の松屋の次の伊東屋の隣に、本建築五階建の是も空色の明治製菓賣店がある。亭々たるその美觀を豪華の巷に出現して、千客萬來の繁榮振りを發揮してをる。キャンデーストリアとしては正に東洋第一である。是も明治商店の經營である。

銀座の外には明治製菓賣店は、東京に於て新宿にもある、本郷の大交叉點にもある、上野、淺草は申すに及ばず、澁谷、新橋、三田、神樂坂、水天宮等目抜き場所には必ず明治製菓賣店の楚々たるその姿の見えぬ處はない。丸ビル、海上ビル、相互館、上野驛内にもある。地方に到れば札幌の狸小路、仙臺の東一番丁、金澤の香林坊、名古屋の廣小路、京都の三條、大阪の心齋橋筋、神戸の元町、岡山の京橋通、廣島の八丁堀、博多の東中洲等孰れもそれ々の都市の目抜きの衢に明治製菓賣店はその明朗な姿態を以てお客を迎へてをる。海を渡りて朝鮮に行けば、京城本町に明治製菓賣店があり、滿洲には大連浪速町に在り、臺灣には臺北榮町に在る。是等賣店の内で新宿、本郷、上野、札幌、心齋橋、京城の各賣店は孰れも三階乃至四階建の本建築で明治商店の所有である。

以上明治商店の經營する明治製菓賣店は三十二個所に達するが、外に明治製菓販賣所四十四個所を主として大都市に經營してをる。賣店は小賣をなす店であり、販賣所は卸賣をなす店である。是等を分擔支配するため小樽、名古屋、大阪、下關に出張店がある。その上に本店がある。之を

要するに明治商店は合計八十一個所の店舗を有する昔の常山の蛇も斯くやと思はれる、チエーンストーリーである。首尾相應じて活動する所にその眞價がある。明糖の宮尾監査役は同氏が東拓總裁時代各地視察の際、明治製菓の店舗が各都市に點在してをる偉觀に着目し「君達はよくもあれ程までに宣傳販賣機關を張つたな！」と私共に言はれたほど左様に、今日では相當に世間の耳目につくやうになつたと思ふ。

大都市に於て賣店に適する様な目抜き場所を得ることは決して容易の業ではない。然るに多年の不況続きで、その間に機會を得て、或るものは土地そのものまでも買収し、或るものは地上權を求め弗々と手に入れたものである。前に述べた幾多の建築も不況時代に思切つて實行したものであるが今となつては是が亦偶然の大仕合せとなつたのである。

明治製菓の宣傳普及は明治商店の店舗ばかりではない。野にも山にも海にも河にも看板がある。軒先きにも驛頭にも之あるは申すに及ばず、旗、幕、額、ネオンサイン等が吊されてをる。新聞雑誌の廣告は勿論、飛行機にも各種の船車にも明治製菓の廣告の及ばぬ所は今では殆ど見られぬ有様である。孰れも明治製菓の後援の下に於ける明治商店の活躍の結果である。大日本麥酒の植村相談役が嘗て「昨年の夏は箱根に避暑に行つたが、明治の廣告を其處此處にざらに見た。今年

の夏は日光の山奥に釣したが又も明治の宣傳に追馳けられた位であつた。麥酒廣告の他山の石となる次第でもある！」と評されたことがあつた。食品文化、榮養増進従つて國民保健の目的で普及宣傳することであるからには、宣傳甲斐も亦大いにあると申すべきである。

大正九年であつた。大戦後の大恐慌は明糖もその一手販賣店たる増田屋の破綻に依て、した、か打撃を受けたが、直接販賣をも自營するの止むなきに至り、そこで明治商店が創設されたものである。當時の店舗は本店と現在の四出張店だけで、店員も僅かに三十四名であつたが、今日では店舗八十一、店員千百餘名となり、資本金は當時の百萬圓より今は三百萬圓の拂込濟となつた。商内高は當時の二千五百萬圓よりは六千萬圓となり乃ち資本金の二十廻轉をなしてをる。

昭和の時代になつてから明治製菓の菓子乳製品の發展に連れて、店舗も商員も大に増加したのである。明菓の取締役長島博士は嘗て一室に集つた大明治の社員の大多數が、未だ頭髪の黒き人達であることを眺めて「噫！ 皆んな若いな！」と驚嘆されたことがあるが、その多くは明治商店の店員である。後生恐るべしとの語をして眞に是等の店員の將來に適例たらしめんことを私共は常に祈つて止まない次第である。嘗ては砂糖の販賣に於て一時ときめきし鈴木商店と東西相對立したことがあつた。店舗と商品とを増加したる今日の明治商店は、店員の用意の如何に依つては

將來の發展大いに期すべしと信ず。

去りながら如何に店舗が數多くなつて且つその建物が如何に立派になつても、店員の數が如何に殖えても、只それだけではまだ、我が商店の使命を盡す上に於て決して満足ではない。内容の充實が是非とも之に伴はなければならぬ。それは何であるか。商品の改良進歩は申すに及ばぬが、是は主として明糖、明菓の任である。技術の外に機械と材料の選擇が大事である。明治商店としては一に徒手空拳を以て従事する店員の進歩とその熟練とに待たねばならぬ。現代は生産過剰の世の中である。従つて販賣を促進する事こそ急務中の急務であらねばならぬ。之が爲めには店内舉つて日夜互に激勵して研鑽努力は致してをるも、更に一段の勇猛心の發憤を切望せざるを得ぬのである。三軍の前線には忠烈無比の幾多の勇士を出したが、商戰の前線に於て眞劍にして且つ熱烈なる勇士の存在を誰か敢て否定する者ぞ。

尙ほ「昌言を拜す」といふ古語があるが、私共は全くその如く盛に大方の忠言を拜して之をば眷々服膺して大成を期せんと存する次第である。希くば平素明治製菓に同情を寄せらるゝ各位！今後一層多大の御鞭撻と御指導とを吝まれざらんことを。(昭和八年七月)

菓子乳製品の將來

我國菓子の年産額は未だ正確なる統計數字はなきも、之を砂糖消費高より推定して先づ其の六割位が製菓原料に使用されてをると見るのが通説であつて、之に他の各種の原料及包装費工賃其他一切の經營費、利潤等を砂糖代の三倍と見て加算するのが亦通例の見方である。尤も他の見方もあるが、先づ右に依るときは我國の砂糖消費高は年額一千四百萬擔であるから八百拾萬擔が菓子原料である。一擔十八圓と見て一億五千餘萬圓となり、之に三倍を加算すれば六億圓を越ゆるも、一般には我國菓子の年産額は先づ五億圓と押へてをる。何と巨大なる食品ではないか。砂糖の消費が前陳の數字に由つて算出すれば年額二億五千萬圓を越ゆるに過ぎないのに、是は又、藍より出でて藍より尙ほ青きもの、適例ではある。

日本許りではない。菓子の消費は歐米に於ては我國よりも優勢である。砂糖の消費が米國は日本の五倍に近く、英國は三倍、獨逸でさへも二倍餘であるから、砂糖消費の六割が菓子に用ゐらるゝものとし日本の例から類推して之が加工費を三倍と見て計算するならば、歐米に於ける菓子

の消費高は驚くべき巨額の數字に達するであらう。現に米國には資本金一億弗に近く、賣上二億弗を超ゆるといふナショナルビスケット會社の如きがあり、米國各地に四十幾つかの工場を有し、其のビスケットの釜數などは、日本全國の各ビスケット業者の總釜數八十餘を數倍しても尙且つ此の一會社の釜數に追付き得るかどうか覺束ない程左様に大仕掛なものである。我國には砂糖業の延長として菓子業に手を伸ばした明糖對明菓の如きがあるが、米國では菓子業から其の原料の關係で幾つかの砂糖會社を玖瑪に於て經營しつゝあるハーシー製菓會社の如きがある。我に於ては製糖會社が製菓會社の親會社にして彼に於ては製菓が製糖の親會社である。之によつても米國に於ける製菓事業の威容の一斑が想見し得らるゝではないか。英國のハントレーパーマー製菓會社が、其の一會社の繁榮のみを以て、遂に一都市さへも形成してをることなどは往々人の話題に上る事柄ではある。

菓子業が何が故に歐米に於て斯の如く發達し又我國に於ても前陳の如く進展しつゝあるかの事由は、百川悉く海に朝するが如く多種多様の食料を綜合し陶冶し、調味衛生保存且美觀の上に於て、一言にして之を掩へば所謂あらゆる食品を菓子として文化するからである。何が文化か。文化は人間生活の各方面に進展しつゝある趨勢ではないか。素より時代に依つて盛衰はあつても、

古往今來人間生活の文化は一盛一衰の間に次第に進展しつゝあるに相違はない。衣食住皆然らざるはなし。菓子亦然り。古代に在つては果物はあつても菓子の様なものは其の影さへも無かつたのであるが、近代に至つて漸進的に今日の菓子となつたのである。

或は食物は成可く原始的に近いもの程榮養的であることの説をなす者もある。然る時は文化した食物は榮養的でないと云ふ様にも聞ゆるが、その解釋は間違であつて、必要であれば原始的要素をも取入れ尙ほ其の上に衛生嗜好美觀風味等に適する様に食物を製造する方法を講ずるならばそれが即ち文化でなくて何であらう。料理と製菓とは食物の文化作用である。若し是等の作用を人間生活より奪つて了つたなら人生は如何に寂莫没趣味のものであらうか。料理は保存運搬に困難であるが菓子はそれが困難でないものが多いのである。孰れも綜合食物であつて如何なる食料も其の用途に包容されざるものなしと云ふても差支へない程である。製菓も料理も食料の仕上げ場である。人類の生活に適合する様に仕上げるのである。

我國菓子の消費高五億圓の中には、洋風菓子と見るべきものが一億五千萬圓も含んでをると稱せられる。三、四年前までは是が一億圓内外と云はれたものであつたが、菓子の嗜好は段々と洋風菓子に推移するものゝ如くである。和菓子も機械化すれば其の品質は兎も角として包装等は洋

風化する傾向である。今日に於ては洋風菓子と雖も我國に關する限り敢て之を洋風と稱するには及ばぬと我輩は思ふのである。それは我國に於ては漸次東西文明の菓子を綜合して最も進歩した文化的菓子を發達せしむるの使命を我菓業者に於て孤負する所のものがあるからである。

我國に於て製菓業に従事する者は百萬圓以上の會社としては數會社に過ぎざる現状であるが、それ以下の會社及び個人經營の菓子業者は其の家庭工業的のものを合せて蓋し數千にも達するであらう。將來是等の群小業者は相互に抱擁して大となり其の數を減ずると共に本式的に工業化する様にもならう。之を促すものは製品の優劣、原價の高低にも依らうが、尙ほ其の上に宣傳販賣の力が組織的の經營者に對して、企て及ばぬ所のものであるからである。工業化とは機械化である。そして主としてコンベイヤシステムである。嘗に工場内に於て然かるのみならず、宣傳販賣にもコンベイヤシステムに似た組織がなければならぬ。それは全國に販賣網を擴げる事である。製品の宣傳が全國に普及し製品が工場からすらくと店舗に配給せらるゝ組織が恰も工場内に於けるコンベイヤの如くなつてをる者と、其の然らざる者との經營の難易は推して知るべしである。菓子は其の原料として乳製品を加へた事によつて多大の進境を示してをる。乳製品なるものが美味であるばかりではなく榮養豊富且つ發育旺盛な品質を有つてをるからである。其の事に就い

ては後段別に説く所の如くであるが、兎に角菓子は從來とても榮養があつても多くは甘味の嗜好品としてのみ社會的にも家庭的にも取扱はれてをるものであつたが、其の原料に乳品をも綜合するに至つて單なるスキートの意味からして今度は多分に榮養的な意味を加ふる様になつた。榮養品なるが故に其の嗜好品なる本質と共に菓子は文化的必需品として人間生活を需ほすものとなつたのである。

歐米に於ては製菓會社はチョコレート、ビスケット、キャンデー、生菓子等各々専門工業として獨立的に經營して夫々驚くべき程の大を成してをるが、我國に於てはまだ一處に經營してをる有様である。將來菓業發展の結果は遂に工場丈けでも分業的に經營する様になるであらう。それ丈け菓業の將來性は充分に存在してをる。國產菓子の輸出も増進しつゝある。支那南洋等は其の輸出先きであるが、近來進んで日本に來朝して、工場を見學し場内の清潔にして整頓せると職工の健康にして敏活なるとに満足して、即座に菓子の取引を開始せる外國會社もある位で、輸出先きも更に増加する勢である。

我國乳製品の統計は菓子とは違つて立派なものがある。昭和六年農林省の統計によれば

	數量	金額	百人當
飲用乳	五六 <small>萬石</small>	一、七九九 <small>萬圓</small>	八六・二〇 <small>合</small>
煉乳	一、八六三 <small>萬斤</small>	五八四	二八・五〇 <small>斤</small>
粉乳	二三五	二三七	三・六一
バター	三六五	三〇五	五・五九
チーズ	一五	一二	〇・二三
その他の乳製品	八七	八七	三・五二
カゼイン	三四三	七一	—
計		三、〇九五	—

カゼインの外、煉乳以下の乳製品を原料乳に換算して之を飲用乳に合算すれば、我國一ヶ年一人當の牛乳消費量は一升六合餘に過ぎぬ。之を歐米の一石五六斗に比するときは、僅かに百分の一の少量である。我國の砂糖消費は米國に比して一人當五分の一であるのに牛乳の消費は逆も比較にならぬ程度である。それが何故であるかは、我國に於ては米食が食糧中過半の要部を占めてをり、農業組織も米作本位に出來てをり、瑞穂の國として水田と米食とは國民の一種の信仰とさへなつてをるからである。

米が我國の主要食であるは勿論のこと、又將來とても爾かあるべきことに就ては我輩固より何等の異存がある筈がない。然るに國民の體質に一層の好影響を與へ、農業組織を今よりも更に合理的にするの食物があつて、而かも其の物の有利なる實績が何處から見ても寸分も疑ふべからざるものあることを發見したならば、米に加ふるに其の食物の消費を更に大いに推奨すべきは當然ではあるまいか。桑田さへも米田と併行はれてをる。養蠶は循環農業ではない。米作亦然り。孰れも地力を掠奪するところの農業ではある。今や米が餘つて減反問題が起り、亞米利加の不景氣で生絲の罐詰さへも來してをる。是に於てか我輩は、有畜農業の必要を大いに唱道したくなる。是は厩肥を土に返すが故に地力を掠奪する農業ではなく、乃ち循環して極り無き農業であるからである。さり乍ら現代は消費あつての生産である。有畜農業大發展の前提として牛乳及乳製品の一層の使用を要望するものである。

蓋し國民の保健と兒孫の哺育と農村の振興に寄與する所の乳業は國家的の一大事業として發達すべき將來を有するものである。世に一種にしてあらゆる營養素を完備する様な完全食物はあるまいが、幼兒の哺育は單に母乳一種きりでされるではないか。是は幼兒に適する天與の完全食物であるといふの外はないのである。母乳に似た營養素を備へたものは牛乳であるといふ事は幾多

東西權威者の學說上一致する所である。哺育ばかりではない、牛乳の榮養素は一般國民の保健にも貢獻する處のもの顯著であることは最早今日では周知の定説ともなつてをる。斯うした譯であるから、年々牛乳の消費が加速度的に増加すべきは疑ひない所である。大正十一年一人當り消費量一升一合であつたものが十年後の昭和六年には一升六合となり、指數に於ては四〇%を増加してをる。牛乳に對する國民の理解が益々徹底的になり、古風の老人達から新智識の若者に時代が變るに従つて、牛乳の消費が從來の増加率を遞加するに至るべきは餘りにも當然である。

乳製品の消費高中には外國品も含まれてをるが、昨年輸入税を倍加し、又圓爲替安の爲の輸入は大々的に減少し、輸出は却つて漸増しつゝある。而して此の勢は年々進展するに違ひはない。輸入の乳製品は國産品の爲に先づ關東を追ひまくられて關西方面に落ちのび、今は九州朝鮮臺灣等に氣息奄々としてをるが、斯様に乳製品の輸入は困難となつたから、寧ろ資本を輸入し、工場を設備し、國産の仲間入りをして活路を開かんとせり出したのである。然るに彼等は多年北海道の大乳社を覘つて明葉に之を奪はれ東北中國地方等亦同様の運命を繰返して、現在では淡路島の藤井煉乳と握手してをる。處が國産乳製品會社の團體たる大日本製乳協會は猛然として之に反抗しつゝ、あるから容易に外資の足を入れる餘地はあるまい。

我製乳團體が外資の侵入に反對する事由は、乳業が農村を基本とし、其の製品は國民の保健哺育に大關係を有するからである。外資の輸入者たらんとするネツスル社の如き諸國に多數の工場を有する世界的の製乳業者は、必然的に又乳製品に對する世界的の支配者でもあるが故に、其の事業の都合では統制上日本の乳業を中止することも遣り兼ねないのである。之が股鑑遠からず日本の燐寸業に在る事は餘りにも深刻な適例である。然るに或は外資の製乳業が不幸にして我國に成立したとしても、我乳業團體は飽くまでも之に對抗する決心を有するが故に、外資の發展は思ふ様には出來ぬのであらう。

我乳製品の輸出先は目下支那、馬來半島、蘭領印度、暹羅、比律賓等であるが、追ては中央亞細亞、亞弗利加、南米等に及ぶであらう。馬來半島に於てはネツスル社の發動にて英國品に對し日本乳製品は五倍からの差別的關稅を課せられんとするに至つてをるが斯かる不合理なる高率關稅が殖民地に於て何日までも永續するものなるか疑なきを得ない。尙ほ我乳製品は世界各地に向つて進出を企圖してをり、生産能力も増加し、原價も更に低減しつゝあり、品質の優良なるは無論であるから乳製品の輸出は今後も漸増するものと思ふ。

乳製品は菓子と異り原料品として使用されるものが多い。煉乳、粉乳、バター等直用の外孰れ

も製菓の原料となる。粉乳に至りては特殊の栄養品や薬餌化粧の原料ともなる。カゼインは製紙
 其他の工業材料である。チーズは日本にも其の値段の低下に依つて需要増進の見込充分にあり、
 米國のクラフトチーズの如き一會社で年額三千万弗の賣上げを示してをる。又ポーデンやナシヨ
 ナルデーリー會社の如きは合衆國國內の牛乳供給を二分して各々其の一を有するといふ程の大會
 社であるが、孰れも其の資本金は同國の砂糖會社のそれよりも頗る莫大なものであると聞く。我
 國に於ては一時人口食糧問題が喧しかったが、新たな食糧として牛乳及び乳製品は、我國に於て
 も假令米國ほどの事はなくとも今よりは一層の發展を見るべきものであると思ふ。

(昭和八年十一月)

菓子交友録

□

私は昨年十二月英國デーリーテレグラフ社の記者エドワード・エ・ワルデン氏と會つた。同氏
 は同新聞社より日本國情紹介の目的を以て日本特別號刊行のため來朝されたのである。同氏の語
 るところを聞くと大體斯うである。

『私は二週間許り前に横濱に上陸したのであるが一日同市の繁華な街（伊勢佐木町の意）の眞直
 な通りを歩いてゐるとそこに綺麗な店がある。そこは喫茶店でコーヒーやケーキなどを賣つてゐた
 が、コーヒーもうまくケーキもまことに結構だった。しかし私の第一に驚いたのは店内がいかに
 も清潔であることであつた。更に驚いたことは少女たちのサービスが慇懃丁寧を極めてゐるこ
 とであつた。こんな淑やかな美しいサービスの私は世界のどこの國からも發見することは出來
 なかつた。』

私の胸は感激のため高く波打つのを覺えた。そこで、私は此の少女に心ばかりのチップをやらうとしたが少女はこれを辭退するもの、やうである。すると店のマネージャーと見られる人が出て来て、此處の少女にはチップはいらないといふのを聞いて私は更に驚いた。しかしこれはこの親切な少女に對する心ばかりのお禮であると云つて差出したところ、それでは折角ですからといふので快く受けてくれたが、何と驚いたことには私が店を出る時に立派なチョコレートの土産を贈つてくれたことである。私はかねてお國の人情風俗の敦厚なことを聞いてゐるが、今この事實を目のあたり見るに及んで眞に感激にたえなかつた。』と。

この言葉を聞くと今度は私の方が感激して

『あなたがそこまで注意して見てくれたといふ事は感謝にたえない。日本人は昔から清潔を尊ぶ國民であつて、祝詞つとめなどにも至るところに清め、祓ふといふ意味の辭句がもちひられてゐる。私どもが店や工場を經營するにも清潔第一といふことをモットーとしてゐるからである。

少女のサーヴィスがお氣に入られたといふこともまた私どもの平常心懸けてゐるところが認められたのでこんな嬉しいことはない。曾つてボルネオ・スマトラ・コンパニーのマネージャー、カーフェルト氏が私どもの川崎製菓工場を見に來られた時にも同氏は、先づ工場の綺麗であるこ

と清潔であることを嘆稱された。そして作業中の少女達の顔色が生き／＼として如何にも健康さうであることを賞め、斯ういふところで出來た菓子は本當に味もよくまた衛生的であると云つて歸途數萬圓の菓子を注文されたことがあるが、今あなたによつて同様の謝辭を受けたといふことは私ども製菓業者として感謝の至りである。』と。

デーリーテレグラフの記者は更に語をついで斯様な感激すべき事實を本國に通信し、廣く讀者並に英國民に知らせるのが自分の日本に來た使命の一つである。何れ本件が掲載されたら貴下に一部お送りするといふことで會談を終つた。語り終つて私はこの記者の感激に満ちた通信が彼の本國に如何に大きい反響を與へるであらうかと考へてひそかに微笑したのである。

□

先頃三井物産の會長となられた南條重役は菓子に大いに趣味を有する方である。先年、君の方のチョコレートは最早外國に劣るものでないことは認めるが、ビスケットは未だ其處までゆかぬと話されたことがつた。然るに同氏は昨年ロータリークラブに於て特に小生を呼掛けて、最早ビスケットも君の方のものは歐米品に劣らぬ、自分は商賣上の便宜あるところから外國品を使つて

をつたが今後はその必要はないことになったことを特に君に報告して、此喜を申す次第であると
 曰はれた。

□

日清汽船社長深尾男爵は、自分は多年の経験から日本のビスケットは齒にくつつき、さもなく
 ば殆ど砂を嚙む様に思つてをつたが、昨夏札幌で君より貰つたビスケットを口に入れて隔世の感
 をなした。あれなら倫敦邊りで味ふたのと何の違ひもない。進歩したものであると語られた。

□

ブレザー商會の有馬氏は昨年末同商會のブレイク氏に明治のビスケットの詰合せを贈られたと
 ころ、最優のビスケットであるといつて同ミセスよりの左の禮狀を小生に示された。尙ほブレイ
 ク氏は他の日本製のビスケットも貰つたが、明治品は米國品に比して何等遜色なしと有馬氏へ直
 話ありし由である。

January 8

Dear Arima San

Thank you so much for the tin of biscuits. They are very much appreciated by
 the entire family with the possible exception of the baby who has no teeth as
 yet. Mr. Blake and I both agree that they are by far the best biscuits made in
 Japan and quite as good as any we have ever eaten. With the very best of good
 wishes for 1934, I am, yours sincerely.

Dorothea Blake.

□

人絹王と稱せらる、町田徳之助氏は日本貿易協會の新年初會合の席上に於て小生に呼かけて、
 君の處の羊羹は結構である、そして保ちが宜しい。自分は昨夏羊羹の有名品を集めて試験したと
 ころが、君の方が最も保ちが良かった。自分は羊羹好きであるから斯様な事に興味を有する次
 第である。尙ほ君の方も押出して糸で切る様な包装にされたら一層宜しからんと、曰はれた。

今では右の包装の羊羹も市販に提供してゐる。(昭和九年三月)

菓子と栄養價值

食物はその栄養價值に於て餘り細工のない、謂はば原始的なものが宜しい。斯ういふことを言ふ方が相當にあります。先づ食物は生物ならばこれに越したことはない。肴でも刺身を用ふる方がいゝし、肉類もビフテキなどは生がいゝ、鶏卵も半熟がいゝ、牛乳も生乳がいゝ、それから野菜も果物も成るべく生がいゝ、抑々白米は玄米に及ばないといふやうな有力な學説があり、又世間の實驗ともなつてをります。然るに菓子は煉り廻してでつち上げた食物であるから栄養價值に於ては餘り感心すべきものでないといふ斯ういふ説がございますが、是は菓子に關する限り有力なる説ではありませぬ。皮相の説と思ひます。その生で用ひた方が宜しいといふことは一つの學説にはなつて居りますけれども、後の菓子に就て述べて居られる所の説は是は一説には相違ありませぬが、併し私共は是は誤解であると思ふのであります。火食が始つてこの方即ち火で物を煮焚きをするやうになつてからは、人間生活から煮焚きや料理を止めることは出来ませぬ。若しも左様なことが實行出来ると假定しましたならば食物は甚だ不經濟なものとなります。その結果は



演壇に於ける著者

非常に高價となるばかりでなく終には人間の食物に缺乏を來たすといふことは夙に御承知の所であります。

如何に生で食ふ方が栄養價値が多いとした所が、それは物に依り程度に依りけりて、例へば生で用ひることが出来る牛乳の如き、搾つた儘で飲むことも出來ますが、それは安全を保證し得られる所の牛乳でなければならぬのです。然るに左様な牛乳を得るには牛舎の設備、飼育及衛生に就ての方法、冷蔵の装置などが充分に整つたものでなければなりません。さうして是等の設備や方法といふものはどうでありませう。既に是は文化的であるのであつて單なる原始的ではないのであります。生の牛乳を飲むといふことでも斯ういふ風に手がかゝるのであります。其手のかゝるといふことは一つの文化である。若しもこの文化的に取扱はれて居ない牛乳を如何に生がいゝと申しまして、その儘用ひて行つたならば、微菌の爲めに人體に危害を受けることは申す迄もありません。又米にしても如何に玄米がいゝとしても之を煮焚きすることは勿論のことでありませぬ。魚にしても、野菜にしても生ばかりで食ふ譯には参りませぬ。刺身などはその切り方が薄いか、厚いか申しますし、それにつまといふものもなければならぬのであります。今から三千年ばかりの昔になりませうか支那の孔子様なんかは「切目正しからざれば食はず」といふことを

千古の昔に言つて居られる、さういふものであります。肉も魚も皆生がい、といふので、生その儘で食ふことになれば、如何にも血腥いわけで、人間が猛獣同様の生活に墮落をする外はないであります。そこで煮焚をするとか、料理を加へるといふことになると、これは手を加へるといふことでありますから、その上は出来るだけその方法を合理化して、又衛生化して、所謂文化的方法に依るに如くはないのであります。

菓子は文化的の食物であるといふことは私共多年唱道して参つたのであります。今日では世間も亦それを認識してをるとおもふのであります。菓子は多種多様の食物を綜合して仕上げまして、各種の栄養素を包容して居る所に價值があるばかりではありませぬ、その菓子の味ひは人の嗜好に適すると共に、その見てくれといふものは、天然の花と並び稱せられて、菓子のやうである、或は花のやうであると言はれて居る位であるから、菓子が如何に人の目を喜ばせるものであるかはこれで分るのであります。

又菓子には匂ひを段々添へることにしまして、その匂ひさへも随分馥郁たるものが出来るやうになりました。亦長い間の保存に堪へ、運搬に配給に極めて便利でありますし、値段も色々な方法を講じて割安になるやうに研究されて居るのであります。さういふ譯でありますから斯様な

食物を人生から取り除くといふことは到底出来ぬばかりでなく、益々これを發展せしむる使命を有するものと思はれるのであります。

又世間説を爲すものがありまして、今や非常時日本である、菓子などは此場合に於て餘計な贅澤品であるといふので、或る村では菓子の使用を止めるといふ申合せをしたといふやうな咄もあります。餘計なものであるといふことならば、未だ菓子の前に酒、煙草などがありますが、併しそんな區々たる比較の問題に入る迄もなく、菓子は各種の食物を綜合したものである以上、菓子を贅澤視することは、その原料たる各種の食物を贅澤視することになります。世の中に斯ういふ理窟があらふ筈がありません。色々なものを綜合して製して居るそのものを贅澤といふことは到底出来ないことであります。併し手数をかけて居るからそれが悪いといふことであれば、それは食物に限つて手数をかけることはいけないといふことで、文化の否定を食物に限り爲すといふことになります。食物に限り文化の否定を爲すといふ理由はないのであります。

でありますからこの筆法から言ひますと、着物は寒さを凌げばそれでいゝ、家屋は雨露を凌げばいゝ、いやそれさへ贅澤である、裸でつてよろしい、極論すればさういふことになります。無線電信、電話、ラヂオ、汽車、自動車、映畫とか、斯んなものなど所謂あらゆる文化施設とい

ふものは餘計なものであり、贅澤であるといふことになりすから、斯様な説はその結果に於て人間生活上總ての文化を呪ひ、顧みて野蠻を希ふ一種の退化的の説であります。若し又菓子の主成分たる砂糖が贅澤であるといふ意味であるならば——砂糖なんかは餘計なものであるといふやうなことを口走る人がありますが、さういふ意味であるならば、人の身體ばかりでなく禽獸、草木に至る迄糖分が必要であることは分りきつたことであるから、斯様な亂暴な説に對しては、私共は最早何をか言はんやであります。

尙菓子が齒を害するといふ説があります。所が菓子の豊富な榮養素は常に齒を養つて居るのであります。この事柄は少しも認めて居ないで、さうして食後齒の手入れをしなければ如何なる食物であつても齒を害することが當然であります。それをば菓子だけにその罪を負はせることは甚だ片手落の非難であり、又菓子が胃腸に害があるといふやうな説もありますが、之も菓子のみに限つた譯ではなく、餘計に食物を取るならばどんな食物でも同様に害があるのであります。それを菓子のみ害があるといふことは偏見の外何物でもありません。アメリカの煙草屋が菓子は婦人の體格を肥滿せしめて不恰好にするが、煙草はそれに反して如何にも華奢にするといふ廣告をしたさうであります。菓子の攻撃とはならずして却つて菓子が榮養豊富であるといふ事の宣傳に

なつたに過ぎなかつたやうであります。

以上は菓子の對する非難を一通り列擧した譯であります。是等の非難に對しては一々今反駁したる通り何れも當つて居りませぬ。従つて私共は別に之に對して痛痒を感じぬ次第であります。併しそれにつけても益々菓子の改良進歩を計つて、斯様な馬鹿げた非難を世間から一掃しなければならぬと思ひます。(昭和九年六月)

協力一致の回顧

大正十二年九月一日正午近くのこと、私は恰度その時、丸の内の明治製糖會社事務所で執務中であつたが、だし抜けに例のあの大地震である。

瞬間私の感じたことは、どうせ死ぬなら見苦しい死に方をしたくないといふそれだつた。これは後からわかつた事であるが、かうした覺悟は社員一同に抱かれてゐたのである。當時も今日と同様に、明糖初め明葉明店其他姉妹會社の社員達が、同一事務所と同勤してをつたので、以下社員とは彼等を總稱するのである。直ぐお隣りの東京會館がメリ／＼と異様な音響をたてながら、恐ろしい龜裂を建物の腰のまはりに生じたのを見ると、思はず私もギョツとした。邊りには怪我人を載せた自動車などが慌だしく去來してゐるのである。餘震が何時までも執拗に襲ひかゝつてやまない。それがゆら／＼と來る度に、何ともいへぬ物すごい叫喚の聲が激發しては大洋の唸りの様にどよんでゐる。腸迄千切れさうな、いやに凄慘なものであつた。

みる／＼うちに、眞赤な火の手があちこちに揚つたのが見える。數寄屋橋附近の火の手は南風

に煽られて物凄く渦巻き走りながら、あつと思ふ間に、紅蓮の舌で流石の警視廳をもペロリと嘗めてしまつた。もうかうなつてしまへば、帝國劇場の運命もわかつてゐる。果して、猛火は忽ち帝劇の建物を物すごく包んでしまつたが、それと同時に今度は帝劇と路一つ距つた東京會館に飛火した。

「萬事休す！」私は心で叫んでゐたが、その時私は社員一同に對してこんなことを云つたのである。

「この非常事變に當つて、我等は此事務所を見届くる覺悟である。併し、家族のある諸君の心中も御察しするから、心配の多い方は自由行動に任せる。單身で又心配の少ない方だけは残つてもらひたい」

重要書類の持出し方は、形勢觀望で一時見合せて居つたが、段々火の手が迫つて來たので、二三の社員が何處からか荷車をかたこと引張りこんでやつて來た。重要書類はそれに積んで二重橋前の廣場に運んだわけである。一通りかうやつて書類の片附がすんだ後、幾人かは歸宅した社員もあつたが、多くは依然居残つて、あの激震の恐怖と不安の内に、涙ぐましい獻身的奉仕をしたのである。

飛火の猛烈な襲來が初つた。先づ、一等始めに日覆ひが恐ろしい勢ひで燃え立つたが、それは水道の水を利用して消防に努めた。ところが、その頼みの水道も、やがて間もなく断水だ。水一滴得られはしない。一同はもう斯うなれば無我夢中だ。手當り次第の棒千切などを持つて、燃えつくかたはらから叩き消し叩き消し、その間に日覆ひを残らず取はつしてしまつた。だが、ホツと一安心する間もない。南向ふの煉瓦建ての屋根からは早やモク／＼と黄色つばい煙が凄い勢で噴出し、渦巻きをしてゐるではないか。事ここに至つては、もはや一刻も躊躇を許さぬので、その時までおつと見合せてゐた金庫の中の公債證書が何となく不安とおもはれたので、その持ち出しを決行する覺悟に出た。それは七十餘萬圓の金額のものである。社の金庫から引出すと、手提金庫に移し、二重橋前まで持ち運んだが後ろには拳銃を持った數名の社員に警固させるといふ物しい情景にまでおし進んだ。この時分には最早さしもの廣場も悲惨な人と荷物とで、一杯になり立錐の餘地もなかつた。それから後も、飛火の襲來は、刻一刻に猛烈の度を加へた。事務所の前後左右に火箭のやうに雨注して來て、道ばたの電柱に事務所の窓框に、燃着くのだから叶はない。一同は硝子戸をおし開けて仕方がないから、てんでにそれ等を棒で叩き消すのであるが、開けた窓口から息詰りさうな激臭のこもつた熱い／＼燻りが、モーツと中へ渦巻き込むのには、五

ひに危険の逼迫を感じて、物凄顔を見合した。私は知つてゐるが、彼等はかゝる危険の身に逼りつゝあるのを感じながらも、誰一人たじろぐ者はなかつた。彼等社員一同は身を忘れ家を忘れて、この亂暴極まる危険な作業を死物狂ひに續行したのである。

それがために、我々の事務所は終に目出度く震火の蹂躪からまぬかれることが出來たのであるが、私はこの時くらゐ、人間の眞心の力、一致團結の力といふもの、偉大さ、驚異さを感じたことがないのである。

さうかうする内に、急に風向きも變つて、今までの南風が西風に變つた。それでもう早や、火の粉の猛襲もなくなつたが、私はこの思ひがけない天佑にすら、人間の眞心の通じてゐることを信じぬわけにはゆかなかつた。

そして、私は獨り暗然として涙ぐまれてきたのである。

「もう事務所は大丈夫だ」と思つたので、午後六時頃には一同事務所を引上げた。最も、二重橋前には大切な持出品があるので、それには社員を若干名づゝ交替に残らして、之が監視に當らしめた。社員の中で其日最後までかうやつて居残つて獻身的の奉仕をしたものが、四十餘名であるが、我が社が當時、かの歴史的ともいふべき震火災の類焼よりまぬかれて安泰なるを得たのは一に

彼等社員の誠意努力の賜なのだ。

その時、恰度長岡市の糖商神谷氏と名古屋市の菓子商大島氏が社の事務所へ來合してゐられたが、兩氏はその日我が社員一同の前述の涙ぐましい奮闘振りを目撃してよほど胸を打たれたらしい。歸られると直様兩氏は土地の商工會議所邊で、その日の我が社員のヒロイックな行動を激賞しつつ逢ふ人毎に逐一物語をせられたらしいが、それから段々世間の話題にまで成つてしまつて、我等に至るまで大いに面目を施したといふわけである。

月日の立つのは早いもので、それからもう早や十一ヶ年になる。當時の社員中には已に故人となつたりしたものも居るが、當時を追懐すると一層それらの人々の面かげも、まざくと思ひ出されて、自から感慨無量の念にたえないのである。

今や、我社の事務所も面目を一新して、鍛冶橋外にそれ相當のものが新築されて、十一年前の一昔よりはぐつと進み、我等の使命を世間に盡し易くなつたことは、偏に大方の御蔭であると思つてをるので、今後一層報恩の念に燃えて奮勵努力を誓ふものである。(昭和九年九月)

乳製品の話

先づ乳製品の説明を申し上げます。乳製品と申しますれば市乳即ち普通家庭に配達する一合塚の如き壘詰のもの、外に煉乳、是には砂糖を加へたものと、加へないものとありまして、砂糖を加へたものは普通コンデンスミルク、加へないものはエバポレーテッドミルクと申します。夫から粉乳、バター、チーズ、カゼイン等があります。煉乳、粉乳、バター、チーズ等は直接に食料に供するのみならず、菓子やアイスクリームや料理等に使用さるゝことは御承知の通りであります。粉乳はパトローゲン等の特殊の栄養品の外化粧品や石鹼等に使はれ、原料としての用途が段段廣まる様であります。チーズは我國に於ては從來需要が少く、輸入が二三十萬圓位で、消費が少い爲、従つて國産も發展致しませんでした。が、栄養豊富なこの食物をこの儘の状態に置くのは私共の使命を怠る様に感ぜられ、是は又我國に於ても需要の増加するものと思ひますので、幾年も幾年も工夫を凝して先づプロセスチーズを製造してをる譯であります。御承知の通りチーズは種々な嗜好品がありまして中には日本人には向かない様な臭ひの物がありますが、このプロセスチ

チーズは最もポピュラーなもので、日本人向きと思はれます。米國のクラフトチーズといふチーズを賣つてをる會社は一會社丈で年額三萬弗も賣上げて居る由であります。

乳製品の榮養價值につきましては、先刻御承知の事でありますが、他の食物は之に及ぶものなしとの説は歐米は勿論、日本でもヴィタミンBで有名な鈴木梅太郎博士其他食品學者の一致唱道せらるゝ所であります。一寸考へましても、人間でも他の動物でも單に乳丈で子供が育つ所を見ますれば、如何に乳といふものが重要な食物であることが判るではありませんか。お母さんの乳は赤ちゃんに最適であつて人間の榮養としては申分なきものでありませうが、まさか此の母乳を乳製品とまですることは出来ません。其處で母乳に最も良く似た牛乳を以て人間の榮養食物とする次第であります。申すまでもなく食物の要素は大體、蛋白質、脂肪、含水炭素、礦物質、ヴィタミン等でありますが、牛乳は是等の要素を凡て含有するから殆ど完全に近き第一等の食物といふ事であります。バターは榮養及消化の上から、他の動物の脂肪でも植物の油でも到底比較にならぬ程優良な食物であると云ひます。チーズは又バターの脂肪に加ふるに蛋白質其他の榮養素を濃縮した優秀な食物であります。御母さんが體質や病氣等の關係で其の乳が悪くて赤ちゃんにやつてはいけない場合や、乳はよくても職業や境遇等の都合で自分の乳をやれない場合が多々あ

ります。左様な場合には牛乳を母乳に一層いゝ様に加工したものを供給するのであります。故稲垣博士が創製して鈴木博士が完成したバトロローゲンの如きそれであります。この榮養品は明治製菓が目下製造を引受けてをりますが、日本の母に代つて日本の第二世を育てる譯でありますから、鈴木博士は斯様の事業は寧ろ國家が之を爲すべきではあるまいかとさへいふてをられます。

乳製品は國民の榮養、保健、哺育に必要なのみならず又此の事業の爲に農村の振興に資する所のもの多大なるものがあります。其故は牛を飼育する結果として厩肥が得られますので、農業が地力を掠奪することなく行はれ、之が所謂畜農業とか循環農業とか稱するものであつて、乳製品事業の營まるゝ地方は概して税金の滞納者が殆ど無いと云はるゝ位であります。我國の如き一人當りにして米國の五十分の一に過ぎぬ程耕地の少き國に於ては、地力を有効に用ひなければならぬ事は勿論であります。然らば我國民は酪農を行ふに適するや否やと云ふに、既に養蠶に成功した國民である。蠶よりは一層意義ある牛を養ふことに於て敢て人後に落ちる筈がありません。數年前岩手縣の岩泉といふ片田舎に高原があつて、彼是數千頭の牛を養牧してをるが、牛乳は之を搾る人がないために乳房が腫れて困る位である。何とか乳製品の工場を建てて呉れんかとの申込がありましたので、私も行つて見ましたが何しろ東北線の沼宮内驛から二十三里も山路を、か

らうじて自動車が行く處でありまして、牛は春先きになれば、若草を喰ひつゝ次第に山の方に上り高原にて夏を過し、秋風と共に枯草を喰ひ下つて又里に歸つてくるといふ話で、丁度瑞典の様な處であると思ひました。兎に角其處に工場を建てましたが、今日では其のコンデンスミルクが國內は勿論、新嘉坡邊にも輸出するやうになつたのでありますが、初の内は村の娘さん達が仔牛の飲む乳を工場に持つて行つては仔牛が可愛想だとして憂鬱になつた由であります。斯様に動物愛護の心根が實に養蠶同様に又酪農にも適した國民であります。

乳製品の生産は左様に我國に發達出来るとしても之が消費が伴はなければ生絲や米が餘ると同様矢張り詰るではないかとの疑問は御尤もであります。我國に於ける牛乳の消費は歐米の一人一年當り約一石五斗なるに比し、僅かに一%の一升五合であります。而して國民の體質を改造するに足る榮養食物なる以上之が消費は今後一層増進すると思ひます。又増進させなければならんと思ひますが既に年々其の趨勢に在るのであります。

此處で一寸米國民の食物の割合に付て申上げますが夫は

米國民日常食料費比率	
種類	現在
肉類 (魚肉ヲ含ム)	三五
將來	一二



乳及乳製品	穀物及パン	果物及野菜	卵	砂糖	其他	計
二〇	一五	一三	六	五	六	一〇〇
四四	一三	一七	六	五	三	一〇〇

となつてをります。我國は瑞穂の國でありますから米其他穀物の割合が多いのは當然で、或る調に依りますと

我國ノ食料成分比率	
種類	比率
米	五六
其他穀物	二九
諸類	一二
野菜類	二
動物質食料(乳肉卵魚肉一切)	一

となつてをります。人類の身體は一寸建物の様なものに譬ふれば各種の建築材料が必要であるのに板類丈け餘り多くても仕方がない。柱や壁の材料も必要である。澱粉質の食物が餘り多いといふ事は榮養の釣合がとれず従つて不經濟となる譯であります。其處で新な食物として古來日本に重きを置かれなかつた牛乳が今より多くの割合を占むる様になる事は當然であらうと思ひます。

東洋南洋に對する輸出も年々増進の勢で、數年前私共が初めて新嘉坡に輸出を試みた際、日本にコンデンスミルクなどが出来る筈がない、それは恐らく日本人の器用に依つて豆腐か何かで製られたものであらうと思はれた位で少しも買手がない。漸く日本人の護謨園などにお願ひして愛國心に訴へて少しづつ、買つて貰つた位でありましたものが、昨年は七十萬圓許りの輸出を爲し、本年は九月までに既に百萬圓に達してをりますから年内に百三、四十萬圓を突破すること、思ひます。東南洋に於ける乳製品の消費は只今でも三千萬圓位はあり、文化と共に段々増進することには間違ひありません。内外の需要に向つて斯業の進展を爲し、それに依つて農村の振興にも聊か寄與せんと思つてをる譯であります。

我國に於ては最初乳製品は殆ど全部輸入に俟つたのであります。近年は國內の生産が増加し

たのみならず、品質も外國品に比し何等の遜色なきは勿論其の新鮮なる丈け却つて國産が優良であるとの事は、大學及理化學研究所等にて試験の結果を公表された通りであります。

一 昨年の輸入四百萬圓に對し昨年は百七十萬圓となり、遠からず輸入は極めて微々たるものになる事と信じます。但し製紙用等のカゼインは、我國に於てバターの需要が多からざるため、纏りたる生産を爲す事が出来ぬは遺憾であります。要するに乳製品の國內消費は三千二百萬圓で、此内輸入が三百萬圓餘といふ譯であります。

目下我國に於ける乳製品の會社は三十で、工場は四十七であります。北海道、房州、靜岡縣を初めとし、岩手縣、淡路、岡山、石川縣地方が主な産地であります。此内で近頃淡路島に於て藤井煉乳株式會社の名を以て其實は「ネッスル アンド アンゲロスキス會社」が外國資本を以て乳製品工場を經營する事になりました。先年北海道の大日本乳製品株式會社を經營せんとしましたが、是は私共が買収して事なきを得ました。藤井會社も同様の懸念がありましたので私共は買収の相談を開始してをりましたのであります。今では却て外資の踏臺となつた様な譯であります。山形、岡山地方も規はれましたが此等の地方の工場は私共に於て統制致しました。昨今は又靜岡地方にネッスルが目をつけてをる様でありますから私共國産乳製品の組合が共同して對抗運動を

やつてをります。淡路島の方は仕方がありませんから藤井會社に對抗して別に國産組合の工場を建設しつゝあります。自動車とか蓄音機とかいふ様な工場は國民への影響が左程でありませんが、外資でも別段の差支はありませんが、農村に基礎を置き、國民の榮養、二世の哺育に關する事業に外資を以てすることは危険に相違ありません。ネッスル會社と申せば其の資本金一億二千五百萬法の大會社で瑞西を本據とし、英、佛、スペイン、北米合衆國、南米及濠洲等に工場を有し、世界の乳製品を支配せんとする勢を示してをります。先年日本のマツチが瑞典マツチに統制されて斯業の衰頹を來した股鑑も遠からざる事で、又も我が乳製品事業がネッスル會社に統制される様になるなら、折角發達しかけた農村の産業も萎微せしむるものであります。そして斯様な産業に對する外資の輸入に就ては、各國共法律的に、左なくも行政的に相當の取締をしてをる様であります。我國に於ても此點に於て留意せられん事を當局に御願もし、又輿論も喚起してをる次第であります。(昭和九年十一月)

房州の謝恩會

昭和五年八月十九日、小生と我社の製乳部長、房州事務係長外一兩名の係員とは、房州農村の人々に招かれて、安房郡平群村の小學校に參ることとなつた。我等は同日早朝の準急車に乗つて兩國を出發した。我社の兩國製乳工場は直ぐ沿線に見えた。此處は一日百石の明治牛乳を低溫殺菌し壘裝冷蔵して配給するところの東洋一のミルクプラントである。

房州係長其他は同地勝山驛より同乗した。同驛の前面には、我社の房州事務所の外勝山製乳工場が在る。同驛より一驛手前の保田驛は、我社が其處の海濱に於て、毎年夏季中キャンプストアを開設し、千客萬來のサービスを提供して、とくに房州名物の一つとなつてをるところである。尙ほ各方面の希望もあつて、昨夏よりは北條驛前にもキャンプストアを開設した。

此日の我々が案内される趣意は豫め分つてをつたが、其は時節柄何か要求などさるゝ事ではなく、多年我社の房州に於ける盡力に對して謝意を表するといふ事であつた。此の異例に對し我等は夢のやうに喜んで應招したのであつた。午前十一時過北條驛に着いた。プラットホームには地

方の重立つた方々の多数の出迎を受け、やがて自動車數室に分乗して、此處から車行一時間許りの平群村に向つたのである。此時丁度保險會社の社用とかで、東京より同驛に來合せてをつた小生の知人がこの光景を見て、會社の重役ともなればあんなに地方人には歓迎されるものか、まるで知事以上のもて方であると、感嘆したといふ話を後で傳承したのであるが、事實我々民間事業者は減多にこんな歓迎には逢はないので、此日の譯を知らぬ右の知人が偶然一驚を吃したのも無理からぬ次第ではある。

鬱蒼とした小山の下の小川に臨み、縣道に沿ふて棟を連ね、煙突の高く聳えた我社の瀧田乳製品工場を右手に見て、間もなく平群の小學校に着いた。平群村外六個町村の町村長初め百數十人の來會者である。講堂を開放して會場とし、犢を屠りて肴とし、ビールなど飲物を供して歓迎せられた。外にも數々の御馳走はあつたが、犢の煮付けは東京邊では珍らしくて贅澤な料理でもあり、殊に我等の事業に關係ある食物なるが故に、美味の上に更に興味をも加へて、當時の事を回想さへすれば、今でも猶ほ其の味が舌端に残つてをる様な感じがするので、之が、先づ自然に筆端に走り出たのもあらう。

宴酣はにして、この日の代表者たる房州畜産組合長高梨氏は立つて開會の趣旨を述べられた。

その大意は

『大正五年明糖は我房州に來りて資本金百萬圓の房總煉乳株式會社を起て、その砂糖と房州の牛乳とを以て煉乳を製造し、次いで其他の乳製品にも及び、後明治製菓株式會社と合併し、爾來十數年幾多の難關を経て販路を内外に開拓された。我々房州の農村は之が爲月々定まりたる牛乳代を會社より受けて、今日の不況にも不拘納税の滞納さへも免れ得た事は、是れ全く會社多年の盡力の然らしむる所であつて、只管感謝に堪へざる次第である。依つて今日は斯く一同相集り謝恩の微意を表する爲來會を願ふた譯である。尙ほ益々社運の隆盛を祈り、今後一層の盡力を願ふ』

といふ意味の挨拶があつた。之に對して小生は立つて

『社業初志の如くならずして、幾度か蹉跌し、御迷惑を及ぼしたこともあり、又斯業獎勵の任に當らる、官邊も、當初は近來程の理解乏しく、農村と會社との間も意志の疏通を缺くこともあつたが、斯かる状態は幸にして永くは續かず、幾何もなくして相互に自覺し協力し合つて改良進歩を圖り、社業も漸く獨り立をするやうになり、従つて農家も安心せられ、遂には他から何と曰つて來ても、我社の仕事振りを極度に信賴される様になつた。其の實例については私共は實に感涙

なくしては聞くことを得ざる次第である。殊に今日開會の御趣旨を承れば尙更感極つて謝するの辭なく、一層奮勵努力して報ずる所あらねばならぬ。』

といふやうな意味で謝辭を了へた。

此日は粟津嶺岡種畜場長や遠藤北條警察署長等も臨席あり、交々立つて祝意を表せられたが、その祝辭中には能く當日の真相を描出され、今猶ほ耳底に残つて到底忘るゝことの出来ない語句があつた。それは

『今や勞資對立の世の中である。處々に爭議の聲を聽く、我々は常に何とか協調の出来ぬものと常々心配してをるのである。然るに今日此の會の場面は何たる美はしき光景ではないか。最早協調を飛越へて融和以外の何ものでもない。今の世間に又と斯様な實例が何處にあるか、我々は春風駘蕩の如きこの融和の裡に、只もう陶然として祝盃を擧ぐるものである。』

といふ様な意味であつた。單なる御世辭ではなくて言々即ち肚裏を割つた様な言ひ方であつた。我等が更に感動したのは當然である。

房州には我社の乳製品工場は前記勝山及瀧田工場の外に主基工場があつて、十數年間の間には畜牛資金等相當巨額の失費を掛けたが、今では原料乳は一日百石内外を我社に集乳し、大東京の

臺所として常に新鮮優良なる市乳を供給するやうになつてをる。

房州に於ては殆ど各戸普遍的なるこの酪農業の改良進歩が、更に大いに出来るならば、それは相互依存の理によつて全く御互の爲であるから益々努力せねばならぬと念願してゐる。一事が萬事である。酪農業の改良進歩の間には、他の仕事も何かと連節になつて改善さるゝやうになるものである。斯くて我等は房州が一廉の模範村落たらんことを人事ならず祈つてをるものである。今や農村救済や振興問題が議會や新聞紙上等で八釜敷論議されてをるが、我社の使命は農村振興上單なる議論ではなくて、最早實行に一步を先んじてをり且つ農村の自力更生を促すものなることを感ずるが故に、此際既往を回顧して一層の自信を確かめたのである。既往然り將來更に大いに然らざる可らずと豫想するものである。(昭和十年三月)

農村と我社

岩泉町の膏雨

昭和四年八月廿一日、小生は當社の製乳部長と岩手縣下閉伊郡岩泉町の小學校内に開催された明治製乳株式會社の創立總會に列した。資本金二十萬圓の一小會社ではあるが、此の地方有志の切望に基きて地方で出し得らるゝだけの資本を出し、後の資本は明糖にて引受け、仕事は明葉で經營する事として成立したものである。

總會は型の如く無事終了した。然るに一天見る見る中にくもり出し、總會終了と共に豪雨沛然として降つて來たのである。蓋し同地方一帯は長日の大旱魃で悩みつゞけてゐた際なので、發起人中の中心人物なる佐々木岩泉町長は滿面に喜びを湛へて

「何といふ芽出度い限りではないか、今日只今會社が成立する、幾十日間も降らなかつた雨が同時に降り出すし、是で百姓の苦みも大部流れて仕舞ふことになるであらう。會社の成立がもつと

早ければ、きつと只今の様にもつと早く雨が降つてくれて一層よかつた筈である。大旱の雲霓であつたところの會社の前途も是で祝福される。」

と曰はれた事を記憶するが、爾來經營豫期に相違した事も多少はあつたが、佐々木町長の當時の言が讒を爲したといふ程ではなくも、兎に角山間僻地の此處の工場で優良なる煉乳を製造して管内に供給するばかりでなく、海路遙るかに三千哩を隔てた新嘉坡邊にも輸出するやうになつた今日の状態を、岩泉町長も當時其處までは夢想だもされなかつたことであらう。

盛岡から青森行きの省線約一時間にして沼宮内驛がある。それから自動車にて山間谿谷の小道を約六時間も走りつゞけて岩手縣の東海岸を距ること約五里の岩泉町に達するが、此の片田舎に何で乳牛が多數發育したのかとの疑問は誰にも起るであらうが、岩手縣内には廣き平原や高原がある、鐵道西方の小岩井牧場はとくに世間に知られた牧場である。鐵道東方には外山御料牧場がある。岩泉地方にも高原があり又先覺者もあつて此處に乳牛の放牧を始め、それが繁殖し乳牛そのものを他の地方へ賣出して今日に至つたものである。それで乳牛は居つても搾乳をしたことなどは全くなく、人間にもある通り、餘分な乳量の爲め乳房が脹れて困るものが多いといふ始末であつた。佐々木町長初め地方有志家は、初めは製絲組合同様産業組合の組織を以て乳製品工場

を設けて搾乳を開始することを考慮してはみられたが、慣れない事業ではあり販路の心配もあり遂に令息の佐々木農學博士（東京農科大學助教授）を通じて我社に相談されたのである。我社は早速實地見分をしたが如何にも不便の僻地なるには驚いたが、岩泉町はその町名の通りに大きな石灰岩の山間から清水混々として流れ出て、小川を爲し、溫度も攝氏の十度を上らず、是等は製乳事業の好條件であるから其他の事項をも種々調査して遂に成立したのが前掲の明治製乳株式會社ではある。會社は敷地を右の小川の淵に相して、此處に清楚なる工場を建て、農家が乳牛を他地方に賣放さぬ様にするには數萬圓の資金を農家に貸付する必要があるので、我社は之を融通し乳代で長期に少額づつ回収しては復た貸付し、冷害不作の今日では更に幾萬圓かの融通を要することとなるであらう。かくて乳牛を有する農家は月々乳代の収入あるのみか、厩肥が得らるゝ、勿で悲惨なる冷害不作後に面しても幾多悲惨を緩和することが出來たことは、何人も容易に察知し得る所である。

昨年春、新聞紙上で見た事であつたが、觀櫻會に御召に預つた地方人士中、佐々木町長の名があつた。畜産の功に依つてあるやうに見えてをつた。同氏は製絲組合には模範を示された程の功勞者ではあるが、製乳業の如き新しき事業を片田舎に導かれた功績は、製絲組合の如きは

他に類が多いので、之に比して却つて人一倍の輝きを呈したので自然當局の認めらるゝ所となつたであらうと思ふたが、序の時令息佐々木博士に尋ねた處やはりその通りであつた。

喜ばずにをられないのは我社である。何となれば今は産業組合謳歌の時代である。地方に行けば一層その叫びが高い。乃ち曰く組合は共同事業であり政府の保護もある、會社は營利が目的ではないか等々。何んとなく會社は邪魔物扱ひにされる嫌ひがある。地方産業の興らざるは無理がない。殖民地でさへも制度を八釜敷曰はずして、先づ事業を銳意誘導するものは榮え其の然らざるものは何日までも吳下の舊阿蒙たるに安ずるの例がある。制度を動かす者は人である。組合然り、會社然り、一步を進めて議會も政府も亦然りと曰ふたとて敢て大言壯語ではあるまい。最初佐々木町長から事業の相談があつたとき、我社が躊躇したのは前に述べた地方的感情であつた。併し一旦決心した後は、地方偏見の禍を受けぬやう可成地元で資金を集めなさい、足らざる所を我社が御手傳ひするといふ事で乗りかゝつた譯であつた。然るに佐々木町長がその畜産の功勞を以て認められたと聞いては同氏の先見の明を人事ならず大いに誇り度い様な氣もすると同時に、我社の使命にも亦感奮興起せざるを得ぬ次第である。

昭和八年三月四日山形縣南村山郡外三郡の有志數名我社に來訪された。同地方の各村長初め百數十名の連判帖を具して乳製品經營の相談を我社に持込まれたのであつた。其頃も外國資本が日本各地に乳製品經營に着目する形勢もあつたが、此の事業だけは農村に基礎を置き國民の榮養及哺育上大切であるから外資に依るべきものでないと我々は確信し又輿論の歸趨もさうであつたので、右の相談には我社も容易に共鳴したのである。然るに只憂ふる所は例の組合か會社かの制度論である。外國資本は一億幾千萬法の巨體を以て世界を股にかけた大事業會社であるのに、産業組合とか營利會社とか重箱を突つてをる様な考では、乳製品の如き世界的の事業は成功するものでない心配したので、官邊にも夫々當つて見たが結局右の地方に畜産組合を組織し、之に對して縣は何程かの補助はするがそんな事では所謂九牛の一毛にしかならぬから我社に於て畜牛資金の大部分を出資し、乳代を以て長期に亘つて回収することとなり、第一回と第二回に分けて數萬圓を出資し、技師を遣り、先づ假工場を上ノ山町に設けて乳業の發達を圖りつゝある。

昨秋凶作の爲め涙を呑んで高等小學校を一時中止する事の決議を爲したのは右四郡中の北村山

郡の町村である。其の決議文を見た人は誰しも同情の涙に堪へなかつたであらう。事程左様に同地方狀況は悲惨であつた。然るに畜牛には冷害不作等はない。最近同地方の牛乳は日に十二石も我社の工場に集まる様になつたので、之に對して月々代金を支拂つてをる。それは相當農家の足しになりつゝあるは勿論一時の義捐金などは異り永續的のものであり、而も酪農に働いた農家自力の收入であるから我社の同地方進出も敢て徒爾ではなかつたと思ふのである。今や凶作地救済問題で東北振興會などが設けられた様であるが、夫程農村振興は緊急重要事なのである。我社の本來の使命たる乳製品事業の進展はさる事ながら、山形縣下の酪農業發達は岩手縣地方のそれと共に、東北地方の産業及農村振興の一助として、我社は夫れ相應に一足先きに踏み出した次第ではある。多少の犠牲は覺悟の前ではあるが、寢醒めは決して悪からう筈がない。

是は東北地方の話では無いが同様の事柄につき序でに附記するが、昭和五年九月二十四日栃木縣栃木町外十五町村の有志、畜産組合を組織して牛乳を我社の兩國工場に納入するから何分の援助を乞ふ旨の申入があつた。出來たての小舟では港内さへも運漕覺束ないから大船に曳かれて彼岸に達したいといふ様な切望であつた。官邊の意向も裏書きされてあるので、差當り一萬圓を出資して技師も手傳はせて後援した。爾來多少の失敗もあつたが今度は更に町村の區域を擴張して

眞剣に酪農に従事するから更に援助して呉れとて、縣の部長課長種畜場長迄も態々來社あり、助成金も交付するが金額は僅かながら當局の意の在る所は諒としてくれとの事であつたので、既に乗りかゝつた舟ではあり、是も我社の使命でもあると決意して更に二萬五千圓を出資して同地方の畜産開發に盡力しつゝある。

山形縣や栃木縣地方の實例が示す様に、産業組合と會社とは對蹠的なものではなくて協力的なものでもある。否な舵の取り様では孰れともなるものではあるが、經驗と技術と資力とを有つた會社を利用する方が事業の進捗を促す上に於て却つて得策でもある。農村の生産物は自給自足か或は單純若くは隣保相依る程度のみ取引範圍の品物なら兎も角、販路を廣く求むる様な商品ともなれば其れこそ港内の端舟が港外に乗り出した様なもので波瀾重疊の荒波を乗り切るなどは以ての外である。政治界の論議は往々にして生産だけに目がくれてをるが、生産はともかく、販路が大事である。我社の製品を取扱ふところの姉妹會社明治商店は、全國及海外に於て百箇所に近き支店、出張店、販賣所、駐在員及賣店等々の販賣網を張つて千二百餘名の店員を擁し、新聞雜誌の廣告は言ふに及ばず、街頭は勿論野にも山にも各種の宣傳網を廣げて、乳製品の如きは權威ある學者の立場からも榮養の證明を願ひ、凡ゆる方法を以て醫師や産婆の理解を求め、菓子工場に

於ては乳製品を原料として之が多量の使用方法を講じ、常に汲々として製品の消費に努力するも往々にして滞貨を生じ又代金の回収も意外の齟齬を來たす場合もあり、要するに生産もさる事ながら消費の活路を開くことは決して容易ではない、最近所謂反産運動の起る所以亦深く考ふるに足る。

山陽煉乳

岡山市より下ること九驛目にして笠岡驛がある。二萬足らずの一市街である。驛に達する少し手前の右手に山陽煉乳株式會社の工場が田畑の間の土堤の先きに見えて、煙突が高々と屹立し、黒い煙りを吐いてをる。受乳は一日平均十五石位であるが、此の附近一帯、遠くは四國にかけて農家が乳牛を養ふて、多角形營業にいそしんでをるのである。

會社は二十五萬圓の資本で創立、既に十一年、未だに成績を擧ぐるに至らず、業界の波瀾に揺られ通されて、會社自體は無論のこと、農村とても不安を増す許りであつた。斯かる處には外資は得て乗じ易い譯で、先年神戸方面で外資に依つて我國の燐寸事業が倒壊した股鑑も遠からざる事とて、流石に之には引掛からぬだけの賢明な人士が幹部に揃つてをつたので、我社は相談の結

果、過半数の株を引受け、技術者を送り、製品は明治商店で引受けて、回収難の煩累を省いてからは間もなく相當の成績を得るやうになり、會社も農村もかくて一安心の状態である。當時駒口山陽社長と相談した小生の片言を回想すれば

「乳製品製造は特に科學的であらねばならぬ。併し製造のことは兎も角販路の事が御心配でもあらう、販路のことは兎も角代金回収の事が御心配であらねばならぬ。一葉の扁舟では荒波を乗切るとは容易でないが少し大船になれば幾つもの波浪を乗り越へることは比較的安全といふものである。」

といふ様な意味であつた。而して山陽地方でも我社は其處の農村振興にも多大の關心を有する事になつたのである。(昭和十年九月)

北海道との御縁(その一)

臺灣を發祥の地とし、此處に製糖工場七個所と酒精工場五個所を經營し、九千九百町歩の土地を所有し、甘蔗栽培に従事する農家の數三萬戸に達する明糖が何故に日本の最南端と北端とを隔つる北海道に於て新たに甜菜糖業に着手するに到つたか、明治の初葉時代伊達紋別や札幌に於て一敗地に塗れたる甜菜糖業の事は曰はずもがな、大戦後に於て十勝の國に勃興したる甜菜糖業も耕作、製造二つながら豫期に反して經營困憊の極に陥つた。既に創立された二會社然り、續いて用意されたものは芽生へのまゝ挫折したのであつた。此時に當つて明糖が遙々臺灣から來て態々窮地に乗り込んだのは抑もその故なくんばあらずである。

世界の糖業といへば甘蔗糖甜菜糖の二大別がある。歐洲と北米は甜菜糖を産し甘蔗糖は熱帶地に限られてをる。明糖は既に甘蔗糖に於て發展して、臺灣に於ては改良進歩の外最早此上發展の餘地がない、日本に甜菜の適地がある以上は其處に世界糖業の双輪をば動かして見ることは敢て隴を得て蜀を望むの壯圖とばかりは云へまい。況んや明糖の社長は獨逸に學んだ日本に於ける甜

茶糖業の權威でもある。北海道の風土は獨逸のそれに似てをる、否それ以上の適地でさへもあるまいか。當つて碎けて而して成功するのが事業の順序である、先づ虎穴に入つて虎兒を得るの決心が出来たのである。

併しその決心とても更に使命に依つて感激した一種の衝動がなかつたならば、或は實行の拍車をかくるに至らなかつたかも知れぬ。それは何であるかは明糖が砂糖系統の事業として菓子及乳製品の事業を傍系會社でとくに經營してをつたので直ぐに分る事であらう。

蓋し甜菜糖と乳製品とは孰れも循環農業の産物である。甜菜からは砂糖の外パルプが出来る。フスマ以上の濃厚飼料である。これと甜菜の葉莖とを以て乳牛の飼育に充つ、乳牛は乳も産するが又厩肥も供するので之の厩肥を土に返して甜菜の肥料とするのである。斯くの如くに循環極りないから循環農業と稱する所以である。

米作や養蠶などは甜菜耕作と畜牛の様に合理的の循環農業ではない。殊更北海道の様な寒地では此の合理的の循環農業が安全である。北海道の甜菜糖業は今も窮地に在るも孰れは活路が開くであらう。製糖、製乳、製菓に従事する明糖系としてはその使命を盡くし、併せて農村の振興ともなることであるから躊躇すべきではないとて終に大正十二年六月北海道甜菜糖會社の一なる

日本甜菜糖株式會社を合併して彼是數百萬の巨費を投ずることになつたのである。爾來十二年、初めは時未だ至らず、損耗相次ぎ多大の試験費を拂つたが最近の兩三年は幸にして稍々愁眉を開く様になつたのである。然るに近時砂糖關稅が高いとて、一時は猛烈なる引下運動が一部に初まつた。其よりは農村救済や振興の聲が全般的に高く響いてをる。米や生糸が相當の値段を維持せねばならぬとて夫々の施設が行はれ尙様々に講究されてをる際に、同じ農作物の砂糖のみが片手落の取扱を受くるの事由は何んな處に在るのであらうか、少く共北海道や沖繩の農村政策とは柢繋相容れるものがあるは勿論である。

甜菜糖に著手した以上之が運搬や地方的交通を便利にする爲め、大正十三年十一月、河西鐵道株式會社（現在資本金二百萬圓）を設立して四十一軒の鐵道を十勝國に敷設し、又甜菜耕作獎勵の爲め澁澤子大倉男等が開發し創業三十八年の歴史を有する十勝開墾株式會社を買収資本金を百萬圓とした後、日本甜菜會社の土地や東洋製糖會社の甜菜業に用意した土地等を合せて其の所有土地は八千町歩に達し、地内に居住する農家の數は五百五十戸となつた。然るに此の土地は北海道の自作農獎勵の方針に基きて、近來總てを分割開放することゝしたが、實は道廳の方針もさる事ながら、居住農家の土地慾に原因する執著がひどくなかつたならば、一纏になつてをる十勝開

墾の土地は、會社の手に於て經濟的並に社會的に文化施設を施し、理想的な立派な農村が出来上るであらうことは豫想してをつた事でもある。

道廳の援護の下に、甜菜種子農場や各地に駐在所を設けて甜菜耕作を奨励した結果として、近年は明糖區域に於て七千五百町歩を耕作するまでになり、此上の耕作は製糖工場を増設せざれば最早間に合はなくなつたので、更に天鹽の國の士別に六百噸の工場を本年より新設しつゝある。

循環農業の片割れたる畜牛をも奨励したが、其れが爲めには農村に對し十數回に亘つて畜牛資金の融通を爲した。後此の方面の關係は明治製菓に譲渡したが、明治製菓は新たに乳製品工場を製糖工場の附近に設け又旭川驛附近にも敷地を購入して乳製品工場を新設し、畜牛資金も大いに融通し、益々循環農業の奨励に盡力した。農家に多大の信用を博し、今日では我社の計劃する畜産關係の事業なら、何事でも、如何なる地方でも、喜んで追隨するといふまでの形勢とはなつたのである。富良町町長松崎氏は篤農家なるが、畜牛の爲め管下部落に於ける金肥年額數萬圓の半額位を厩肥の代用に依て減少することを得たとて喜びを以て小生に咄されたことがあつた。

先年乳製品工業に關して外資輸入の説あるや、我社は昭和八年十二月大日本乳製品株式會社（資本金百萬圓）を合併して、札幌、八雲、木古内の三工場を加へ本年名寄工場を新設して道内

には六個の乳製品工場を有し、一日平均四百石の原乳を受入れてをる。尙ほ昨年は函館製菓株式會社（資本金二十萬圓）の過半数の株式を引受け十餘萬圓を融通して、此處に我道産の砂糖と乳製品とを主たる原料として道産の菓子を道の内外に供給するに至つた。

尙ほ同系の明治商店は小樽に支店を置き、札幌に明治製菓の販賣所及賣店を設け、其他重要都市の四ヶ所には駐在員を置き、明糖明菓の道産品の販賣に努力してをる。斯様にして明治系の北海道に於ける緣故は、不知不識の間に年一年と濃厚になつて、北海道に従事する明治系の従業員の数も現在既に千名に垂んとし、今後尙ほ増加の勢であるが、足一たび北海道の地を踏めば各地に明治色を見る様になつた。即ち左に列擧すれば、

砂糖工場	一	建設中の砂糖工場	一
甜菜種子農場	一	明糖駐在所	五
乳製品工場	六	受乳所	一
明治商店支店	一	明治製菓販賣所	一
明治製菓賣店	一	明治商店駐在員	四

今春よりは樺太の豊原に士別工場と同様に六萬噸の製糖工場を新設しつゝあるが、北海道通過の機會は之が爲めにも互に頻繁に増すこと、思はれる。

札幌の狸小路に、明治製菓賣店を敷地建物什器等に二十萬圓近くもかけて新築したとき、土地の名士某氏が驚嘆して

『菓子店としては餘りに立派過ぎはせぬか、學生等も出入する場所としては如何にも贅澤な感がある』

と曰はれたが、當時小生は左の意味にて之に答へたと記憶する。

『我等の看る所は聊か貴見と異なるものがある。明治製菓賣店に陳列して販賣する商品は砂糖や菓子乳製品であつて、農村に於ける循環農業の産物である。乃ち農村の賣場と曰つても敢て詭辯ではあるまい。一杯の珈琲に角砂糖と牛乳とをかきませ、菓子を眺めて味覺を啜るところに一日の疲労を慰する無量の愉快がある。飲酒の如く費用をかけたなり、品位を落したりせぬいで多數の御客に慰安を供し、其間に農村振興の一助を爲してをる譯である。我々の賣店では酒を賣らざるが故に老若男女如何なる方でも出入が出来、最も好適な慰安所であるとして各地の警察方面で御賞めに預つてをる。多數を相手とするからには相當の面積が必要であり、慰安の爲めには美觀も必要である。出来得ればもつと立派にして所謂衆と共に樂しむの便宜を擴大し、併て農村と都市とを結びつける縁故を一層強化したいと念願してをるし、又これらは明治系の社

會奉仕の面でもある。』

某氏は釋然として更に曰はるゝには

『然らば農村と君等の賣店とは、恰も一條の綱で引きつ引かれつ登山を爲す様な關係であるとも謂はるべきである。都市に於ける農村の出店である。自然その反影でもある。今後我等は家族的に又集會的に、大いに明治製菓賣店を利用するであらう。』

とて會心の笑を以て深く小生の記憶に印せられたことがあつた。(昭和十年十月)

記念の昭和十年

100

今年も偶然にも、明治製糖は創立後三十年、明治製菓は二十年、明治商店は十五年の、夫々の周年に相當するのであつたが、其の一つだけであつても我等の大に記念すべき年柄でさへあるのに、斯くも揃つて三幅對の奇縁が出現し來たからには、自ら顧みて祝福の念湧然として起り來るものがある。

明治製糖は創業十年にして、其の砂糖加工の使命を達成せんがため明治製菓を創設したが更に砂糖と其の加工品との販賣の目的を充實せんがため明治商店を創設したのである。明糖自身は過去三十年の生涯に於て、粗糖製造より精糖製造にも進み、酒精角糖等の製造にも及び、更に甘蔗糖より甜菜糖製造にも伸展し、國內に於ては外糖の輸入を疾くに防遏し、進んで支那に於て香港の二大精糖會社と角逐して遂に覇權を獲得し、甘蔗の歩留りに於ては我國の糖業は世界の最優者となり、收量に於ては猶ほ先進國に一步を輸するも遠からずして追及し得べき可能性は充分にある。數百年の歴史を有する瓜哇糖と中原の鹿を争ふの日も期して待つべきである。明糖は前陳の

様に華々しき商戦に従事して來たが、之には國家の保護と國民の後援とが大に有力であつたことは勿論であるが、又斯様に明糖が經濟戦に粉骨粹身した奮闘努力の功も認められねばならんと思ふのである。然るに餘りに働き過ぎた結果は却つて世間の誤解を招いたこともあつて、今猶ほ生々しい記憶を残してをるが、事實は暗雲一掃して雨後の晴天の如く霽々しい有様である。今後は一層注意して益々國民民福の増進に寄與するであらう。

明菓の二十年間は其の前半は山路崎嶇たる行程であつた。商標や銘柄を賣込む必要のある菓子乳製品の事業は十數年の星霜と幾多の苦き經驗を経ざれば容易に立行く様になるものではない。東京菓子の社名を明治製菓に改名したり、堂々たる大工場を川崎に新築したりして、辛うじて世間の認識を得る様になつた。食品を文化し國民の榮養に貢献し輸出の増進を圖るは明菓の使命である。否な其れ許りではない、乳製品事業の關係は農村の振興ともなる。明菓が乳製品の輸入を防遏し進で輸出を開拓して、新しき輸出科目を増加したことは實に快心の舉ではあるまいか。由來我國は原野が廣くして牧畜にも適すれば又果樹栽培にも適せぬことはない。其れ故我國の乳製品や果實加工品が今後一層海外に飛躍すべきは間違ない豫測であるから、明菓の手は依然として此の方面にも活躍するであらう。況んや其の本業たる菓子は内外の需要益々増進するに於てをや。

101

明店の十五年間は割合に順調に経過した。店舗は今や内外八十個所にも達して従業員の數も千二百名を超過してをるが、創立當時三十餘名に過ぎざりしにつき年平均八十名を増加した譯である。孰れも年少氣銳の人々であるから訓練の如何に依ては、今後益々手腕を發揮するであらう。販賣科目は明糖明菓の製品が多々益々辨するに従つて増加する譯なるが、餘力を以て社外品をも取扱ふてをる。

要之明糖と其の同系の明菓明店は、食品の文化と國民の榮養及保健、生活改善と農村の振興、輸入の防遏、輸出の増進等々に邁進してをる。輸出の増進それは世界の貿易戰場に馳驅して勝を千里の外に決することである。犠牲獻身素より覺悟の前である。否其ればかりではない、我等の使命は孰れもが決して生優しき業ではない。然るを顧みず將來も既往の如く奮闘を續くる一大決心を有するからには切に大方の御同情と御後援を仰いで止まぬ次第である。(昭和十年十一月)

乳製品の消費促進

東北振興會の答申中に畜産獎勵の一項があります。東北振興の一案として寔に適切なものであると思ふのでありますが、然し畜産の獎勵の必要は、單に東北地方のみに限つた事ではありませぬ。北海道樺太は謂ふ迄もなく、これは日本内地何處の僻陬と雖も積極的に實施される可き國策の一であると思ひます。

我國は國土が極めて狭小であり、その上地形は山野が多く平地は割合に少ないのであります。而もその平地が水田畑作に殆ど開墾し盡されてるのであります。外國の農業關係者が我國を視察する毎に鐵道沿線が双とお菓子のように耕し盡されてるのには感心するが、足一度山村奥地へ入ると廣漠たる原野が徒らに雜草の繁茂するに委せ、一頭の牧牛の姿さへ發見する事が出来ないので不思議がつてるのであります。之は高原開發に關する或る研究家の説であります。我國は古來所謂瑞穂の國で、耕耘は殆ど低濕の地を選んでのみ行はれ、これらが茫々二千年、高原遂に用ふべからずといつた傳統的信念に支配されて來た結果だといふのであります。

我國土の現状は正にこの言の通りであります。耕地面積は土地の全面積に對し僅かに一五%に過ぎません。これを獨逸の四四%に比較するとその約三分の一であります。國力文化の伸張發達が國土の利用活用を根本とすべきことは謂ふ迄もありません。國土を耕地に使用すること僅かに一五%、之では何の國力進展ぞやと思ふ次第であります。

そこで私はこの未開の高原山野を牧畜業に活用することを提唱したのであります。これは單に東北地方の如き一局部の問題でなく、日本全土に對する重大問題であります。畜産が隆盛となれば、その厩肥を用ゐて、例へば玉蜀黍、燕麥のやうな、栽培の簡單な作物、飼料を耕作する事が出来るのであります。之に依つて地力も自ら増進するし、荒蕪の原野も遂には一望の沃地に化する事が出来ます。斯く思ひを茲に致しますと、國土利用の前途は實に洋々たるものがあると思ひます。

従つて我國土に畜産を奨励すべきことは、寧ろ當然の順序であると私は信じてをります。我國の飼牛の頭數はこれを獨逸に比べますと、人口に對する割合からいつても、土地面積に對する割合からいひましても、其十分の一にも及ばない現状であります。獨逸以外の歐米各國に比べてもその何分の一であり時には百分の一以下といった状態なのであります。何事も歐米諸國と角逐し

つゝある今日に於きまして、わけても國土の狭小な我國が土地を利用する事少く、又畜産業に於て斯くの如き劣勢を示してゐることは、國策遂行上の見地からいひましても寔に遺憾であり懸念に堪へない事であると思ひます。

然し如何に土地の利用が必要であるといつても徒らに畜産のみを奨励する丈で、一方に消費の増進を企圖しなければ忽ち生産の過剰に災ひされる事は自明の理であります。

そこで私は、之には國民各自がその日常生活に於て大いに畜産品の消費を行ひ、翕然たる大消費力を醸成しなければならぬと思ひます。日本人は米を主食とする關係上、乳肉の消費が寔に僅少であります。之も對照を獨逸にとれば、一人當りの乳肉消費量は其の十分の一にしか當らないのですから、こんな事では畜産業の隆盛などといふ事は期して待つべくも無いのであります。乳肉が國民の營養上最も適切な食料品である事は營養學者の定説となつてゐる以上、我々は一家の健康保健の上からいつても大いに消費しなければなりません。況んやその結果は當然畜産物の生産を刺戟促進し、農村の更生期して待つべく、延いては國土開發ともなり、更に海外輸出を増加せしめるといふ風に、二重にも三重にも好結果を招來する事になります。

それならばこの消費の増進は如何にして達成したら宜しいかといふ事になりますが、これは當

然一般國民諸氏の食物様式に多少の異變を生ぜしめる問題でありますから、上に於て政府が積極的にその指導獎勵を行ふべきことは勿論であります。畜産物中の牛乳は栄養價值も豊富で且つ最も手近なものでありますが、我國國民の一般は米を主食としてをる關係上どうも之を好まず、その消費量も歐米各國の百分の一といふ有様であります。米價は次第に昂騰する、而も日々生活は唯これ米に依存する、この様な有様では一朝有事の際國家食糧政策上からいつても由々敷一大問題であります。

この問題の解決だけでも、私は國家が大いに乳肉の使用を獎勵する必要があると愚考するのであります。消費の増進などは政府がその心を以て行へば決して困難な問題ではありませぬ。假令よしんば非常に困難な問題であつても、今日より着手して置くべき國策の一であると私は信じてゐるのであります。比律賓の如きはオートミールは勿論、米や雜穀にまでクリームをかけて食べてゐる。その爲に、年四十七萬函のクリーム罐が輸入されてゐるといふ位であります。我國に於ても官民一致協力してこの方面の研究に向つて進むべきだと思ひます。米をパツフしたり、スライスしたりしてクリームを掛けてもいゝし、又玄米パンなどにはバターを使用するのも一方法であります。蕎麥、陸稻、豆類、稗なども牛乳を併用すれば自ら我國民にも恰好食餌となし得る

のであります。(昭和十一年二月)

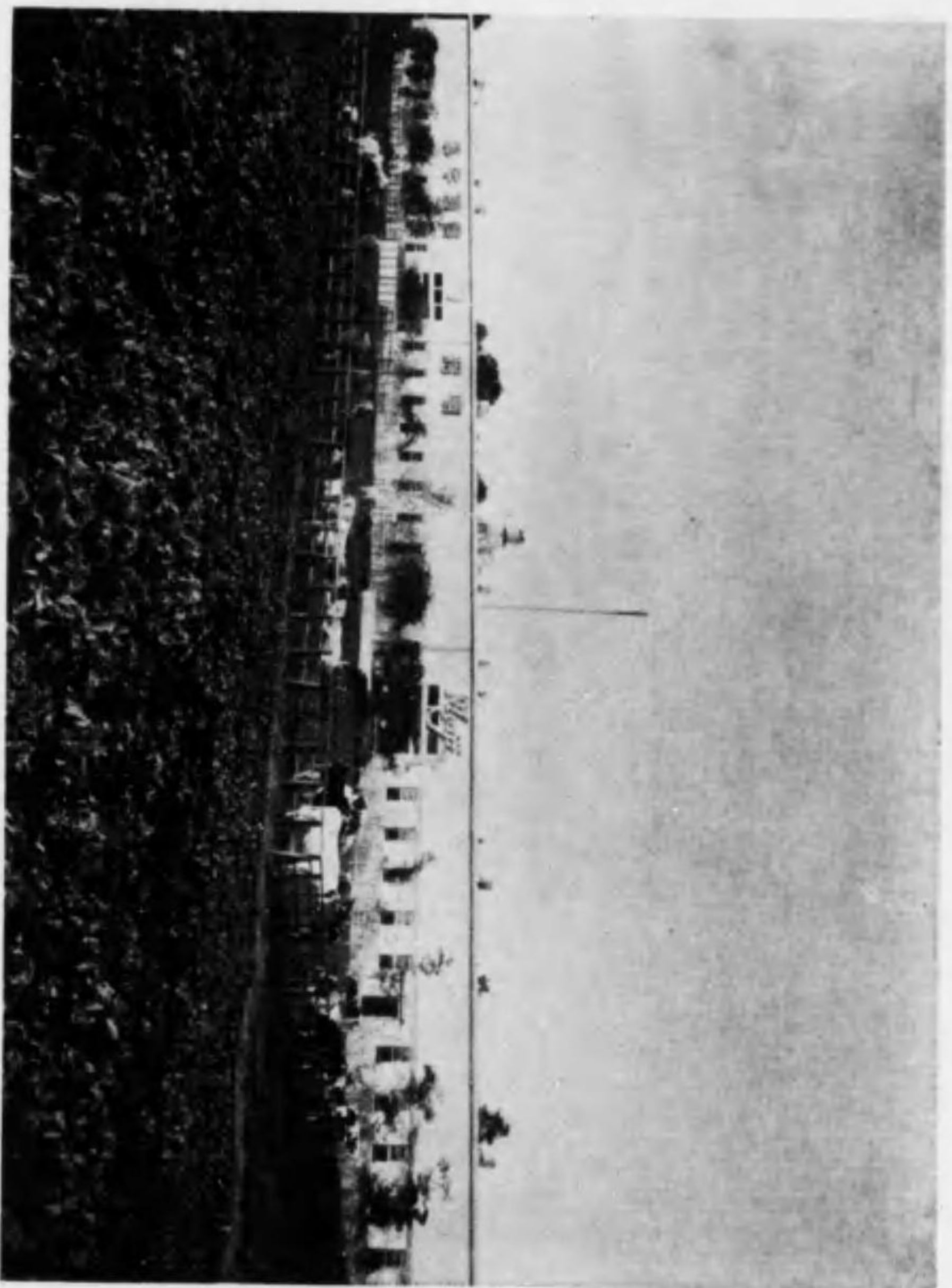
牛乳富國論

一〇八

一

文化の進歩に伴れ、次第に複雑多岐となつた現代の生活に於ては、その根幹である衣食住の三要素以外にも、改善すべき餘地は多くあるであらう。しかし、何といつても、この衣食住が生活の根本問題であり、この三大要素の中でも、最も切實深刻な性質を有するものは「食」の問題である。

この「食」の問題は、單に個人生活にのみ限られたものではない。近代國家にとつて共通最大の悩みは、實にこの食糧問題である。國家も一個の生活體である。生きんがためには食はなければならぬ。國防も外交も交通も貿易も、その他あらゆる國策も、見様によつては、この食糧政策の防護手段といつて差聞ない。食稟満ちて國治まり、衣食足て禮節を知る。食糧問題の解決は、個人にとつても國家にとつても、齊しく刻下最大の急務であるといはなければならぬ。



東京合乳市東京特別牛乳牧場

而もこの問題は、外交軍事等の如く、單に當路者の手腕力量に依頼することを以て足れりとす
るものではない。食糧問題の解決は、國民各自が自ら參畫者たり、實行者たるものである。國民
各自が日々の生活に於て日々に解決して行くべき重大なる責務を負つてゐる問題なのである。私
が生活改善は、先づこの食糧問題の解決より始むべき旨を強調する所以は、實に茲に存するので
ある。

二

我が國民は米を常食としてゐる。その結果、國土の中、平野の大半は水田耕地である。一方、
新興國家の常として人口は驚くべき増加率を示してゐる。この激増した人口に米を供給するため
に、全國の低濕地にして水田として利用し得べき箇所は、殆んど開拓し盡された觀がある。一定
の土地から擧げ得る收穫は、勞力肥料其の他の生産條件によつて生産の増加を期待することが出
來ない以上、吾々は他の方面に向つて活路を開かなければならない。

幸なるかな、我が國は水田耕地に利用すべからざる原野には、尙ほ大いに開發の餘地があるの
である。而もこの原野は非常に廣汎な地域に互つて存在する。これを利用して、牧畜業を起すこ

とは實に食糧問題緩和の一大方法だらうと思ふ。從來、佛敎的迷信に捉はれ、徒らに肉食を嫌つて來た我が國民も、近來大いに乳肉を食用に供する風潮を生じて來てゐる。この機を外さず、この原野で牛を飼ひ、牛肉牛乳牛皮の生産を行ふべきである。

私は牛乳の如き滋養豊富にして、且つ利用並に應用方面の最も汎き食糧が、何故我が國民によつて日常生活に活用されないのか不思議に堪へない。統計によれば、日本に於ける牛乳の使用率は歐米各國の百分の一にしか當らないといふ。これは吾々が牛乳といへば、病人の滋養料であり、母乳の補給料であると誤信してゐる結果でもあり、或は又、所謂「飲まず嫌ひ」の結果でもある。いづれにしても牛乳の利用率の低いことは、食料文化の低さを示す外何者でもないと思ふ。

三

私は生活改善問題を、大所高所より見て、先づその第一歩として、各家庭にこの牛乳の愛用を鼓吹したのである。

第一に牛乳の愛用は、他の食料品の節約になると共に、家庭に於ける健康増進の根源となるものである。牛乳が榮養價值豊富な飲料であることは、内外權威者たちの齊しく立證する所で、今

更こゝに呶々を要しない。加ふるに味も亦佳良である。健康者はこれによつていよくその活力を増大し、病弱者はこれによつて着々と健康を恢復する。我國に比して歐米各國が結核病少なきは、牛乳消費量の多きに歸因するとの説は首肯するに足る。いかに生活が改善されても、家に病人が絶えなければ改善の實が擧つたとはいひ得ない。牛乳は、生活改善と共に、一家に健康の福音を齎すものである。

第二に牛乳の愛用は農村に副業を與へるものである。牛乳の消費が多ければ多いほど、この副業はいよく盛んになる。農家はこれによつて潤ほされ、収入は増加し、生活は向上充實する。現在我が國民中、最も疲弊の度の激しきは農村である。我が國の農民は、全人口の六割を占めてゐるといふ。して見ると、吾々十人の中六人までが疲弊した生活を營んでゐるのである。

この十人中六人の不幸なる生活者が、牛乳の愛用によつて救はれて行くのである。牛乳の飼育は従つて食牛の飼育を促し、牛乳牛皮の生産もこれに伴つて興り、農家の生計はいよく豊かになり、農村は益々振興するに至る。國民的生活改善の眞意義が、單に牛乳を飲むことによつて期せずして行はれて行くのである。

更に牧牛の隆盛は、不毛の原野はやがて肥沃なる良土と化する効果がある。畜産いよく盛な

れば、これより生ずる厩肥も益々多くなり、この厩肥は又以て他の耕地を肥す料とすることも出来る。年々肥料の昂騰不足に悩んでゐる農民も、これによつて一道の光明を認めることが出来るだらうと思ふ。

四

私は如上の理由によつて、家庭に牛乳の愛用を、農村に牛乳の飼育を奨励したいと思ふ。勿論これには國家自らその誘導鼓吹に當らなければならぬ。米國の如き我が國に百倍する牛乳の使用率を擧げながら、尙且つ政府が巨費を投じて、牛乳の愛用を奨励してゐると聞く。私は、我が政府が、一日も早くこの賢に倣つて、適當なる方策に出でられんことを希望して止まないものである。

牧牛の隆盛は、單に食糧國策の解決に資するばかりではない。その生産品が國內の需要を償つて餘りあれば、外には洋々たる海外の市場が待ち構へてゐる。現に、牛乳利用の食糧品は東洋南洋の市場に、次第にその販路を開拓しつゝある。綿布綿絲、雜貨、機械器具等々、日本品の世界市場を次第に征服しつゝある現在、私は近き將來に於いて、日本畜産品の世界進出の實現を希望

して已まないものである。即ちこゝに牛乳富國論をなす所以である。一つは國力の伸張を希望する處より、一つは大所高所より生活改善の眞意義を説かんと欲するために。(昭和十一年六月)

農村の延長 家庭の延長

一

砂糖は甘蔗や甜菜を原料として、わが明治製糖の外各製糖會社の工場で製造される。甘蔗や甜菜が農産物であることは申す迄もない。菓子製造の主要な原料はこの砂糖である。田舎の原始的な生産物が、例へば明治製菓の如き近代的設備の中で、美しいもの文化的なもの、代表物であるかのやうな菓子に姿を變へるまでには、無論幾多の時日と場所と工程とを経なければならぬ。その道程が餘りにも長いために人はその間の深い關係を忘れてゐるのであるが、菓子が農産物の變形であることは蔽ふべくもない事實である。

二

砂糖以外の菓子の原料としては、煉乳があり粉乳があり、バターもあればチーズもある。孰れ

も牛乳から造られるものであるが、牛乳が農家の副産物として生産されてゐることは知らない人はなからう。昔は菓子と牛乳とは凡そ縁の遠いものだったが、現代では牛乳は嗜好の上からいつでも榮養の上からいつても、菓子には必要缺くべからざるものとなつて、農家の副産物の牛乳が盛んに菓子に取入れられてゐるのである。その結果牛の手綱を曳くものは、直接には里の童であつても、間接には菓子工場の技師であり、或は消費者自身であると謂へるのである。

三

無論製造が消費を刺戟する場合がない譯ではない。然し消費がなくては製造は起り得ないのが原則である。菓子と乳製品の消費はこの理法によつて、自然に農家に乳牛の飼養を奨励する原動力となる。砂糖に於ても同様の事がいへる。牛乳や砂糖ばかりでなく、麥粉も飴も製菓原料に用ひられる。葡萄も杏も栗も胡桃も、林檎も薄荷の如き香料までも、農村から製菓工場に運ばれてその最新式の機械の中を散歩しながら、いつの間にか美しい菓子に生れ代つて行くのである。かうして製糖、製菓、製乳の各工場は多くの農産物を日々多量に消費してゐる。農村の延長としての機能を果すと共に、その振作開發の管鑰の一つともなつてゐるのである。

四

見渡す限り緑を湛へた田畑、それが又金色の波を打ち返す出来秋のゆたけさ、その間には悠々と草を食む乳牛の姿も見えるだらう。かうした風景の次の場面には近代的の製菓工場が青空に層を重ねて隆然と聳えてゐる。こゝで作られた菓子は國內の需要を充たすと共に、次の場面では大きな汽船に積みこまれて、遙かに海外の市場に向つて萬里の波濤を越えて行く。これを思へば、製菓工場は又、農産物の輸出港を代行してゐるといつてもいゝのである。

五

我が國の人口の過半数は農村に居住してゐる。農村の疲弊はわれ等過半数の疲弊である。その農村は過去數年間災害頻りに起つて農家は困乏のどん底に沈淪してゐる。これが救済策としては目前の應急策も必要であらうが、その根本策は何といつても農産物の利用の方法を講ずることである。この點に於て、製菓製乳等の事業は、農産物利用の事業として、比較的近代的なものであるため、前途も洋々、發展の餘地も極めて廣汎である。これら事業を旺盛にすることは、廻り廻

つて農村振興に貢献する所以である。これを思へば、かうした使命を帯びて製菓會社に働いてゐる吾々の責任が、いかに重大であることは謂ふまでもないだらう。

六

製糖工場、製菓工場、製乳工場はかくの如く農村の延長である。然しそれにもまして農村の手足となつて働いてゐるものに、これらの製品を販賣する明治製菓賣店の如き機關がある。工場を農村の腕とすれば、これはその指である。

七

近代的の建物に理想的な設備を凝らし、陳列棚には千紫萬紅花の如き菓子乳製品が、満面に笑を湛へて顧客を待つてゐる。店内にはあらゆる快適なレフレッシュメントの装置を施し、明朗懇切なサービスと優良無比の製品の供給とを以て顧客の満足を買ふ。こゝに近代的賣店の使命がある。顧客の満足を得れば得るほど製品は賣れて行く。小さな指一本の働きが強い力となつて農村へ還つて行くを思へば賣店に働く者の使命も亦重大である。

明治製菓賣店は特にこの點を重視し、農村と都會とを繋ぐものは、店内一個の陳列棚であり、陳列臺に立つ一人の店員であるといふ信念で奉仕してゐる。こゝで顧客の満足が得られ、ば販賣は當然増進され工場は製品製造のために農村から原料を盛んに買入れる。地球が知らない間に循環してゐるやうに、賣店に於ける佳きサービスが、佳き製品が、農村を潤すものだと思はれてゐるのである。何としても消費者あつての販賣であり、販賣あつての製造であり、製造あつての原料である。明治製菓はこれを經營の金科玉條と考へて、賣店の設備にも少なからざる工費をかけ、設備の完全を計り、そのためには日も是れ足らぬ有様である。さうして有形無形に清潔第一をモットーとし、親切機敏を以てサービスの完全に努力してゐる。明治製菓賣店は元來酒類を取扱はない。奉仕するものは國民の榮養保健哺育に必要な品物ばかりである。従つて老幼男女何人にも快適な店舗である。家族の團欒にもよく、集會の親睦にもよく、獨りしづかに爽快な味覺を楽しむにもよい、即ち明治製菓賣店は農村の延長であると共に、家庭の延長でもある。農村と家庭が、街頭の花園に似たこの快よい賣店の陳列棚で、卓子の上で、ソファアの上で、仲のいゝ握手をする處なのである。(昭和十一年九月)

北海道との御縁(その二)

北海道に於ける我が明治系の事業關係や其の沿革等を回顧して、一昨年十月本題の下に記述したことがあつたが爾來僅かに一年餘の日子を経過したに過ぎないが、我が明治系の北海道に於ける關係は、日増しに長足の進歩を遂げつゝあることを感ぜざるを得ぬのである。

前回に於ては明糖が其の内地や臺灣に於て得たる利潤の一部を以て北海道の甜菜糖業に従事し十餘年の犠牲を拂ふて漸く製糖工場二箇所、甜菜農場一箇所に達し、稍事業の安定性を見るに至つたこと、甜菜運搬及一般交通のため約五十四軒の鐵道を有する河西鐵道會社を經營しつゝあること、甜菜糖業と循環農業を形成する酪農業の發展の爲に明菓の製乳工場を各地に増設し、且つ大日本乳製品株式會社を併合し道内製乳工場の數七個所に達したこと、明糖明菓の農産物を宣傳販賣する爲め道内に三箇所の店舗を増設したこと、而して以上の各工場店舗等に活動する従業員の數一千名に垂んとすること等々を述べたが、爾來一年餘の經過は左の如くである。

明糖の新設に係る士別工場は昨年落成して製糖を開始し、八箇所の駐在所を區域内各地に増設

して、清水工場の分と合併して十四箇所となり、甜菜植附面積は一萬町歩を越えた。土地八千町歩を擁した明治系の十勝開墾會社は、道廳の御方針に基づきて大部分の土地を自作農に分譲し、残部は明糖に移管して依然分譲方針を續行中である。

一昨年十二月三井經營の極東煉乳會社を明治系の經營下に統制したことは、大いに業界の耳目を聳動せしめたものであつた。同會社は創立二十年餘の古き歴史と背景とを有し、資本金百五十萬圓、道内に製乳工場二箇所の外千五百町歩の廣大なる牧場を有し、道内に於ては大日本乳製品會社と其の勢力を角逐したものである。此の牧場は一面に於ては極東社の重荷と稱せらるゝものであつたが、明治系は此の重荷でさへも大いに樂觀的希望を抱く様になつたのである。何となれば我々は極東社と相前後して輕井澤附近に所在する廣袤七百町歩の神津牧場を買収したのも亦同様に將來有望と認められたからである。

日本は牧場に適しない、其の狭小なる國土は何處に牧場を經營する程の餘地があるか、人口多くて其の食糧さへも不足する心配がある處に、畜牛までも大々的に着手するなどは、丸で餘計な御節介であると云ふ様な古風な議論もあつた。是は大變な認識不足である。土地が狭ければ狭いほど土地の利用率を増進せねばならぬ。人口が多ければ多いほど仕事を殖やさねばならぬ。有畜

農業は即ち土地の利用を増進するものであり、従つて農村工業を開發するものである。

多年吾々は主として乳製品工業に従事して遂に輸入を防遏して逐年輸出を増進するまでに疾驅して來たが、是よりは更に一步を進めて牧場の經營に従事し、世界的に優秀なる乳牛を造つて、國民の保健哺育に大いに寄與する所あるのみならず、今後大いに需要の増加する將來性のあるべき、先づ手近くは東南洋への乳牛輸出を今より用意して掛るべきであると考へてをる。極東牧場の乳牛が其の乳量の檢定に於て、世界的最高記録を有するもの既に數頭に達してをることの事實を世間では御承知の方が多くはないやうである。

オリムピックは世界人類のスポーツに於ける最高記録の競争である。人類の榮養食物中牛乳に及ぶものなしと世界斯道の權威者が一致唱道する所の其の牛乳を産出する我國乳牛の世界最高記録は決して閑却さるべきものではあるまい。極東農場に我々が一大興味を以て着眼した所以は叙上の事由に基づいた次第である。

次で昨年七月新田製乳工場二箇所を買収して明治系の製乳工場は道内に於て十一箇所となり、是等工場の集乳日量約三百五十石となつた。全道の三分の一の乳量にあたるのである。更に伊達紋別に於て一箇所増設の計畫中であるから遠からずして製乳工場一打の數に達するのであらう。

尙もと大乳社の札幌工場と、もと極東社の豊平工場とを合同して道内の誇となるべき一大製乳工場を札幌市に新築の設計中であり、近き將來に於て之が實現を見るに至るべく、又追つては極東社の帯廣工場と、もと新田の止若工場をも合同して、帯廣に大工場を新設する筈である。斯くて大いに北海道の畜産界に寄與する所あらんとする覺悟である。

從來豊平工場では果物蔬菜の罐詰加工業に従事してをるが、是等罐詰類は國內の需要増進しつつあるのみならず、輸出向にも有望なるが故に大に適材を招來して豊平工場の外、道の内外に事業發展の計畫を爲しつゝある。

昭和九年函館製菓會社との提携成立したが、昨年四月遂に明菓に併合して、大いに建物機械等の改造増設を企て、キヤラメル其他の製品を増加し益々道産の甜菜糖と乳製品等を原料として道産の菓子を増産し、道内農産物の消流に對する有力なる一方の活路を展開してをる。

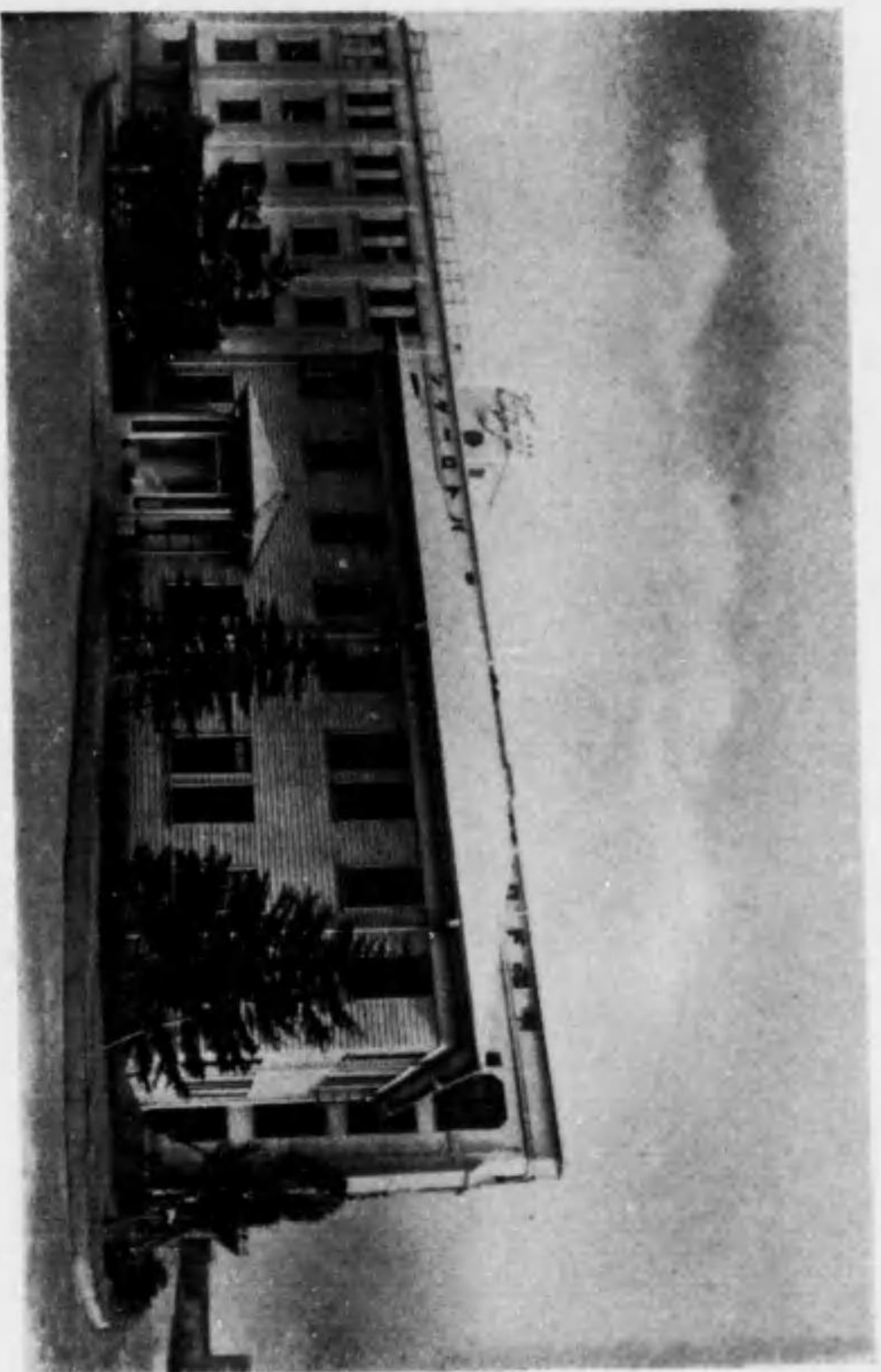
農村に豊穰な甜菜が如何に山の様に出來榮えても、又濃厚な牛乳が如何に瀧の様に流出しても是等の原料を蒐集し且つ處理する製造工場が思ふ様に其の機能を發揮する事が出來なければ、製糖業も製乳業も、うまく行くものではないと同様に、製糖工場はまだしもであるが、製乳工場が如何に立派な煉乳や粉乳やバター等々を製造しても、これ等製品の賣行きが都合よく出來ぬなら

矢張り製乳業はうまくゆくものではない。其の結果は農村の爲にもならぬのは勿論、亦工場を経営する者のためにならぬ。即ち農村の振興にもならなければ産業の開發にもならぬ。要するに何にもならぬのみならず却つて損害さへも伴ふものである。そこで是等の製品を消流するために宣傳販賣の機關が大いに必要となるのである。明治系は明治商店をして道内に從來三箇所の店舗を置いたが、一年餘の今日では店舗を四箇所に増設した。

然るに道内だけに店舗を配置した事のみを以て製品普及の安心が出来るものではない。北海道の産物は内地や臺灣の産物とともに、之を内地にも臺灣、朝鮮、滿洲は勿論、支那南洋方面にも宣傳販賣の努力を要するので、明治商店は是等の各地に販賣網を張り、年々増設して今日では其店舗の数が百十數箇所に達してをる。英領及蘭領印度、ビルマ等には數名の出張員を派出してをる。北海道の水は南洋に連なり、北海道の乳製品は長鯨の如き勢を以て南洋に躍進してをる。今日では販賣力旺盛にして品不足を來し、注文數の三分の一にも應じきれず、數量の多々益々多からんことを希望してをる。

道内に於て明治系の事業に従事する従業員の數は、事務員、技術員、職工、農夫等現在千百餘名に達す。官廳大學其他御指導の下に、農村に對しては其の延長ともなり家庭に對しても亦其の

延長となり、食品文化、農村振興、國民保健並に輸出増進等の使命に向つて猛進しつゝある。
 今や牛乳及乳製品は官民多年の努力が酬らられて澎湃たる勢を以て普及されつゝある。醫界に於ては何人も榮養食として第一に牛乳を勧めざる醫者はなき有様であつて、一時は漢方醫の一隅に反動の意見もあつたが今日では壓倒的大勢に屏息の外なき情態である。又農村に於ては有畜農業に覺醒し來り、其の影響として近來は明治系に工場を経営を勧誘せらるゝ地方も一二にして止まらない。斯くの如き狀勢の中に在つては我々の使命は一層其の重大性を加重し來りたるを感ずるのである。今後一層大方の御同情と御後援を祈つて止まぬ次第である。(昭和十二年三月)



明 治 製 菓 川 崎 工 場

文化生活と菓子

英國の經濟學者アダム・スミスは「生殺與奪の至上權を有する未開國の國王よりも文明國の庶民の方が遙かに贅澤をしてゐる。」といつてをるが、文明の進むに伴ひ生活程度は向上するもので其處が文化生活の必然性で又妙味の存する所である。徳川時代には百姓や町人は結構な菓子を食ふ可からずといふ掟があつた様だが、今日は結構な菓子を經濟が許す程度に於て來客用に、家庭用に常備して置くのは、人生を有意義に愉快に送る上に必要である。日常生活に於て菓子は平和の媒介者である。往年藤山日糖社長の園遊會の席上で、故大隈侯が例の三寸不爛の舌を振つて「酒を飲んで喧嘩する者は多いが、砂糖を食べて又菓子を食べて喧嘩をする者は無い。斯く考へると砂糖や菓子は平和を意味す。」と語り終つて婦人席を一瞥して「それ故御菓子のお好きな御婦人は平和の神様だ。」と愛嬌を振り廻して幾百來賓の心を朗らかならしめた事がある。實に菓子は平和の媒介をなすもので、訪問の際など僅かな菓子折を携へて融和な情景をたゞよはす例は少なくはない。御菓子を圍む團欒の喫茶が如何ほど健全なる交際を圓滑ならしむるかは申すまでもない。

此處には酒を交へざるが故に特に健全と稱する所以ではある。又御母様方がお子さん達に與へる御菓子には、母性愛の錦上にスキートの花を添へた様なものではあるまいか。

文化と菓子

菓子が文化生活上必要である事は此上申すまでもないが、偕て如何なる菓子を選択すべきか。其の選擇の要素如何の問題は生活改善上肝要なる事である。菓子選擇の標準は各方面から其の専門に互つて觀察すれば色々あるが一般に其の選擇要素を(一)美感、(二)體裁、(三)單純、(四)衛生、(五)榮養の五點に置いて選擇すれば宜しいと思ふ。而して此の五要素を具備するものが菓子として良好なるものである。美感の一部分である味は非常に美味であつても衛生上甚だ不良な菓子は喰べる事を禁するがよく、體裁は佳良であつても榮養價值の乏しきものは避けなければならぬ。其の使用方面に據り前記五要素の選擇點も或は體裁に重きを置くとか、又は衛生を第一にして考ふるとか其他色々の重要な程度には差別を生ずる場合があるのは勿論であるが、之等五要素は文化生活の菓子として全部を具備したものの程宜しいものである。

美 感

美感は即ち快感である。美感を逐ふて生活するのは人間界の通性であつて美しい衣服を着ると氣持よく感じ、おいしい食物を食べると爽快である。その爽快に感ずるのは視覚、聽覺、嗅覺、味覺、觸覺の各感覺の作用に依るものである。文明が進むに伴ひ美感の觀念は五感の總動員を要求するやうになつて、單純に視覺のみ優良なりとて之に満足するものではない。然るに非文明人は一般に五感の一つが快感を與ふれば満足するものである。されば古風な菓子は簡單な快感しか吾人に與へないが、近代的の洋菓子は複雑なる快感を與へる。一例として即ちドロップの如きは(一)視覺の快感としては色々の美しい色と艶とを有し、(二)嗅覺には各種香料の芳香があり、(三)味覺では甘くて種々果物の味を有し、(四)手にして輕快である事は觸覺に、(五)その相觸れて發する磬々たる音響は聽覺に美妙の波動を與へるものである。斯ういふ風に近代的菓子の特徴は簡單なる快感ではなく複雑な快感を誘致してをる。斯様な菓子を指して端的に洋菓子と稱するのは當つて居ない。日本菓子にも其の特徴がある。吾人は彼我の長を採り之を開展助長して敢て模倣に依らず大いに創意を發揮して最も進歩したる近代的にして且つ世界的の菓子を製造せねば

ならないと思ふのである。

體裁

體裁も美感の一部である。形、色彩、調和、重量等體裁を分解すると色々あるが、體裁は婦人に於ては特に重要視せらるゝものである。昔に婦人のみならず男子でも小兒でも體裁がよいと美感を感じることは申すまでもない。形に於て矩形とか楕圓とか卵形といふものは見て快きものである。色彩に於ては男女の別により其の好みが異つてゐる。スコット博士が米人について實驗された結果では男子は(一)藍色、(二)赤色といふ順序、女子は(一)赤色、(二)藍色といふ順序に好む色の程度が異つてゐる。近代的菓子は大に注意が拂はれ、可なり變化があつて複雑してをる。特に包装に至りては所謂意匠慘憺の跡が展開してをる。

單純

文化は一面に於て複雑化を意味するが、他面に於てはそれとは反對に單純化を必要とする。近代的菓子は従來の古風な菓子に比較して携帯は便なるのみならず亦保存が容易である。従つて旅

行遠足など菓子を携へて行くに重寶であり、贈答にも又來客の際の準備にも極めて便利である。文化生活は美感とか嗜好とかの上からは多々益々複雑化を要求し、しかも文化の一部たる簡易生活の上からは多々益々單純化を要求する。絢爛たる文化は色とりどりの花の如きヴァラエティーである。とはいへ雜然紛然たる塵芥の如きものは文化ではない。不要を排し整然たる處に文化の眞の意義が存するのである。

衛生

菓子の選擇要件中で第一に必要なるものは衛生的であるといふ點である。一般に家内工業的の菓子店に於てはやゝもすれば非衛生的設備で製造するとか又は日光の射入の少ない塵芥の多い黴菌がをる地下室の製造であるとか兎角非難を招いたが、輒近は菓子製造所では衛生といふ點に注意を拂ひ、特に大會社での工場は清潔を尊び従業員は總て眞白なエプロンを着、手に手袋をはめて製造に従事し、自働機械を使用して、菓子をパラフィン紙等にて包むやうな設備になつてをる。要するに近代的菓子は主に機械的生産であつて直接には殆ど人手を觸れない様になつてをるから、清潔といふ點は目立つて進歩してをる。そこで菓子は衛生的設備の完全な特に社會的信用

を博してをる會社商店の製菓を選択すべきである。

榮 養

近代的菓子は其の原料中に牛乳を加へてをる。牛乳が榮養豊富の點に於て食物中の最高峰であることは世界榮養學者の一致の意見であつて今更議論の餘地はない。菓子が此の榮養品を一成分子としたことは西洋文化の御蔭であることを肯定するの外はない。但しさうした肯定をしたからとて決して今日日本に於て進歩した菓子の特長を否定する譯ではない。日本古來の菓子も其の美味美感色彩形状等教へられる處は多々ある、特に我國現代的の菓子は内外の長所を綜合して大成しつゝ、あるので、今日の日本菓子は決して西洋菓子に劣るものではない。否今後益々其の特長を發揮して、世界的の名聲を博する様努力することは吾人の使命ではある。されば決して小成に安んずべきではない。大成途上に在る我々の菓子に於ては無論短所のあることは免れぬが、之を認識することは所謂自覺である。自覺なければ改良進歩はない。昔劍道修行の武士が其の勝負に於て「參つた」といふ事を明言し得たことの如きは自覺の聲明であつて、之を聲明する程の勇氣ある者は確かに他日の大成を期し得たのである。然らずして負け吝みの聲明を爲す者は多くは所謂犬

侍に墮した様である。我邦に於ける現代的菓子も慥かに進歩は認められるけれ共まだ、改良進歩を要する點が多々あるといはれても敢て之を否む事は出来ない。「より高きに進め」之が吾々菓子業者のモットウであらねばならぬ。(昭和十二年六月)

國民體位の問題

非常事變に際して國民體位の向上が一層強調せらるゝに至つた。否、非常事變の前からも此事は既に問題となつて保健社會省の新設が決定するに至つたのも主として此の事のためだらう。

非常時局の中堅層をなす壯丁の體格及び健康を軍當局が調べたところ、徴兵検査に於ける不合格者丙丁種の増加は、大正十一年より同十五年までの間は壯丁千人につき二百五十人平均の不合格者を出したものが、昭和二年より同七年までの間には不合格者の數は三百五十人平均に激増し更に昭和十年現在では四百人平均になつてゐる。又身長増加に比して體重の増加が著しく劣つてゐる。例へば身長は大正元年は平均五尺二寸、昭和十年は平均五尺二寸九分となり、二年毎に一分づゝを増加してゐるが體重は大正元年は平均十二貫八百匁、昭和十年には十三貫百匁となり二十五年間に二百七十匁餘の増加であり、身長に比して體重の増加が伴はない。それに近視眼と結核性胸部疾患が激増し、明治三十四、五年には壯丁千人につき結核診斷は二人平均であつたが

現在は二十四人平均と十二倍になつてゐる。この悲しむべき國民體位の下向がまざ／＼と數字的に明かになつた以上、これが向上挽回を策することは我國の最大急務であらねばならぬ。

然らば如何にして體位の向上を圖るか。これには國民生活上種々なる施設を必要とするであらうが、就中榮養の事が主要條項とならねばならぬ。

我國民の主食たる米穀は未來永劫依然として主食たるには相違ないが、之に加ふるに古來我國に於て食物として餘りその發達を見ずして、歐米に於ては盛んに利用厚生用に供せられたる牛乳の消費を大いに奨勵して、榮養の缺陷を補充するの必要あるべしと信するのである。所謂彼を長を取入れて我の短を補ふことに於て敢て吝かであつてはならぬと思ふのである。

一概に歐米人の食物として牛乳を排斥すること勿れ。彼等の體格は割合に長大である。壽命も邦人の平均四四・八二歳に對して丁抹人六〇・三〇、英吉利人五五・五〇、獨逸人五五・九七である。

各國民平均年齢（最近内務省調査）

男

丁

抹

六〇・三〇

女

六一・九〇

瑞	典	五五・六〇	五八・三八
諾	威	五五・六二	五八・七一
獨	逸	五五・九七	五八・八二
英	利	五五・五〇	五九・五〇
和	蘭	五一・〇〇	五三・四〇
日	本	四四・八二	四六・五四

結核性の疾患も我に多くして比較にならぬほど彼に少いといふことである。その然る所以のものは外に種々なる原因もあらうが、顯著なる事例としては榮養食料たる牛乳の需用が彼れ百以上にして我れ一に過ぎざるが如き大相違あることである。

各國牛乳消費量(最近一年一人當)

瑞	典	一七〇、〇九
丁	抹	一四三、八一
諾	威	一二九、二四
和	蘭	八二、九五
獨	逸	六九、二九

升

英	吉	五二、九三
米	國	一一六、〇五
加	陀	一〇九、九六
日	本	一、〇六

體格を以て人種の優秀性を詮議するの愚に陥ること勿れ。日本人の優秀性は日本精神と共に別に存するものがあることは勿論である。然るに之に加ふるに更に體格の完全を以てするならば所謂鬼に金棒である。

徒に數字を臚列することは倦怠を生じ易きものなるが、左の如き月釐の懸隔を呈する様な數字に至りては、寧ろ奇異感を惹起し却つて興味を惹く場合もある。東京の人口が六百萬人にして牛乳の消費量が一日僅か五百石なるに、紐育では人口約八百萬人牛乳一日約二萬六千石である。其他も東京とは比較にもならぬ數字ではある。

世界大都市市乳消費量

紐	育	七、九八六、三六八	牛乳消費量(一日)	一人當(一日)
倫	敦	八、二〇一、八一八	石	合
				三、二九〇
				一、七〇〇

巴里	四、九三三、八五五	一〇、〇〇〇	二、〇三〇
伯林	四、二四二、五〇一	八、一三六	一、九二〇
東京	五、六六三、三五〇	五〇〇	〇、〇一八

今日に於ては我邦でも一部偏狭なる見解に在る者の外牛乳の栄養價值について疑念を挟む人は殆んど無くなつた。世界の栄養學者は牛乳禮讚に於て一人の除外例もない。大戰當時米國政府の壯丁検査の結果は牛乳の量に依て壯丁の強健の程度の上下さることの實證を得て、それ以來國家に於て之が需用を極力獎勵してをる。然るに今日之に反對する有力なる論議の一でもあつたことを聞かない。

邦人と歐米人との體格の比較を考へて、兩者の食物の相違點を吟味した上、その顯著なものは牛乳であつて見れば、牛乳が體格の大小長短強弱に大なる關係のあることを考察し得るのであるまいか。

或は曰く『牛乳禮讚結構である。然るに日本の牛乳は歐米のそれの如く優良でない。此事はさなきだに牛乳が由來米食と調和しない所に更に一層日本人の嗜好に背くべく拍車を加へるやうな

ものである。』と。稀には優良ならざる牛乳があるかも知れぬが、併しながら近來當局の取締は大に徹底してをり、不良の餘地は殆んど存在を許さぬ位である。只牛乳の芳香に至りては或は採算關係等にて、我國の牛乳は歐米のそれに比し、一步を輸するものあるかも知れぬが、これは牧草の關係なるが故に、極力改善方が講ぜられつゝある。我社の特別牛乳を用ひらるゝ方は定めてその芳醇なる風味を感得さるゝことゝおもふ。若し夫れ牛乳が米食と調和せぬとの小言は、偏食者流の妄言に屬する外の何者でもない。

或は曰く『牛乳の栄養價值は認める、但し値段が今少し低廉でなければ需用の増進は困難である。』と。これは我等も御尤の意見であると思ふ。品質の一層改善を圖ると同時に賣値の低下を期することは我等の使命と心得てをる。その爲には畜牛、製造及配給の方面に於て、尙一層の合理化を伸張しつゝある。然るに製造については我社の獨力を以て如何様にも改善出來得るものも少くはないが、畜牛と配給に至つては農家や商家の協力を要する事柄が多く、多數のことゝと思ふ様に進捗せざる場合も少ないのである。これは甚だ遺憾の次第であるが、社會的の改善は急遽事を處するを避け、漸を逐うて進展する外はないであらう。更に牛乳の消費が歐米の如く高度にな

らぬまでも、せめて現在の比較上百分の一にも充たぬ消費が五十分の一にまで増進しても乳價の低下を期し得べきは勿論である。牛乳の消費促進を高唱する所以の一面の事由もこゝに存するのである。

我社並に同系會社は理想的の牧場を經營することを企圖してをる。神津牧場及輕川牧場は疾く知名のものとなつたが、尙ほ大牧場の創設を考案してをる。最近明糖の相馬社長は明治製菓の福島常務及極東煉乳の岩波専務を帶同して歐米視察を遂げたるが、親しく彼地の大牧場を見學し世界的記録を有する名牛十七頭を選定し、巨費を投じてこれを買取り既に國內に輸入を了した。爲替統制のやかましき今日に於て、乳牛の輸入に成功したことは、當局に於ても今や將に發展途上にある酪農事業が、我國に於ても如何に重要であるかを認識されたるに由るものである。相馬社長の獨逸よりの來翰中に曰く『先月來當地開催の萬國酪農大會に出席した。展覽會もあり、出品中機械類の多き又觀覽人の多くして熱心なる、酪農は文明國としての大事業となるべき性質の仕事と思ふ。』と。その何が故に然るかは、酪農が國民體位の問題に大關係ある事が最も重きをなすからであらう。(昭和十二年九月)

昨年の回顧

我社は夙に國民保健、食品文化、國產發揚、農村振興及輸出増進等々の重大使命を自覺して一意衷心奮勵努力してをるが、年々着々として是等使命の進展を遂げつゝ、ある事實は大方の御後援の賜であつて感謝措く能はざる次第である。

牧 場

茲に昨年中の業績を回顧するに、親會社たる明治製糖が昨年四月の總會に於て其の定款の目的中に、牧場の經營を加へた事は實に劃期的の一大進展である。農耕に循環農業たる酪農業を缺く事は、副業及飼肥料等の關係に於て眞に有利なる農耕とはならぬ。農耕即ち有畜農業ならざるべからざる事は世界的の定論であつて、我邦に於ても今日に於ては之に關して一人の異論者もなきまでに普く理解されて來た。然るに畜牛一頭當り耕地面積に於て、我國が九、四七英反なるに對し、最も少なきは瑞西の〇、七八英反にして英米獨等も一英反臺乃至四英反臺に過ぎず、以てい

かに我國畜牛の割合が過少にして酪農の振はざるかを知るに足る。酪農の根源は牧場である。明治製糖が牧場經營の目的を定款に掲げて之が遂行に乗出した事は、我國の狭小なる土地を牧畜にも利用して其の結果が假令歐米列國に及ばずともせめては之に接近せしめんがためでもある。昨年相馬明糖社長が岩波極東專務を伴ふて、歐米の大牧場を視察し、北米及和蘭より系統記録を有する名牛十七頭を購入して來たのも右の目的遂行の一端を表出したに外ならぬ。

明治製糖が昨年設立して次で合併した明治農産工業の定款の目的中には飼料の製造及其原料の栽培等の事業がある。明糖の定款には飼料の特掲は無いけれども、牧場を經營する以上飼料の製造も其の原料の栽培も孰れも關聯附隨の事業たるには間違はない。我國飼料の輸入は昭和十二年中に於て數其他千五百六十八萬圓に達してをる。今後必要に應じて明糖は銳意之が供給に従事し輸入を防遏すべき時が來るであらう。單なる耕作は平面的農業であつて我國の如き狭小なる耕地面積に於ては當然不足を感じる次第であるが、酪農となれば立體的農業であるが故に農業をして豊富ならしむる所以ともなる。

乳 製 品

昨年明糖系の樺太製糖は樺太に於て多額の資金を投じ畜産組合に屬する數ヶ所のバター工場を買収して之が經營を引受けた。明治製菓は栃木縣に於て畜産組合の市乳工場を負債と共に引受けて經營に従事した。岩手縣に於ては先年岩泉製乳工場を建設した處昨年より畜産組合の經營に係る製酪工場に技術者を提供し且經營の相談に應ずる事となつた。新潟縣及山口縣に於ても同様若くは類似の取極めを爲し相提携して酪農の發展を策する事となつた。

静岡縣に於ては志田煉乳會社の全株數を買収し、石川縣に於ては北陸煉乳會社の過半數の株を買収して當社に於て煉乳製造販賣の經營を爲し、廣島縣に於ては廣島牛乳會社の半數の株を買収して廣島市に於る經營の中心を當社に移し、孰れも縣當局の方針を承はりて斯業の發展を期してゐる。滿洲の如き年の過半は耕作の出來ぬ地方に於ては殊更酪農を必要とするのは當然で、折角獎勵されつゝある所の日本移民も之なくては結局其の安定性を失ふ次第なるが故に、當社は滿洲國政府軍部及滿鐵等の勸誘の下に哈爾濱に於て先づ市乳工場二ヶ所を買収し、之を踏臺として着々として滿洲に於ける酪農の發達を講じ農業改善と食品文化に資す所あらん事を期してをる。

菓 子

製菓事業は軍國に於ても決して閑却さるべきものではない。其故は戦地に於て勇猛果敢な軍隊は大いに甘味を必要とする事實は新聞にも散見するが我社に殺到する是等勇士の來簡にても明かである。戦地の兒童に勇士達が菓子を與へつゝある風景は何よりも有効なる宣撫班の様に見える。我社は先に函館製菓工場を合併し奉天製菓工場次で戸畑製菓工場を新設したが其後孰れも建物機械の増設を爲し尙増設を必要とする事情に在る。川崎工場は昨年來更に一棟の増設工事に従事してをる。

罐詰

罐詰類は其の味に於て又榮養價に就て一部論者の意見はあるが食物のプリザーブ即ち貯藏保存は種々なる方法に依て行はねばならぬ。冷凍したり乾燥したり或は藥品を加入したりして食物の貯藏に關しては凡ゆる苦心が拂はれてをる。罐詰もその一つである。自然の風味は多少損する事あつても亦一種特別の風味を新生する事もあつて人によつては却つて之を好む人もある。榮養價に關しては何でも生でなければならぬ、肴は刺身で野菜は畑から取立てといった具合に理想論を振廻はす人があるが、原始時代なら兎も角今日となつては之は一部の人には出來ても民衆に普遍

的のものではない。物資は貯藏を要する。否らざれば需要に應じて配給は出來ぬ。食物も同様である。貯藏なくては饑餓に瀕するばかりである。殊に遠方に輸送する場合に於ては猶更の事である。戦時に於ける消費に對しては生産の擴充が必要であるばかりではなく豫てより物資の大貯藏が必要である事は申すまでもない。斯様な意味に於て我社は果物及蔬菜罐詰業にも従事し、北海道に於ては札幌所在の製乳工場内に之が施設を爲し帶廣の農産加工會社を買收し、岩内の日本アスパラガス會社に投資した。内地に於ては先に三菱食品會社に投資した外、山形縣上ノ山、千葉縣勝山、靜岡縣藤枝、岡山縣笠岡工場内に之が施設を爲し、又先に京都府八木所在の罐詰工場を買收したる外、愛媛縣三津濱に罐詰工場を新設し又同縣吉田産業會社に投資した。廣島縣五日市にも同工場新設の爲め土地を買收した。以上の製品は國內の需要に應じて國民の榮養に資するは勿論又海外に輸出して聊か貿易の均衡にも貢獻せんが爲め増産と改善とを企劃してをるのである。斯くて食品文化は國民の保健哺育となり、輸出の増進となり、國産の發揚となり、其の結果は農村の振興ともなるのである。於是乎我社の一同が使命の重且大なるに感激し、發奮し、至誠奉仕して日も是足らざるの觀あるは當然である。(昭和十三年三月)

美の追求

一四四

これは自然界の現象でもある。日月星辰、山川草木、禽獸魚介に至るまでもが、孰れも美装して是れ日も足らざる有様でないものはない。朝暾の輝き、碧落の星のまたき、山紫水明、春花秋月、蝶舞ひ鳥唄ひ、或は鳶飛んで天に戻り、魚淵に躍る。森羅萬象凡て是れ美の競争である。

然らば美の反対である所の醜なるものは之を何と見るやの反問に接することあらんか、それは自然界の正面でなくして其の反面である、實相ではなくして陰翳である。目的ではなくして道程である。枯葉は落ち、雜草は除かれ、何とか彼とくして醜は之を美化せんとする事が自然である。

自然に順ふものは榮え、之に逆ふもの否らざるは當然である。故に人間界の使命にしても美の追求に従事するものは自然に従ふものであつて逆行するものではない。我社の使命は製菓事業である。申すまでもなくお菓子は其の形體や色彩や、風味や將又芳香の上からも、美の最高峰を辿つてをると謂ふべきであらう。如何に之を見事に造り上げ、又如何に之を綺麗に且つ衛生的に取扱ふべきかは吾々の常住不斷の使命ではある。朝日に匂ふ山櫻花に譬ふべき我大和民族の精華

は、百鍊の銘刀となつて、古來光芒陸離たるものがある。世界を風靡すべき優越せるお菓子の我國に於て發展せざる筈はなかるべしとの自信を抱懷して我等は製造にも配給にも大童である。

我航研機がその飛行距離に於ても、その速力に於ても世界の記録を破つたのは、時を同うして一舉直ちに徐州を攻略した大捷報と共に最近の痛快事ではある。銘刀が世に出るまでの間、如何に名工が齋戒沐浴して眞劍精進の功を積んだかは人口に膾炙する所である。航研機が今日の成功を博したのも、昭和八年以來既往六年に亘りて帝國大學、陸海軍及事業界の權威者が協力して延人員約六萬人、七十餘萬圓の經費を投じ、血のにじむやうな研究努力を集注した結果であるといふ。我社は砂糖、菓子、乳製品、果實蔬菜罐詰等凡ゆる食品に向つて犠牲獻身的に改良進歩の實を擧げ又創意を發揮して製品の品格を向上せしめんがため各擔當部門に於て夫々苦心を重ねてをるは勿論であるが、特に川崎工場敷地内に研究所を設け、試験工場をも附屬せしめ、此處に幾十名の眞理探求の熱烈なる意慾に燃ゆる學徒を集め、すでに學位を獲たるもの數名、鈴木梅太郎博士初め斯界の權威者を顧問として日夜研鑽に餘念がないのであるが、研究所開設以來既に二十年餘を閲し、その間幾多の製造上の指針を示し、改良進歩の實を擧げたるもの枚舉に遑あらず、將來更に世界的存在として誇るに足るべき業績を目標として所員一致協力研磨精進を續けてゐる。

一四五

今回の支那事變に於て我皇軍の勇猛果敢な戦績は世界の驚嘆に値するもの多々あるが、就中海軍飛行隊の行動は、機そのもの、性能の優秀なるは勿論その操縦者の勇烈無比なる、熟練機敏遂に全く敵機をして屏息せしむるに至りたる如き、内外何人と雖も驚きの眼を瞠らざる者なき程であらう。天長節の日、漢口に於ける敵機五十一機の撃墜の如き快報は、國民をして感謝と信頼と歡喜の怒濤に捲き込んでしまつたではないか。しかもこの華々しき輝かしき戦捷の蔭に整備員の勞苦を忘れてはならない。飛行機には整備といふことが必要である。整備に従事する兵員は、自分の擔當した機が萬一何處かに缺陷があつて、晴れの空中戦にひけをとるやうなことがあつては一代の恥辱たるは愚か、皇軍に大損害を與ふる次第となるのであるから不眠不休の遺漏なき整備に従事し、上官が整備員の健康を心痛して交々引止めても猶容易に休養を肯んぜず、一度その機が飛び立つやそれが歸還するまでは空を見つめて矢張りまんじりともせず待ち續けてをるといふ話を聞かされて、吾々是如何に前線の勇士と後方のそれとが渾然一體となつて協力動作しつあるかに感激を新にした。この華々しき空中戦に於て當然の榮冠を飾れる颯爽たる銀翼の輝きは實に近代の美觀ではあるが、それがまた前線と後方との協力一致の結晶であるを思へば、眞に人の和を得たるその事が後の世までの美談ではあるまいか。我社の後方に在つて研究に没頭し製造

に精進するものも、前線に立つて販賣に活躍するものも、かゝる麗はしき協力を不斷に追求して是れ日も足らぬのである。

吾々は何たる幸ぞ、美の最上標準たるべきお菓子を製造し、之を美裝して更に店頭に百花爛漫街頭の花園の如くに陳列し、老若男女大方大衆の顧客の求めに應ぜんがためにはそのサービスさへも美化せんと努力してをるのである。美化は即ち合理化である。合理的でない美化は眞の美化ではない、素より至善でもない。塵芥を集めるやうな仕事も亦間接には廻り廻つて美化事業たるには相違あるまいが、吾々は幸にして合理的でしかも食卓上に美花を飾るが如き綺麗な目標を直接にもつ役目に従事してをるのである。是に於てか常住感謝の念を捧げ、覺えず識らず勇躍邁進せずにはをられぬ有様である。大方の更に一層の御後援を望む次第である。(昭和十三年六月)

大 明 治 の 第 一 線

第一線といへば今や支那の武漢三鎮目がけて長江及びその兩岸を溯つて奮戦を続けつゝある陸海軍、並に殲滅的爆撃を繰返しつゝある空軍の如き、現在日支事變の最前線であることは申すまでもないが、現代の戦争は所謂國力戦であつて、第二線、第三線即ち單に兵力丈けでなく、銃後の力も經濟戦も必要である事は勿論である。併し何と云つても第一線には最も肝要な力であるには相違ない。先頃張鼓峰事件の如き、此處の第一線に於ける日本兵の勇猛果敢なる、軍紀の嚴肅なる、その結果遂に國交上の大勝利となり、大事に至らずして事件を終了せしめて列國の賞讃を博した次第である。故に第一線が如何に國力を反影するものか分るではないか。大明治全體の名聲は第一線にある従業員の行動に影響する處大なるものある事は、一國と其の前線との關係と同然である。従つて前線に在る賣店従業員の責任は大明治にとつて重且つ大なりと謂はねばならぬ。その爲には日夜種々に訓練を重ね、立働きの言葉遣ひ、態度等を出来る丈綺麗にして、些かにても無作法のないやうに心掛け、お客様の好感を得て可成多くの慰安を供する事を注意してをる。

大明治とは決して威張つた意味の大明治ではなくて、砂糖、菓子、乳製品、果實罐詰等の製造、販賣、若しくは之に緣故のある事業に従事してをる十二、三の姉妹會社を總稱する意味の大明治であつて、オール明治即ち總明治の意味である。其の大明治の資本金は一億圓に垂んとし、従業員は一萬一千人、製造高は最近一年間に於て一億二千萬圓に達してをる。明治商店の賣上げ高は一億圓を越ゆるに至つた。かうした背景を有する最前線が明治製菓賣店である。

大明治は明治商店なるものを其の販賣機關として、大明治にて製造する一切の商品の配給に當らしめてをる。明治商店は支店、出張店、販賣所、配給所、賣店等百二十五の店舗を設けて販賣や配給に従事してをる。孰れも大明治の前線には相違ないが、支店出張店は代理店格にして、販賣所配給所は卸店格であり、賣店は明治製菓賣店と稱して小賣店格で最前線である。即ち賣店は見方に依て第一線にして、販賣所配給所は第二線、支店出張店は第三線と稱すべきであらうか。

明治製菓賣店は最近一年間に於て千二百萬人の御客を迎へてをる。又賣店に這入つて來られぬでも賣店の店頭を通り過ぎて是は綺麗であるとか或は感じが好いとか、關心を有つて下さる男女老幼の方々は、一年間幾千萬に達するか分らぬ。斯うして多數の御客に應對して其の好感を得るには、それ相當の頭腦を働かせ又機轉も利かなくてはならぬ。

今度の日支事變に於て、日本は何の爲に戦つてをるか、それは申すまでもなく、東洋平和の爲め八紘一字の精神を以て戦つてをるのである。大義名分は炳然として日月の如くに輝いてをる。かうして凡て何事でも名分が正しくなければ、一體何をしてをるのか筋が立たぬやうになるのであるが、我々明治製菓賣店の使命は何時も申す如く、國民の榮養、第二國民の哺育、家庭の延長國産の發揚、農村振興等極めてハッキリとした、名分の正しい立派なものである。所謂働き甲斐があるといふものである。そこで従業員はみんな張切つて働いてをる筈と思ふ。明治製菓賣店は又従業員が一生を渡る上に於て、決して反對の方角に向つたものではなく、所謂人間生活の線に沿ふた仕事をする處であり、修業上の道場でもある。蘇聯國境の第一線に在る我軍が、勇猛果敢にして而かも軍紀嚴肅であつたと世界の賞讃を博したと同様、我等の第一線たる賣店も機轉がきくと同時に、店員としての人柄も立派であつて、一層世間の賞讃を博する様期待する次第である。斯様な心掛けを以て賣店の經營に従事致してをる。就ては大方の御客様に於かれても何卒御同情を以て何かと御指導を賜はらん事を偏に願ひ奉る。(昭和十三年九月)



奈治明倉録

鎌倉行

今度の様な一大非常事變が、今より六百六十年の昔、疾風迅雷的に猛然として、我國に覆ひかぶさつて來た。それは曰はでもしるき弘安四年の蒙古襲來である。素より其の規模に於ては、今度の事變の如き大範圍のものでなかつた事は勿論であるが、當時の我國力に鑑みれば、實に我國として、今回の事變以上の重大危機に直面せしめたと謂ふべきではあるまいか。

而かも今度の、事變は攻戰であるが、當時は既に我が西陲を侵された守戰でもあつて、攻防自ら其の形勢を異にしたのであつた。

蒙古襲來の報電撃の如く傳はるや、朝野國を擧げての驚きは如何ばかりであつたか、今も想像するだに餘りある。

畏れ多くも、龜山上皇には玉體を以て國難に代らんと、御祈願あらせられ、時の執權北條時宗は、決然たる勇猛心を以て、大敵討伐の任に當つた。而して當時の霸府は、鎌倉にあつたのである。

時宗をして蹶起せしめたものは、僧祖元の莫妄想の一喝であつた。又日蓮の敵國降伏の祈願も如何に國民をして奮起せしめたことか、而して何れも鎌倉に雄大なる足跡を残した國師達ではある。斯くして鎌倉は現下の國難に處して何となく人の心を引つけずには置かぬやうな感がある。今度の日支事變には、大明治の各社からも多數の將兵が出征してをる。又我々の親戚知人からも、それ〴〵應召してをる。神國の爲に一身を捧げて、戰場に馳驅しつゝある將兵達の武運長久は、人間の力では如何ともすることが出来ぬ。唯止むに止まれぬ心持で、神佛に祈願する外はない。昔時蒙古の大船巨舶を一夜にして全滅せしめた神風の如き天祐は、今度の事變でも到る處で顯現されてをる様であるとの咄を聞く。

無論人間は、科學や哲學の力を盡して、神秘の扉を辛うじて一枚一枚と開けつゝあるには相違ないが、神秘の扉の數は一體、幾千萬億兆ある事か、それさへ不明である。既往幾千年の間、未だ開かずの扉の數が不明であつた様に、將來それは何處まで行つても、奥には奥があつて矢張不明であらう。

國運を賭けての一大事變には、前線の將兵も、銃後の國民も、ひたむきに人力を盡して天命を待つの外はない。各自が其の持場々々に忠實に懸命に働いた以上の事は、只もう敬虔な心持を以

て、天神地祇に祈る様になるのは寧ろ自然ではあるまいか。

去る十月九日の日曜日、小生は鎌倉行を思ひ立つた。此の日は家内も其の母も誘ふた。何れも其の弟や子息を事變に際して皇國に捧げてをるので、喜んで同伴したのである。

鎌倉に来て、先づ鶴岡八幡宮に參詣して出征將士の武運長久を祈つた。夥しい參詣人である。我々と同感の人達でもあらう。幾中隊かの海兵等も整列して、有名なる公孫樹の木蔭で神官の講話を熱心に聽いてをられた。秋の陽光に映えた老松古杉は境内に鬱然蒼然として森嚴の趣を添へ、歴史的の殿宇が其の間に神寂びて、石段の中途から前後左右を眺むれば、宛然繪卷物の様な軍國風景である。數名の外人達も恍惚として見とれてをつた。

驛前の明治製菓賣店に小憩して、牛乳や茶菓を採つた。店も見違へる程の盛況を呈して、中庭も二階も使用するやうになつた。數多軍國の家族達の御參詣の折の便宜にも役立つてをることを思ふとき、何となく我々までも満足慰安の感を深くした。

八幡宮から眞南に一直線、由比ヶ濱に出る若宮小路の國寶一の鳥居の近くに、明治寮なるものがある。瀟洒たる門燈によつて其の所在は直ぐに判る。亭々たる松の木立の間に圍まれ、前庭の方だけが海に開いてをる。門を入れば砂地が綺麗に掃かれてあり、歩むにつれてさゝやかな音と

共に、靴の痕が鮮かに残るのである。寮に沿ふて玄關までの植木は、塵一つだになく、縁にも燦々たる秋の陽が映えてをる。空気が澄んで紫外線が直射するためでもあらうか、何となくオンとかイオンとか、豊富な感じもした。庭前の數百坪は芝生になつてをる。

寮は百十餘坪の洋風家屋である。衛生設備も整ふてをる。一階は主として社内向で洋式寢室三室、團欒室、サンルーム、パーゴラ等あり、二階は疊敷の和室で三室あり、何れも十數人は休憩出来る。全部を開放すれば數十人のお客様には差支へない。

寮を出て、鎌倉特有の馬車に乗つて、長谷觀音より大佛、それより龍の口まで詣で、尙も何かと此際の祈願をこめて、歸途再び明治製菓賣店に立寄り、電車の時刻を待合せて歸途に就いた。

往昔の國難は、神威稜威の加護と國民一致の協力とにより、之を撃ち掃ふことが出来た。今度の事變も亦斯くの如くにして克服し得ることは疑のない所である。當時の藩府の地録倉の潮騒と松籟とは昔と今との何ものかを我等に語るが如く、蕭々として寄せては返へし、颯々として吹き來り吹き去り、猶何時までも耳底に残る如き心地がする。(昭和十三年十一月)

輸出の増進

國民の榮養哺育、國産の發揚、農村の振興、輸出の増進を四大目標として、我が大明治の各社が轡を連ねて大行進をなしつゝあることは、既に年久しくして又度々申述べた通りでもあるが、今や非常事變に際し、國策の線に沿ふて一層輸出の増進に力を入れてをることは、我々として自ら顧みて聊か本懐とする次第である。

申す迄もなく、戦時下の輸出貿易は、國際貸借の均衡上鑛山から金を掘り出すと同様の關係となり、孰れも軍備を支辨して皇軍後顧の懸念を軽減する譯で、我社の輸出部門に於ても、あらゆる方策を以て其の發展伸長を期せねばならぬところである。

砂糖や育児用乳製品の輸出は、之を餘りに強行するときは、國內需要に關し彼此差支へを生じ又圓ブロック内の滿支に輸出する場合は左程國策に沿ふ所以ともならぬので、我社は成るべく菓子や一般乳製品や農産加工品を圓ブロック外の第三國、主として南洋方面に輸出する方法を講じてをる。是等の製品は大抵砂糖を使用してをるから、即ち砂糖は是等の製品を通じて間接に輸出

する結果となる。

我社は現在製菓工場四個所、製乳工場十八個所、農産加工場八個所を有し昨年は事變の影響のためか、国内の需要増加して生産之に伴はず輸出は却つて半減したが一昨年中の所謂第三國への輸出は菓子六十萬圓、乳製品百萬圓、農産加工品四十萬圓、合計二百萬圓であつた。尤も之には水産、農産、畜産品の罐詰等を總括したものはある。罐詰類は貿易統計に於て生糸綿糸布の次位にある輸出の大宗品である、之を我國同種製品の第三國への輸出總額に比すれば、菓子は五割乳製品は七割となり、農産加工品は一昨年迄は猶不振であつたが我等は現狀に満足せず、更に躍進を志し、輸出生産力擴充のため専門の製菓輸出工場を増設し各品を合して五百萬圓の輸出を企圖してをる。

砂糖も菓子も乳製品も農産加工品も、之を製造するに當つて外國より原料を仰ぐものは、只チヨコレートの原料たるカカオビーンだけである。是も我社は多年蘭領スマトラに栽培して數年前より輸入自給をしてをる。自分の物を輸入するのであるから別に資金を外に持出す面倒はない。尙近來臺灣と裏南洋にも各々一千町歩の大地を拂下げて栽培を開始したから、數年後には一部若しくは大部分の自給が出来ることであらう。輸出のチヨコレートを製造するカカオビーンは之を

輸入するに於て別に統制上の束縛を受けない。各品とも賦力等包装材料の不自由はあるが輸出向に於ては格別の支障はない。

前掲各製品の原料たる甘蔗や甜菜にしても、牛乳にしても、其の他の農産物にしても、悉くが勿論國産品である農家の生産物である。我社は之を奨励し指導し助成し収集し製造して産出するのであるから其の製品とても素より純然たる國産品である。純然たる國産品を輸出するときは其の後方に在つて之に携はる人數は相當多數となり、それからそれへと動員するのであるから取りわけ農村の振興上貢獻することは多大である。

農産加工品の主たるものは何と云ふても果實蔬菜の罐詰である。中でも蜜柑の罐詰は、今年は我國より英國邊に對し少くとも百萬箱の輸出は間違はなからう。我社はその二割位を占むることになるであらうが、一箱は十一オンス罐四十八個入れで邦船積倫敦沖渡値段八圓五十錢位であるから、我國蜜柑罐詰の輸出だけでも年額八百五十萬圓に達する譯である。蜜柑の外果物の罐詰には桃、櫻桃、洋梨、枇杷、林檎等がある。將來此等果樹の栽培と改良とが發達するならば製造も輸出も従つて増進することになるであらう。而して其の栽培と改良とは年次發展の見込は充分にある。

我社は昨年大連に於て數百町歩に互る林檎の果樹園を手に入れたが、將來乾燥林檎として英國邊に輸出する見込である。又近來米國邊では果汁の榮養價值が豊富なるが故に、其の消費が頗に旺盛である。我社は林檎、葡萄及びパイナップルの果汁を壘裝して供給してをるが、之等は正に時代の要求に適應したものと謂ふべきであらう。

蔬菜罐詰はトマト、アスパラガスが主たるものであらう。外に筍、松茸、グリーンピース等がある。アスパラガスは我々が十數年前より北海道に於て之が栽培に着手した。段々栽培面積も擴がつて行きつゝある。アスパラガスの生産は米國が世界中の大部分を占めて居る。米國から英國邊への輸出高は年額六百萬圓にも達してゐる。然るに米國に於てはアスパラガス畑十萬英反の栽培に従事してをる者は、豈圖らんや、大部分が日本人である。然るときは、日本人が世界中のアスパラガスを取扱つてをると謂ふても過言ではあるまい。我々が北海道に栽培を開始したとき、加州邊の日本人中には多年の經驗があるから日本で大々的に造るなら歸朝して従事したいと曰ふて寄越した者もあつた。身體の折りがみが自由であつて手先の器用な日本人の農業としては將來益々發展すべき可能性が充分にある。第三國に對する販路も此の商品なら何の心配もない。輸出を増進するには第一には生産の擴充であるが、第二としては輸出機構の整備である。歐

米市場に輸出する場合には、先方に夫々完備したる取引先があり、又商品も單純なもの、みを取扱ふのであるが、南洋邊には未だそれだけの取引先がない許りか商品も雜多にして種々苦心宣傳して販路の開拓を要する状態であるから自然取引先のみに一任して安心の出來ない地方もある。依つて我社はスラバヤ、カルカッタ、ボンベイ、ラングーンに各々駐在員を派して取引先を聲援し、マニラには直接販賣店を設けて、取引先と共に販路の擴張を圖つてをる。言語風習に慣れざる外國に於て、新に販路を開拓することは容易の業ではない。従つて失費も多くなる次第であるが之は何と言つても今からやつて置かねばならぬ仕事である。

今や事變第三年を迎へ、勇猛果敢なる皇軍は支那大陸の要地を席捲し終つたが、國際關係の險惡なること實に一日の偷安も許されぬ情態である。或は對日經濟封鎖を叫ぶ者あり、或は輸出品に對する不當壓迫、南洋華僑の排日貨運動等今後も執拗に繰返されるであらう。勿論我等は輸出に於て如何なる困難障害をも猛然突破して行かねばならぬ。而して世界貿易戰に於ける邦品唯一の武器は實に良質廉價にあることは蓋し贅言を要せぬところである。

我社は生産の擴充にも販路の開拓にも懸命の努力は惜しまないが、只原材料の物價が高くなつては原價高の結果輸出が出來なくなる。貨銀とても亦同様である。従つて原材料の物價抑制は喫

緊の事に屬するのである。今や軍需關係の所謂殷賑工場なるもの等あつて世間羨望の的ともなつてをるやうであるが、我々は此際餘りに他を顧みて徒らに低迷すべきではないと思ふ。恰も皇軍が其の向ふ所の戦場の難易に辟易せずして猛進するが如く自分の立場に専念して自肅自戒、社内を擧げて冗費を節し極力生産費を引下げ、販路を擴大し、我社の製品が外國市場に雄飛し明治のマークが南洋の天地に輝きわたる日を想見しつゝ、日夜銃後國策の大綱たる輸出の増進に渾身の力を振ふてをる次第である。(昭和十四年十二月)

至 誠 奉 仕

明治コンツェルン即ち大明治の傘下に包擁された諸事業は、明治製糖、明治製菓の如き製造會社や明治商店の如き販賣會社等夫々事業の形態は異つても、之を運営し之に従事する者は悉く眞劍であり眞面目であらねばならない。各社活動のモットーは至誠奉仕の二字に盡きると謂へる。

眞劍で眞面目な氣分は凡そ何事にも必要であるが、眞劍で眞面目でなければ第一に社會の信用を失墜し、第二に之に従事する者も仕事に興味を覺えず、何の面白味もなく唯詰らないと云ふこととなるのである。スポーツと雖も之を眞劍にやらねば何の興味も湧くものではない。

世の中の事は概して波瀾重疊たる俗事の連続であつて決して海路の日和と云ふ如き平穩な時許りではない。我等は樂亦其の中に在りと云ふ氣持を以て事に従ひ、其の煩雜な雜事の中に興味を見出すことを常に念願とすべきである。古語に民信無くんば立たずとあるが、蓋し信用は事業の據つて以て立つ基礎であらう。

砂糖は原料品であり又調味料であるから左程廣告の必要はないが、菓子、乳製品、食料罐詰等

は銘柄品であるから或は明治製菓と社名を翳し、或はパトローゲンと品名を標榜して宣傳廣告し以て世間の認識を深めねばならない。然るに若し實物が劣等で廣告に反する如き事あらば如何。其の曉は、品物の信用を破るばかりでなく、會社の信用を失墜するに至るは火を賭るよりも明かであらう。世間は誤魔化しでは通り得るものではない。假令一時は誤魔化し得ても、附焼又は結局剥げるものであることを思はねばならぬ。砂糖、菓子、乳製品をはじめ、明治の製品が若し誤魔化しものであつたなら、今日の如き信用は到底夢想だに出来ぬところであらう。

製糖、製菓の如き製造會社も技術のみが全部ではない。原料の蒐集は重要な部門をなしてをる。原料も多々あるが就中甘蔗、牛乳、果實、蔬菜等々農産物は之を農家から集めるのである。

然るに若し農家の信用を失ふことあらば如何。唯に原料蒐集に困難を嘗むるのみならず、農家の數は地方により或は數千或は數萬にも達しをる實情であり、彼等と深き關聯を有つ地方官廳は勿論地方人心の凡てを失ふことゝなるであらう。明治は農家より深く信頼せられ、又其の事が地方官民の一般に波及し、原料を確保する上に於て、事業の基礎は大いに安定してゐる次第である。

以上述ぶるが如く、明治發展の基礎は所謂至誠奉仕の賜である。御客に對しても、農家に對しても、官廳や會社全般に對しても、正直に奉仕して少しも誤魔化さない。其の態度は眞面目に

して輕薄でないことを我等は常に心掛け實行してゐる次第である。明治の社風とするところは質實剛健であるが、内が質素であり、實直であり、剛健な意思を持してをれば、外自ら至誠奉仕となつて現はれる譯であると思ふてをる。

又我等が職務遂行上尙ふべき創意は、至誠奉仕の副産物であると申してよからう。日に新に、日に日に新たなる構想といふものは、實に熱誠以て事に當るに非ずんば生れてくるものではないと思ふ。

至誠奉仕は斯くの如く明治の信條であるが然も我等は文化に於て此精神を廣く東亞の天地にまで擴充すべき必要を痛感せざるを得ぬ。支那の大學の本には、意を誠にして、心を正しく身を修め家を齊へ國を治め天下を平にすると述べ、天下國家の事も亦誠意が本となると説いてをる。

日支事變の因由を顧みるに、蔣政權の我國に對する態度は、隣邦誠意の片鱗だに認められず、敵意に充滿し、排日、抗日、侮日に狂奔せる結果、遂に此の大事變を惹き起して仕舞つたのである。

我國は御稜威の下、忠勇義烈至誠報國の將兵の奮戦により、連戦連勝今や膺懲の師も、長期建設の新段階に入つたのであるが、所謂宣撫工作に當つては八紘一字の大精神に立脚し、隣邦相扶

誠意を以て支那四億の民衆に臨み、相共に直に東洋平和百年の大計を樹てねばならぬ。事變收拾の目的は一時の平和であつてはならぬ。日支兩國の久遠の平和を齎らさねばならぬと信ずる。それには何事にも至誠一貫と云ふことが必要であるまいか。

遮莫、我等の大明治諸事業は砂糖も菓子も乳製品も食品罐詰も何れも人生の必需品でないものはない許りか、調味の上に於て、榮養哺育の點に於て、國産の發揚農村の振興輸出の増進に於て文化と國策の線に沿ふた大事業である。既に源泉あり之より滾々として流れて止まぬ様な事業である。幾十年の歴史あり駸々乎として發展し來つた事業ではある。一夜大雨降つて地上に溢れた水溜りの如き、俄作りの事業とは譯が違ふのである。當今股賑産業と稱せらるゝものゝ中には急に水嵩の増したやうな事業も見受けられぬでもない。我等は之等に惑はさるゝこと無く、我等の使命を信じ且つ之を楽しみ、至誠奉仕を以て之を完成し、聊か國恩に報ずる所あらんと期して居る次第である。(昭和十四年四月)

食 品 の 輸 出

日本は土地が狭くて人間が多く、一時は人口と食糧問題が喧ましく論議された時代もあつて、食品を輸出すると云ふ事などは夢想だもされなかつたものである。従つて我々が十四年前初めて社員を新嘉坡に派して乳製品の輸出を企てた時の如き、所謂食物の輸出は以ての外であるとして、種々有力なる方面より反對を受けたこともあつた。又我等が畜産業に乗出した時には、人間の食物でさへも少ない我國に於ては、牛まで飼つて行けるものでないと強硬に反對した者もあつた。之に對して我等は、例へば豆糟の如き、之を直に肥料とするよりは、一旦牛の飼料とし、厩肥を得て之を肥料とすれば、乳、肉、皮革を餘分に獲るだけでも得である。即ち牛群は多數の生きた工場群であると考へて差支へない筈であると應酬したのであつた。

先頃、藤原銀次郎氏は、水産農産及び畜産加工品等の如きも國民の消費を節約しても、之を外貨獲得の意味を以て海外輸出の増進に振り向けねばならぬと提案された。外貨獲得の意味だけに於ては流石に卓見として推服する次第である。

何となれば之等の商品は其の原料を少しも外國に仰がざる純然たる國産品であるからである。折角輸出しても其の價額より輸入原料の價額を差引計算を要する商品とは譯が違ふのである。百萬圓輸出すれば百萬圓、千萬圓ならば千萬圓の外貨を、そつくり其の儘獲得するので、假令其の金額は巨額に達せぬ様に見えても、少しも餘計の風袋が無いから、恰かも鑛山から金を掘出したと同様の結果となるのであつて、之が輸出を増進すべしとなすは、蓋し時務を識る者の言と謂ふべしである。

故に我等は自己の使命として斯の種の輸出を増進すべきを思ひ、多大の犠牲を拂ひ種々努力することに於て敢て人後に落ちぬ覺悟であるが、之が爲には國內需要に對する供給を幾分削減しても輸出に振向けねばならぬ。之は得意先や消費者に對して誠に相濟まぬ氣持であるが、現下の非常時局に際して萬已むを得ざる次第と思つてをる。

然し茲に考ふべき重要問題がある。それは我等の使命たる國民の榮養哺育、換言すれば國民體位向上の問題である。

國民體位の向上は非常時局なるが故に一層其の意義の重大なるを覺ゆる次第である。畏くも皇后陛下には結核防止に御心を垂れさせ給ひ、朝野恐懼感激、有難き思召を拜し奉つた次第であ

る。

榮養哺育の最適品としての牛乳については、世界各國の權威が夙に其の効果を唱導して餘すところがない。我國に於ても醫家は勿論輒近一般に認識を深め、當局指導の下に學童に牛乳を飲ませる會等が組織せられて來た。

然るに我國の牛乳の消費量は歐米のそれに比して餘りに少ない。實に百分の一しかない程度である。即ち歐米人の一年一人一石五斗の消費に對して、我國民のそれは僅に一升五合に過ぎぬ。大戰當時米國が壯丁を歐洲に送り出す際、其の體格を検査したところ牛乳消費量に比例して彼等の體格に甲乙の差を生ずるとの統計を得て、爾來各大學に於て研究調査の結果、國民に「もつと牛乳を飲め！」 Drink Milk More ! と宣傳しつゝあることは人の善く知るところである。

我國民ももつと牛乳を飲まねばならぬ。榮養を攝つて體位を向上し、結核を防止せねばならぬのである。牛乳消費量の少い我國は文明國中肺結核が比較的多いのである。

然るに前述の如く乳製品輸出を増進せんが爲、折角興らんとする國內需要に對し供給を削減せねばならぬことは、我等として誠に忍び難いところである。

此の二大問題を解決すべき途は唯一つ、云ふ迄もなく増産であり、生産力の擴充でなければな

らぬ。而も急速に實現することを要する。

茲に到つて實に待遠しきは此等農畜産物の増産が急速に實現せざることである。

先づ乳製品の給源たる乳牛の繁殖率は、人間と同様一年一頭であつて、其中牝は肉となるも乳の給源とはならず、結局牛乳の給源としては二年に一頭の牝を得るに過ぎず、如何にも牛歩遅遅たる感を抱かすには居られぬのである。

又蜜柑、アスパラガスの加工品も、其の給源を増加するには、之等の栽培面積を増加すべきであつて之が奨励には鋭意努力して居るが何れも數年の年月を藉さざれば、收穫を見るに至らず、之亦春日遅々たる感がある。

今我社の乳製品、果實蔬菜の罐詰及び乾燥物製造の給源を概観すれば次の如くである。

先づ乳製品の給源としては、樺太北海道全土は勿論内地に於ては、岩手、山形、長野、栃木、千葉、東京、神奈川、静岡、新潟、石川、大阪、兵庫、岡山、廣島、山口等の十數縣に互り、大連及滿洲は各地に我社の工場散在して總じて我國乳製品の七割を産出してをる。

尙我社の經營に係る七百町歩の神津牧場、五百町歩の札幌農場、千七百町歩の根室牧場は何れも數十年の歴史を有する東洋に於ける大牧場である。其の他三宅島、大連、奉天等に於て何れも

數百町歩の牧場を經營し、外に十數の專屬牧場もあり、以上の牧場に歐米先進國より購入せる優秀乳牛を配し、現在乳牛四千餘頭を擁し、益々増殖に努めてをる。

又我社の果樹園は大連に數十町歩餘を有するに過ぎざるも、果實蔬菜の罐詰工場は北海道は帯廣、札幌、伊達各工場より内地は山形、千葉、静岡、京都、岡山、廣島、愛媛の各縣下に工場を有し果實蔬菜を収集し且つ之が増産を奨励して居る。

斯くて今年度我社の金ブロックに屬する豫想輸出額は、各種乳製品二百萬圓、蜜柑罐詰百五十萬圓、アスパラガス罐詰二十萬圓、其の他各種農産加工品五十萬圓である。

此の振古未曾有の事變に際し、我等は國策の線に沿ひ、食物の輸出を増進し、而も一方に於ては國民の榮養哺育體位の向上に貢獻せんと只管其の増産に心を砕いてをる。其の増産は前述の如く如何にも遅々たる憾はあるも、急がば廻はれの諺の如く農民も役人も製造業者も朝野協力一致各々其の持場々々に全力を盡せば、他日の實現期して俟つべきであると信ずる。

要するに戦時下食物の輸出は之を増進せざるべからず、同時に結核防止國民の體位を向上せしむべき凡ゆる方法は之を講ぜざるべからず、而して牛乳は孰れにしても是等目的に沿ふところの重要品目の一つであると思ふのである。我等は先づ牛歩を急テンポに驅つて乳牛の増殖に努めて

を。些か所見を陳べて大方の一層の御協力を願ふ所以である。(昭和十四年六月)

明治製菓賣店の使命

今日の事變に際して、前線に於ける將兵の勞苦は、識に察するに餘りありますが、銃後に於ける我々も、その勞苦を偲び、各々の立場々々に於て、大いに緊張した心持を以て、職務に精勵せねばならぬ事は勿論のことであります。

茲に謹で 明治天皇の御製を奉誌いたします。

國を思ふ道に二つはなかりけり

軍の場に立つも立たぬも

然らば我々の立場に於て、従事してをる仕事は何であるか、と顧みれば、一口に申せば榮養報國であります。更に之を敷衍すれば、國民の保健、第二國民の哺育、國産の發揚、農村の振興等等であります。

今や我國當面の國策として、第三國の金を獲得するため輸出の必要がありますので、その國策に沿って、我明治製菓も、乳製品を初め菓子、罐詰品等を、外國に向ひ輸出しつゝあることは、

疾くに御承知のところでありませう。之が即ち輸出の増進、國産の發揚ともなるのであります。

右の結果として、我々の立場に於ける國民の保健、哺育のことは、或は等閑に附せられるのではないか、との疑問も自然起つて來る譯であります。それは多少の影響がないとは申されません。そこで成るべく之が影響の少なからんことを希望して、折角日夜營々として努力してをる次第であります。

明治製菓賣店は將來金ブロック國へも發展の計畫を有してをりますが、現在では我國內及び圓ブロック諸國へ明治の製品を普及供給する店であります。而してそれは國民の保健哺育の機關の一でもあり、又家庭の延長でもあり、街頭の慰安所でもあるのであります。我々は精々勉強して之等の使命を果さねばならぬと思つてをります。

ヒットラーは獨逸の職業婦人に向つて、成るべく家庭に歸れ、と勧めたさうであります。之は獨逸の社會情勢にも關係がありませうが、又婦人の仕事は國家として、又家庭としての後方勤務がより肝要であるから、との意味でありませう。然るに職業婦人と申しましても、その職業の種類が問題であります。他の不適當な仕事は今は申しませんが、綺麗な御菓子の如き文化食物を取扱ふ様な職業は、婦人にふさはしきものと思ひます。殊に明治製菓賣店の如きは、家

族同伴で氣輕に出入せられる店、即ち家庭の延長であり、又女店員に對しては或は卑からざる言語作法を躰け、或は茶の湯、生花、裁縫を教へ、或は名士の訓話を聞かせ、常に婦徳を涵養せしめてをりますから、他日家庭の主婦となつても、立派に役立つこと、思ひます。故に今茲にヒットラーあらしめても、明治製菓賣店の女店員に對しては、家に歸れ、とは申さぬと思ひます。

賣店で働く上に於て、守るべき心得は、清潔第一を旨とし、親切にして又機轉のきくこと等であります。清潔第一とは形の上に於てのみ申すではありません。有形無形總てに於て要求されるのであります。而して之等のことは至誠奉仕の精神によつてのみ實行出来るものと思ひます。至誠であれば誤魔化しがなく、凡ての點に於て眞面目で、清潔も、親切も、機轉も之に従つて自ら發動せざるを得ぬのであります。

人間は常に向上進歩を求めねばなりません。その反對は退歩と墮落であります。至誠奉仕、更にくだいて言へば清潔第一、親切にして又機轉のきくこと等は向上進歩の途であります。向上進歩と退歩墮落の二筋道は人生の行く手に大變な相違となつて現はれるのであります。而してこの二た道の岐路は至誠奉仕の精神が有るか無いかの點にあるのであります。私共は常に店内一同に對し、至誠奉仕の精神を以て、脇目もふらずせつせと向上進歩の途を歩むやう注意致してをる次

第であります。

尙注意致してをることは、人生の道を歩むに當つて成るべく無用な道草を食はぬことです。例へば人との親和を缺き、又好んで人の悪口を言ふなどは、誰のためにもならぬ人の粕を集める様なものであつて、之が無駄な道草を食ふことであります。之とは反對に人と親和し、又好んで人の美を成す風の人があります。之は綺麗な花束を集める様な仕業であります。汚い糟粕を集めた者は人に嫌はれ、美しい花束を持った人は誰にも好かれるのは之れ自然の情であります。私共はこの故に店員に對し人の美を成すことを勧めてをります。

何故私共が斯様な修養的なことを店員に向つて注意してをるかと申しますなら、店員の向上進歩は、賣店の向上進歩となり、従つて御得意様のためにもなり、會社は勿論延いては國家のためにもなるからであります。店員が良くなるのと、會社が良くなるのとは、決して反對の方向ではない、同一の方向の線に沿ふてをるのであります。

近來、人的資源、物的資源と云ふ語があります。この事變に對處するに、物質も必要であるが又人間は一層必要であります。戦争をするためには、鐵も、金も、ガソリンも勿論必要であるが銃後の各方面に亘つて、人物は一層必要であります。私共が従業員の人格の向上進歩に力を盡し

てをる所以であります。

今日、明治製菓賣店は全國及び圓ブロック内各地に於て四十九店に達し、之等賣店に出入する顧客數年千二百五十萬人を算してをります。従つて賣店に働く者の使命たるや實に重且大であります。願くば終始御同情を蒙りをる大方各位の社會的御教示と相俟つて、益々その向上發展を期してをる次第であります。

私共の心を託すべき一首を得ました。

心をも身をも鍛へてもろともに

大御寶のまことつくさん

(昭和十四年八月)

神津牧場行

一七六

去る九月四日余は神津^{かうつ}牧場長と共にハイヤーに乗じて、朝七時半輕井澤を發し、縣道によりて神津牧場に赴いた。遙に雲霧模糊の間に荒船山を望み、其の下の處が即ち牧場であると聞かされ随分高くて且つ遠い處に行くことであると感じた。

南輕井澤の平野を過ぐれば暫くは下り坂である。八町一町と稱する坂路もある。直線にすれば僅かに一町に過ぎぬ道程を、坂路なるが故に曲りくねつて八町となるといふのである。右手遙に一本岩を望む。徒歩ならばその岩の下を経て牧場に登るのが近道であるといふ。この邊今や薄の穂が見事である。

つはものの矛の林に似たるかな

穂に出でそめしひとむらす、き

自動車は小川に沿ふて下る。此邊蒟蒻の産地で、桑田の外は概ね蒟蒻畑である。西^{さい}牧村は神津牧場の屬する村なるが故に、此處の村役場に立寄りて村長に挨拶を爲す。市の萱よりは漸く登り坂となり、間もなく新道に差しかゝる。

新道の延長六軒、その工費の約八割四萬圓は神津牧場から寄附したものである。新道は未だ能く固まらず、雨後のこととて割栗石がゴロ／＼として崖崩れの處もあつて、數日前伊太利武官の操縦した自動車は故障を生じた由なるも、其後一通り道普請されたため自動車は通し得た。凡そ八合目の邊から信州志賀村に通すべき新道の開鑿に取掛つてをる數多の工夫が伐木などを片付けてをつた。このあたり展望絶佳といふことであるが惜しむらくは雲霧に遮られて、遠望はきかなかつた。

午前十時過ぎ牧場事務所の在る處に達した。此處に在る從來の山莊は和風にして、観光客數十人を容るゝに過ぎぬが新に洋風の二階建百二十五坪の山莊を建設しつつある。ベッドの數百九十二個列車内の寢臺同様で上下二段である。牧場として別に山莊を經營する必要はないが此の牧場が展望雄大なる物見山の麓に在り、常に観光客が殺到するので、便宜を供する爲である。門を設けてバスを門内に入れぬ様にするのは、牧場の本業たる牛羊の爲によくないからである。

山莊の外社宅二棟牛舎一棟を新設しつゝある。牛舎九十二坪、サイロウ附屬し牛卅二頭を收容するものである。三年計畫の初年工事であるが、それでさへ面目を一新しつゝあるから、三年後に全工事を完成するに至らば、牧場そのものの壯觀見違へる様になることと思ふ。

牛小屋も納屋もあらたに棟をあげ

まきばの里はおもかはりせり

いつとせの月日流れてうけつぎし

まきばのさかえ日立ちけるかな

日に月に改まりゆくさま見れば

つぎの五年のたのまるゝかな

神津牧場は今より五十餘年前信州志賀村の豪家神津邦太郎氏が慶應義塾に學び福澤先生の勸めによりて開始されたもので神津の名ある所以である。餘り文明に魁けたせいか、經營思はしからず、後ち田中銀之助氏の有に歸し同氏は頗る趣味を以て繼承されたるも、不幸病氣に罹り歴史

ある牧場の事のへ明治系ならば譲りたき意向なる由、仲介する人あつて引受けたのである。此の談の進捗と共に同氏は他界されたが、着々と改善しつゝある牧場の様子には、故人の靈も定めて喜ばるゝことならんと思ふ。又此の牧場の創始者たる神津氏もその指導者たりし福澤翁も同様であらんと思ふて、我々は益々努力してをる次第である。

のぼりのゆく御世にさきがけを、しくも

神津のまきばひらかれにけり

五十路經し今もまきばに福澤の

大人のゆかりの話のこれる

世にまさば大人もさこそは悦ばん

榮えさかゆるまきばのさまに

牧場の面積は五百町歩であるがこれは平面の面積であつて、傾斜面を計算すればその三倍にも達するといふ。西方に有名な物見山がある。海拔四五三九尺長野群馬兩縣の境界に聳へてをる。